

DEH-P730

CD/チューナー・WMA/MP3/AAC/WAV
対応・DSPメインユニット

取扱説明書

目次 4ページ

carrozzeria

安全のために必ずお守りください

絵表示について

この取扱説明書、取付説明書および製品への表示は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

- 表示内容を見逃して、誤った使いかたをしたときにおよぼす危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。



警告

この表示の欄は、「人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。



注意

この表示の欄は、「人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。

- お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。



このような絵表示は、注意（警告を含む）しなければならない内容です。



このような絵表示は、禁止（やってはいけないこと）の内容です。



このような絵表示は、必ず行っていただく強制の内容です。

安全上のご注意 (別冊の「安全上のご注意」もお読みください。)



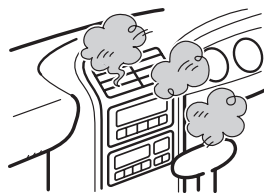
[異常時の処置]

故障のまま使用しない



画面が映らない、音が出ないなどの故障の状態で使用しないでください。必ずお買い上げの販売店にご相談ください。そのままご使用になると事故・火災・感電の原因となります。

異常のまま使用しない



万一、煙が出る・変なにおいがする・内部に異物が入った・水がかかったなど異常が起きましたら、ただちに使用を中止し、必ずお買い上げの販売店にご相談ください。そのままご使用になると事故・火災・感電の原因となります。

ヒューズは規定容量のヒューズを使用する



ヒューズを交換するときは、必ず表示された規定容量のヒューズをご使用ください。規定容量以上のヒューズを使用すると、火災の原因となります。

目次

はじめに

はじめに

- | | | |
|---|---------------------------|----|
| 1 | 各部のなまえ | 8 |
| 2 | ご使用になる前に | 10 |
| 3 | デモモードについて | 12 |
| 4 | リモコンの準備 | 12 |
| 5 | 本機のリセットについて | 13 |
| 6 | フロントパネルの
取り外しかた/取り付けかた | 14 |
| 7 | サブウーファースの設定について | 16 |
| 8 | 音の調節について | 18 |
| 9 | ガイド表示について | 19 |

ここだけ

ここだけ読めばすぐ使えます

- | | | |
|---|----------------------------|----|
| 1 | 聞きたいソース (音源) を選ぶ | 20 |
| | ● 電源を切る | |
| 2 | 内蔵CDのふだんの操作 | 22 |
| | ● CDを再生する | |
| | ● 曲を選ぶ | |
| | ● 早送り/早戻しをする | |
| | ● 音量を調節する | |
| | ● CDを取り出す | |
| 3 | WMA/MP3/AAC/WAVの
ふだんの操作 | 24 |
| | ● CD-ROMを再生する | |
| | ● フォルダースを選ぶ | |
| | ● 曲を選ぶ | |
| | ● 早送り/早戻しをする | |
| | ● 音量を調節する | |
| | ● CD-ROMを取り出す | |
| 4 | ラジオのふだんの操作 | 26 |
| | ● バンドを選ぶ | |
| | ● 放送局を選ぶ | |
| | ● 音量を調節する | |
| 5 | マルチCDのふだんの操作 | 28 |
| | ● CDを選ぶ | |
| | ● 曲を選ぶ | |
| | ● 早送り/早戻しをする | |
| | ● 音量を調節する | |

内蔵CD

内蔵CDでCDを聞く

- | | | |
|----|----------------|----|
| 1 | 聞きたい曲を直接選ぶ | 30 |
| 2 | モードの切り換えかた | 31 |
| 3 | 同じ曲を繰り返し聞く | 32 |
| 4 | いつもと違う曲順で聞く | 32 |
| 5 | 聞きたい曲をさがす | 33 |
| 6 | CD再生を一時停止する | 33 |
| 7 | CDの音質を調節する | 34 |
| 8 | 選曲方法を切り換える | 34 |
| 9 | 10曲飛びに選曲する | 35 |
| 10 | CDのタイトルを入力する | 35 |
| 11 | タイトル表示を切り換える | 36 |
| 12 | 曲名を見て聞きたい曲をさがす | 37 |

WMA/ MP3/AAC/ WAV

WMA/MP3/AAC/WAVを聞く

- | | | |
|----|--------------------------|----|
| 1 | 聞きたい曲を直接選ぶ | 38 |
| 2 | モードの切り換えかた | 39 |
| 3 | 同じ曲やフォルダースを繰り返し聞く | 40 |
| 4 | いつもと違う曲順で聞く | 40 |
| 5 | 聞きたい曲やフォルダースをさがす | 41 |
| 6 | 再生を一時停止する | 42 |
| 7 | 音質を調節する | 42 |
| 8 | 選曲方法を切り換える | 43 |
| 9 | フォルダース内の曲を10曲飛びに選曲する | 43 |
| 10 | 聞きたいフォルダースや曲を一覧
からさがす | 44 |
| 11 | タイトル表示を切り換える | 45 |

ラジオ

ラジオを聞く

- | | | |
|---|-------------------------|----|
| 1 | 放送局を1局ずつ記憶させる | 46 |
| 2 | 記憶させた放送局を呼び出す | 47 |
| 3 | モードの切り換えかた | 47 |
| 4 | 複数の放送局を自動的に記憶させる | 48 |
| 5 | 放送局名を見て
聞きたい放送局を呼び出す | 48 |
| 6 | 放送局名を選ぶ | 49 |

目次

テレビ

テレビを見る

(別売のテレビを組み合わせたときのみ)

- 1 テレビのふだんの操作 68
- 2 ファンクションモードの操作 69
- 3 チャンネル一覧から見たいチャンネルを呼び出す 69

DVD

DVDを再生する

(別売のDVDを組み合わせたときのみ)

- 1 DVDのふだんの操作 70
- 2 表示を切り換える 71
- 3 ファンクションモードの操作 72

内蔵DSP

内蔵DSPで音を調節する

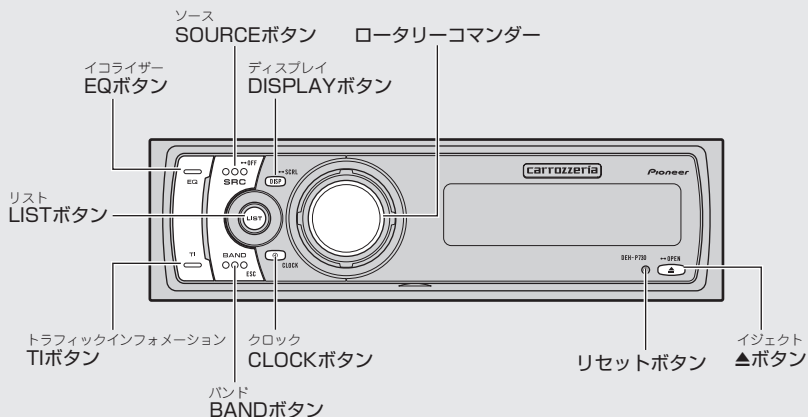
- 1 オーディオ調節のポイント 74
- 2 オーディオ調節モードの切り換えかた 75
- 3 リスニングポジションを選ぶ 76
- 4 前後左右の音量バランスを調節する 76
- 5 タイムアライメントを選ぶ 77
- 6 タイムアライメントを調節する 78
- 7 サブウーファーを使う 79
- 8 低い音を出力しないようにする 80
- 9 オートイコライザーをON/OFFする 82
- 10 イコライザーカーブを選ぶ 83
- 11 イコライザーカーブを大まかに補正する 83
- 12 イコライザーカーブを細かく調節する 84
- 13 小音量時の音にメリハリをつける 85
- 14 イメージに合った音場を再現する 86
- 15 騒音に合わせて音量を変える 87
- 16 各ソースの音量の違いをそろえる 87
- 17 オートタイムアライメント&イコライジングを行う前に 88
- 18 オートタイムアライメント&イコライジングを行う 90

別売DSP

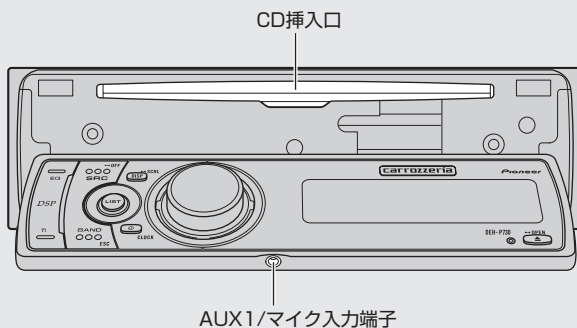
別売DSPで音を調節する

- 1 オーディオ調節のポイント 92
- 2 オーディオ調節モードの切り換え 93
- 3 前後左右の音量バランスを調節する 94
- 4 リスニングポジションを選ぶ 94
- 5 ドルビープロロジックIIを使う 95
- 6 ミュージックモードを調節する 96
- 7 SFCで音場を再現する 97
- 8 センターなしで5.1chのサラウンド感を再現する 98
- 9 ダイナミックレンジコントロールを使う 98
- 10 オリジナルの音質で聞く 99
- 11 各ソースの音量の違いをそろえる 99
- 12 オートイコライザーをON/OFFする 100
- 13 オートタイムアライメント&イコライジングを行う前に 100
- 14 オートタイムアライメント&イコライジングを行う 102
- 15 接続したスピーカーの設定をする 104
- 16 サブウーファーの位相を切り換える 105
- 17 クロスオーバー周波数を設定する 106
- 18 スピーカーレベルを調節する 107
- 19 テストトーンでスピーカーレベルを調節する 107
- 20 タイムアライメントを選ぶ 108
- 21 タイムアライメントを調節する 108
- 22 イコライザーカーブを選ぶ 109
- 23 3バンドパラメトリックイコライザーを調節する 110

本体 (クローズ時)



本体 (オープン時)

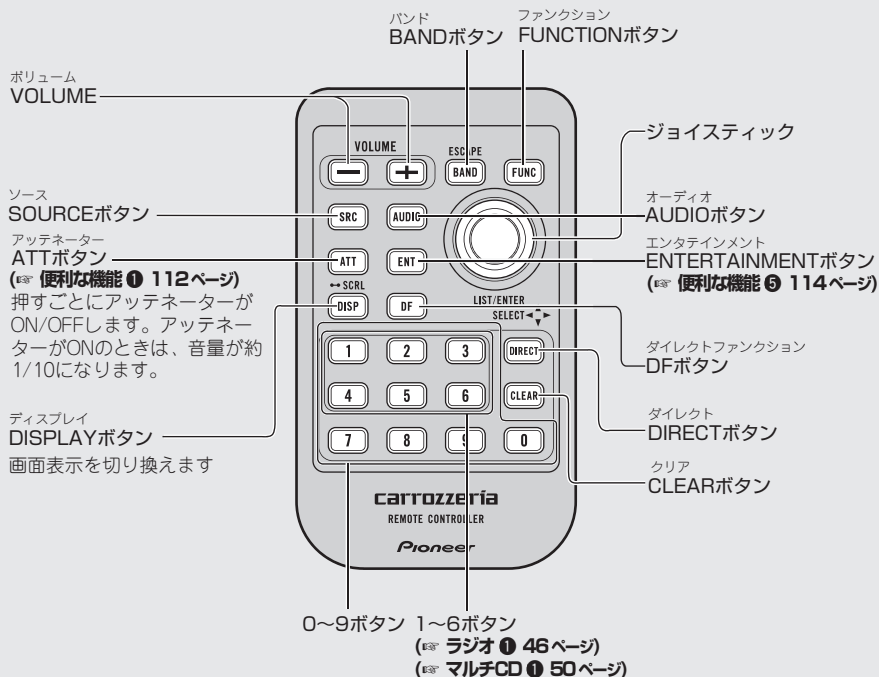


ロータリーコマンダーについて

「回す」・「中心を押す」・「上、下、左、右に操作する」の3つの動作を行うことで、本機の基本的な操作を行います。

リモコン

本体と同じなまへのボタンは、本体のボタンと同じ働きをします。



FUNCTION ボタンについて

FUNCTION ボタンを押すと、ファンクションモードを切り換えることができます。

- (※ 内蔵 CD ② 31 ページ)
- (※ WMA/MP3/AAC/WAV ② 39 ページ)
- (※ ラジオ ③ 47 ページ)
- (※ マルチ CD ⑤ 51 ページ)
- (※ iPod ④ 65 ページ)
- (※ テレビ ② 69 ページ)
- (※ DVD ⑥ 72 ページ)

DF ボタンについて

DF ボタンを押すと、ソースごとにあらかじめ記憶されている機能を直接操作することができます。

内蔵 CD ・ WMA/MP3/AAC/WAV ・ マルチ CD ・ iPod ・ DVD でポーズ、ラジオで BSM、テレビで BSSM を操作することができます。(※ 便利な機能 ③ 113 ページ)

AUDIO ボタンについて

AUDIO ボタンを押すと、オーディオ調節モードを切り換えることができます。

- (※ 内蔵 DSP ② 75 ページ)
- (※ 別売 DSP ② 93 ページ)

ジョイスティックについて

本体のロータリーコマンダーと同様の操作をすることができます(ただし、ロータリーコマンダーを回す操作には対応していません)。中心を押した場合は、本体の LIST ボタンと同じ操作になります。

本機の特長

本機は、音楽CD、WMA/MP3/AAC/WAVの再生に対応しています。

CD再生

音楽用のCD/CD-R/CD-RWを再生することができます。

WMA/MP3/AAC/WAV再生

WMA/MP3/AAC/WAVファイルが記録されたCD-R/CD-RW/CD-ROMの再生に対応しています。ISO9660のレベル1、レベル2、および拡張フォーマット（Joliet、Romeo）に準拠して記録されたディスクが再生可能です。（※ その他 130ページ）

iPodコントロール対応

当社のiPodアダプター（「CD-IB10II」）と組み合わせると、iPodを本機から操作することができます。

iPodは、米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。

WMAについて



外装箱に印刷された、Windows Media™のロゴは、本機がWMAデータの再生に対応していることを示しています。

WMAとは、「Windows Media Audio」の略で、米国Microsoft Corporationによって開発された音声圧縮技術です。WMAデータは、Windows Media Player Ver. 7以降を使用してエンコードすることができます。

Windows Media、Windowsのロゴは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

メモ

- WMAファイルをエンコードしたアプリケーションによっては、正常に動作しないことがあります。
- WMAファイルをエンコードしたWindows Media Playerのバージョンによっては、アルバム名などの文字情報が正しく表示されないことがあります。
- 画像データを含むWMAファイルを再生する場合、再生が始まるまでに時間がかかることがあります。

MP3について

本機を提供する場合、非営利目的の個人向けライセンスのみが提供されます。下記放送で、本機を使うライセンスを提供したり、いかなる形式にせよ、使う権利を意味するものではありません。下記放送で本機を使用する場合は、それぞれ固有のライセンスが必要となります。詳細は、インターネット上のホームページ<http://www.mp3licensing.com>をご覧ください。

- 営業目的、すなわち利益の発生するリアルタイム放送（地上波放送、衛星放送、ケーブルテレビを始めとするメディア）、インターネットを使った放送やデータ転送、イントラネットを始めとするネットワーク、あるいはペイオーディオやオンデマンド方式のオーディオといった電子的放送番組の配布システムなど。

AACについて

AACとは、「Advanced Audio Coding」の略で、MPEG2、MPEG4で使用される音声圧縮技術に関する基本フォーマットです。

AACデータは、作成に使用したアプリケーションによってファイル形式と拡張子が異なります。

本機では、Ver. 4.8以前のiTunesを使用してエンコードされたAACファイルの再生に対応しています。

本機は、iTunesで作成された拡張子（m4a）が付いているファイルを、AACファイルとして再生します。故障の原因となりますので、（m4a）以外の拡張子の付いたAACファイルを再生しないでください。

iTunesは、米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。

メモ

- AAC ファイルをエンコードした iTunes のバージョンによっては、正しく再生されないことがあります。
- AAC ファイルをライティングした iTunes のバージョンによっては、ファイル名などが正しく表示されないことがあります。
- 画像データを含む AAC ファイルを再生する場合、再生が始まるまでに時間がかかることがあります。
- iTunes MUSIC STORE で購入された楽曲は、CD-R/RW に記録して再生することはできません。

「CD TEXT」について

「CD TEXT」は、CD のタイトル/歌手名/曲名などの文字情報が収録された CD です。ディスクタイトル面に下記マークの付いている CD は、「CD TEXT」です。(下記マークが付いていない「CD TEXT」もあります。)



50 枚型マルチ CD プレーヤーの使用について

本機では、50 枚型マルチ CD プレーヤーの取扱説明書に記載されている 50 枚型マルチ CD プレーヤー特有の機能进行操作することはできません。本機で操作できるのは、本書に記載されている機能のみです。また、ディスクリストモードには切り換わりません。

ドルビープロロジック II について

当社の 5.1ch 対応・DSP ユニット (「DEQ-P9」) と組み合わせると、5.1 チャンネルで収録された映画/音楽の DVD を臨場感豊かに再現することができます。



Dolby、ドルビー、Pro Logic 及びダブル D 記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

BBE について

この製品は BBE Sound, Inc. からの実施権に基づき製造されています。この製品は米国 BBE Sound, Inc. の所有する特許 USP5510752 及び 5736897 を使用しています。BBE と BBE のシンボルは、BBE Sound, Inc. の登録商標です。

バッテリー上がりを防ぐために

本機をお使いになるときは、必ず車のエンジンをかけてください。

また、本機が電源 OFF のときでも、車のエンジンを止めた状態で、長時間、車のイグニッションスイッチを ON (または ACC) にしないでください。バッテリーが上がる恐れがあります。

ご注意

車のバッテリー交換などで本機に電源が供給されなくなると、本機は初期状態に戻ります。

本機が初期状態に戻ると、ラジオのプリセットメモリー、時計、オーディオ調整などの設定内容は消去されてしまいます。

ラジオのプリセットメモリーは (P. 46 ページ)、時計調整は (P. 117 ページ) を参照して、再設定してください。

オーディオ調整の設定内容などは、メモしておくことをおすすめします。

再設定の方法については、それぞれのページを参照してください。

はじめに 3 デモモードについて

本機には、リバースモードとフィーチャーデモの2つのデモモードがあります。

リバースモードについて

リバースモードは、各ソースを聞いているときに約30秒間操作しないと画面が自動的に反転する機能です。反転は、10秒間隔で行われます。

リバースモードを解除したいときは、車のイグニッションスイッチがON(またはACC)のときに本機の電源をOFFにしてBANDボタンを押してください。もう一度押すと、ONになります。

メモ

- エンタテインメント表示の中には、リバースモードをONにしても反転しないものもあります。

フィーチャーデモについて

フィーチャーデモは、本機が電源OFFのときに、各ソースや本機の機能(エンタテインメント、SFCなど)の画面を表示して紹介する機能です。

フィーチャーデモを解除したいときは、フィーチャーデモが表示されているときにDISPLAYボタンを押してください。もう一度押すと、デモが始まります。

車のエンジンを止めた状態で、フィーチャーデモを長時間表示すると、バッテリー上がりの原因になります。

メモ

- 赤リード線(アクセサリ電源)は、常に車のバッテリーから電源を供給する電源回路には接続しないでください。車のイグニッションスイッチと本機の電源をOFFにしても、フィーチャーデモが表示され、バッテリー上がりの原因になります。

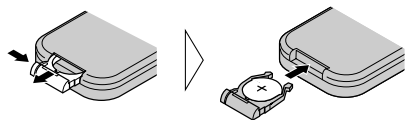
はじめに 4 リモコンの準備

付属のリモコンを使うための準備です。

リモコンに電池を入れる

リモコンを裏返し、電池ホルダーを取り出して、リチウム電池(CR2025)を⊕側を上にしてセットします。

初めてお使いになるときは、電池ホルダー一部から出ているフィルムを引き抜いてください。電池があらかじめセットされていますので、すぐにお使いいただくことができます。



リモコンの操作可能範囲が狭くなったときは、新しい電池と交換してください。

リモコンの取り扱い上のご注意

- リモコンを直射日光の当たるところに長時間放置すると、高温により変形・変色したり、故障する恐れがあります。使用しないときは、直射日光の当たらないところに保管してください。
- 本体に直射日光が当たっていると、リモコンを操作できないときがあります。このようなときは、本体にリモコンを近づけて操作してください。
- 付属の電池は充電できません。
- リモコンを長い間使わないときは、電池を取り出してください。取り出した電池は、幼児の手の届かないところに保管してください。
- 電池の液もれが起こったときは、内部に付いた液をよくふき取ってから、新しい電池と入れ換えてください。
- 不要となった電池を廃棄する場合は、各地方自治体の指示(条例)に従って処理してください。

本機を初期設定状態に戻すことができます。

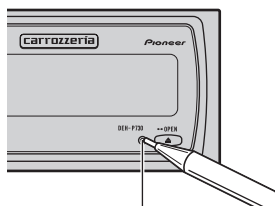
リセットボタンについて

リセットボタンを押すと、本機のマイコンが初期設定状態（ご購入直後の状態）に戻ります。次のようなときに、リセットボタンを押してください。

- 接続が終わった後。
 - 本機が正しく動作しないとき。
 - ディスプレイが正しく表示されないとき。
- リセットボタンを押すと、本機の記憶（時計やラジオのプリセットなど）が消去されます。もう一度、セットしなおしてください。

ご注意

本機をリセットする前に、フロントパネルを開けておいてください。（CDを挿入口に差したままにしないでください。）

1 本機をリセットする**ペン先などでリセットボタンを押す**

リセットボタン

メモ

- フロントパネルを開けたままリセットすると、自動的にフロントパネルが閉じます。

はじめに

6

フロントパネルの取り外しかた/取り付けかた

盗難抑制のため、フロントパネルを取り外すことができます(デタッチャブル機構)。

フロントパネルの取り扱い上のご注意

- フロントパネルを無理に引いて取り外さないでください。
- 取り外し、取り付けの際に、ディスプレイやボタンを強く持たないでください。
- 落とす、ぶつけるなどの強い衝撃を与えないでください。故障することがあります。
- 分解しないでください。
- ペンジンやシンナーなどの揮発性の薬品をかけないでください。
- 汚れたときは、きれいな乾いた布でふいてください。その場合に、フロントパネルおよび本体の端子部を触らないようにしてください。接触不良の原因となることがあります。

フロントパネルの取り外しかた

1 フロントパネルを開ける

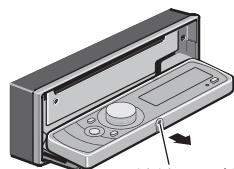
▲ ボタンを2秒以上押す

フロントパネルが開きます。

2 フロントパネルを取り外す

リリース部を持ち、フロントパネルを手前に引く

フロントパネルが外れます。



リリース部

数秒後に中ボタンが自動的に閉まります。このとき、指などを挟み込まないように注意してください。

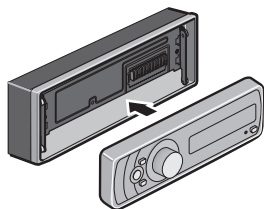
3 フロントパネルを保管する

付属のフロントパネル保護ケース(フェイスパネルケース)にフロントパネルを入れる

フロントパネルの取り付けかた

1 フロントパネルを取り付ける

フロントパネルを本体に“カチッ”と音がするまで押し込む

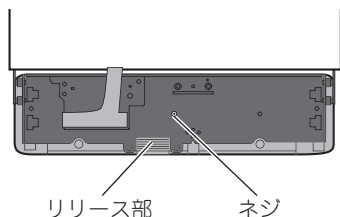


フロントパネルの固定ネジについて

フロントパネルを取り外す必要のない場合は、付属の固定ネジでフロントパネルを固定して、お使いください。

1 フロントパネルを固定する

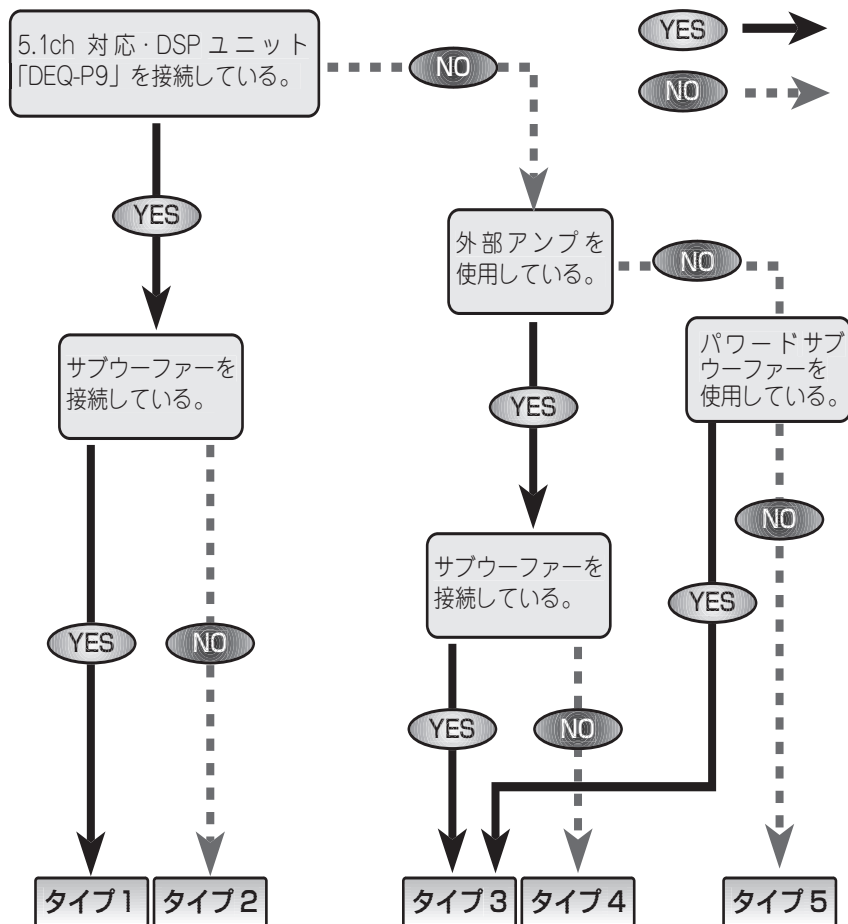
フロントパネルを開けた状態で、固定ネジを使って、フロントパネルを中ブタに取り付ける



サブウーファーの設定について

本機にサブウーファーを組み合わせている場合、本機を使ってサブウーファーの設定ができます。

サブウーファーの接続方法やシステムによって、サブウーファーの設定方法は大きく異なります。次の表に従い、お手持ちのシステムに合わせて、サブウーファーを正しく設定してください。



タイプ1

- ※入力レベルコントロール付きパワーアンプを接続している場合は、入力レベルコントロールを「推奨位置」に設定する。
- ※ローパスフィルター付きパワーアンプの場合は、ローパスフィルターをOFFに設定する。
- ※パワードサブウーファーの場合は、遮断周波数を最も高い値に設定する。

1. リスニングポジションをF/LまたはF/Rに設定する
(☞別売DSP ④ 94ページ)
2. スピーカー設定モードで、スピーカーの有無を設定する(サブウーファーはONに設定)
(☞別売DSP ⑤ 104ページ)
3. Auto TA & EQを行う
(☞別売DSP ⑩ 102ページ)
4. 微調整が必要な場合は、各メニューで微調整を行う

タイプ2

1. リスニングポジションをF/LまたはF/Rに設定する
(☞別売DSP ④ 94ページ)
2. スピーカー設定モードで、スピーカーの有無を設定する(サブウーファーはOFFに設定)
(☞別売DSP ⑤ 104ページ)
3. Auto TA & EQを行う
(☞別売DSP ⑩ 102ページ)
4. 微調整が必要な場合は、各メニューで微調整を行う

タイプ3

- ※入力レベルコントロール付きパワーアンプを接続している場合は、入力レベルコントロールを「推奨位置」に設定する。
- ※ローパスフィルター付きパワーアンプの場合は、ローパスフィルターをOFFに設定する。
- ※パワードサブウーファーの場合は、遮断周波数を最も高い値に設定する。

1. 初期設定モードで、RCA出力設定をSubwooferにする
(☞便利な機能 ⑥ 121ページ)
2. リスニングポジションをF/LまたはF/Rに設定する
(☞内蔵DSP ③ 76ページ)
3. Auto TA & EQを行う
(☞内蔵DSP ⑩ 90ページ)
4. 微調整が必要な場合は、各メニューで微調整を行う

タイプ4

- ※入力レベルコントロール付きパワーアンプを接続している場合は、入力レベルコントロールを「推奨位置」に設定する。
- ※ローパスフィルター付きパワーアンプの場合は、ローパスフィルターをOFFに設定する。

1. 初期設定モードで、RCA出力設定をRearにする
(☞便利な機能 ⑥ 121ページ)
2. リスニングポジションをF/LまたはF/Rに設定する
(☞内蔵DSP ③ 76ページ)
3. Auto TA & EQを行う
(☞内蔵DSP ⑩ 90ページ)
4. 微調整が必要な場合は、各メニューで微調整を行う

タイプ5

1. 初期設定モードで、RCA出力設定をRearにする
(☞便利な機能 ⑥ 121ページ)
2. リスニングポジションをF/LまたはF/Rに設定する
(☞内蔵DSP ③ 76ページ)
3. Auto TA & EQを行う
(☞内蔵DSP ⑩ 90ページ)
4. 微調整が必要な場合は、各メニューで微調整を行う

音の調節について

本機に5.1ch対応・DSPユニット「DEQ-P9」を接続した場合、本機に内蔵のオーディオ・DSP調節機能の代わりに、「DEQ-P9」に内蔵のオーディオ・DSP調節機能が使用できます。

本機に内蔵のオーディオ・DSP調節機能で使用できる機能と、「DEQ-P9」に接続したときに使用できる機能は次の対応表のとおりです。

	内蔵オーディオ ・DSP	DEQ-P9
音量バランス調節	○	○
タイムアライメント選択	○	○
タイムアライメント調節	○	○
ラウドネス	○	×
イコライザー	○	○
イコライザーニュアンス調節	○	×
サブウーファー設定	○	×
サブウーファー調節	○	×
サブウーファースロープ調節	○	×
フロントハイパスフィルター設定	○	×
フロントハイパスフィルター調節	○	×
リアハイパスフィルター設定	○	×
リアハイパスフィルター調節	○	×
SFC	○	○
ASL	○	×
SLA	○	○
リスニングポジション	○	○
ドルビープロロジックII	×	○
ドルビープロロジックIIミュージックモード調節	×	○
ダウンミックス	×	○
DRC	×	○
ダイレクト	×	○
スピーカー設定	×	○
クロスオーバー周波数設定	×	○
スピーカーレベル設定	×	○
テストトーン	×	○
3バンドパラメトリックイコライザー	×	○
オートタイムアライメント&イコライジング	○	○

メモ

- 効果的に音の調節を行うには (E38) **内蔵DSP ① 74ページ** または (E38) **別売DSP ① 92ページ**
- DSPとは、「Digital Signal Processor」の略です。DSPを使うことで、細かな音の調節が可能になります。

ガイド表示について

本機の操作を行っているとき、ディスプレイを見て操作ができるように、ディスプレイにガイド表示が出ます。



動作可能なロータリーコマンドアの操作が表示されます。

表示の例

内容



ロータリーコマンドアの中心を押して操作できます。



上下左右のうち点灯している方向にロータリーコマンドアを押して操作できます。



ロータリーコマンドアを回して操作できます。

ここだけで

1

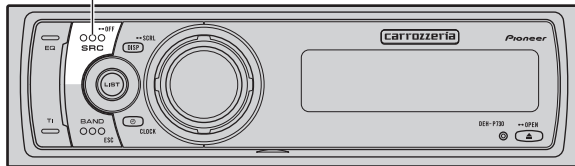
聞きたいソース (音源) を選ぶ

● 電源を切る

聞きたいソース (音源) に切り換えることができます。

この操作で使用するボタン

ソース
SOURCEボタン



テレビ、1枚型DVD、マルチDVD、AVを接続したときは

操作のしかたは、それぞれの取扱説明書をご覧ください。

組み合わせ例

ソース	製品の型番
テレビ	「AVX-P7」
1枚型DVD	「SDV-P7」
マルチDVD	「XDV-P70」
AV	「AVX-P7」

上記の製品の取扱説明書では、本機以外の製品を例にして、操作説明が行われている場合があります。その製品と対応しているボタンで操作を行ってください。

1 ソースを切り換える

SOURCE ボタンを押す

SOURCE ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

ラジオ (FM/AM)
↓
テレビ (別売)
↓
AV (別売)
↓
マルチDVD/1枚型DVD (別売)
↓
内蔵CD
↓
マルチCD (別売)
↓
iPod (別売)
↓
External 1
(エクスターナルユニット 1) (別売)
↓
External 2
(エクスターナルユニット 2) (別売)
↓
AUX1 (外部機器 1) (別売)
↓
AUX2 (外部機器 2) (別売)
↓
ラジオに戻る

2 電源を切る

SOURCE ボタンを 1 秒以上押す

本機の電源が切れます。

メモ

- 接続していないソースには切り換わりません。
- ディスクがセットされていないときは、そのソースには切り換わりません。
- AUX (外部機器) の設定 (☞ **便利な機能 118 ページ**) を ON にしないと、AUX1/AUX2 には切り換わりません。
- 本機の青リード線 (アンテナコントロール) に車側のオートアンテナコントロール端子を接続している場合、ソースをラジオにすると車に装備されているオートアンテナがのびます。
- AV ソースを持つユニット (「AVX-P7」など) を本機に接続して AV ソースを設定している場合に、AV 入力ソースに切り換えることができます。
- External (エクスターナルユニット) とは、本機がソースとして対応していないパイオニア製品 (将来発売される製品など) の基本的な機能をコントロールできるように用意している特別なソースです。本機では、2 台の External (エクスターナルユニット) をコントロールすることができますが、External 1、External 2 のどちらに切り換えても “External” が表示されます。2 台の External (エクスターナルユニット) を接続した場合、本機によって、External 1、External 2 が自動的に設定されます。

ここだけで

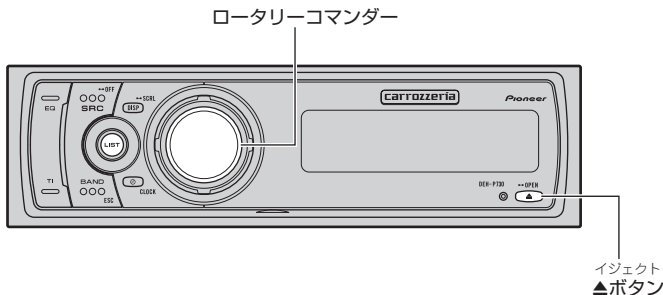
2

内蔵CDのふだんの操作

● CDを再生する ● 曲を選ぶ

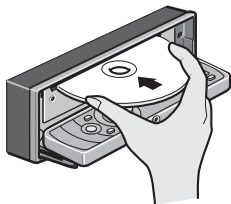
ここだけの操作で、CDを聞くことができます。

この操作で使用するボタン



1 CDを再生する

▲ボタンを押して、フロントパネルを開き、CDをCD挿入口に差し込む



タイトル面を上にして差し込みます。

ご注意

CDシングル(8 cm CD)もアダプターなしでセットできます。アダプターは絶対に使用しないでください。



自動的にフロントパネルが閉まり、CDの再生が始まります。

2 聞きたい曲を選ぶ (または早送り/早戻し)

ロータリーコマンドーを左右に操作する

右: 次の曲を選ぶとき(または早送り)
左: 前の曲を選ぶとき(または早戻し)

選曲と早送り/早戻しの使い分け

聞きたい曲の選択	0.5秒未満操作
曲の早送り/早戻し ※1	0.5秒以上操作し 続けている間

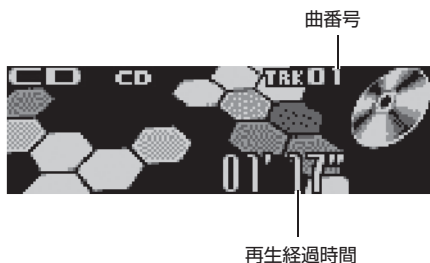
※1 選曲方法をラフサーチに設定した場合は、10曲飛びに選曲します。

(内蔵CD 34ページ)

● 早送り/早戻しをする ● 音量を調節する ● CDを取り出す

トラックサーチ / 早送り/早戻し / 音量調節

画面表示例



すぐ使えます
ここだけ読めば

3 音量を調節する

ロータリーコマンドを回す

右回し：大きくするとき

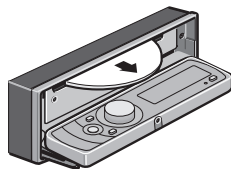
左回し：小さくするとき

- 音量は、0～62の範囲で調節できます。
- 約4秒間、音量が表示されます。

4 CDを取り出して CD再生をやめる

▲ ボタンを押す

自動的にフロントパネルが開き、CDが出てきます。



- 出てきたCDはすぐに取り出して、保管してください。



▲ ボタンを押す

フロントパネルが閉まります。

- CD挿入口にゴミやホコリが入るのを防ぐため、フロントパネルを閉めてください。

メモ

- CDをセットしたまま電源をOFFにしたり、他のソース（ラジオやマルチCDなど）に切り換えることもできます。（**ここだけで① 20ページ**）
- CD挿入口には、CD以外のものを絶対に入れないでください。故障の原因となります。
- ディスクを挿入すると、ファイル形式を読みとる間、“Format read”と表示されます。

ここだけで

3

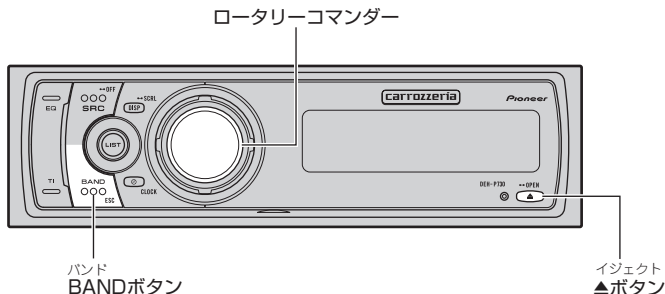
WMA/MP3/AAC/WAVのふだんの操作

●CD-ROM

ここだけの操作で、WMA/MP3/AAC/WAVを聞くことができます。

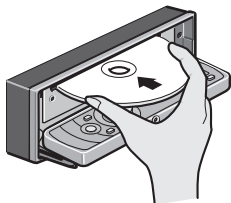
再生できるWMA/MP3/AAC/WAVについては (P.38) **その他② 130ページ**

この操作で使用するボタン



1 CD-ROMを再生する

▲ボタンを押して、フロントパネルを開き、CD-ROMをCD挿入口に差し込む



タイトル面を上にして差し込みます。



自動的にフロントパネルが閉まり、CD-ROMの再生が始まります。

3 聞きたい曲を選ぶ (または早送り/早戻し)

ロータリーコマンドーを左右に操作する

右：次の曲を選ぶとき (または早送り)

左：前の曲を選ぶとき (または早戻し)

選曲と早送り/早戻しの使い分け

聞きたい曲の選択	0.5秒未満操作
曲の早送り/早戻し ※1	0.5秒以上操作し 続けている間

※1 選曲方法をラフサーチに設定した場合は、10曲飛びに選曲します。

(P.38) **WMA/MP3/AAC/WAV⑥ 43ページ**

●WMA/MP3/AAC/WAVファイルを早送り/早戻ししているときは、音声は出力されません。

2 聞きたいフォルダーを選ぶ

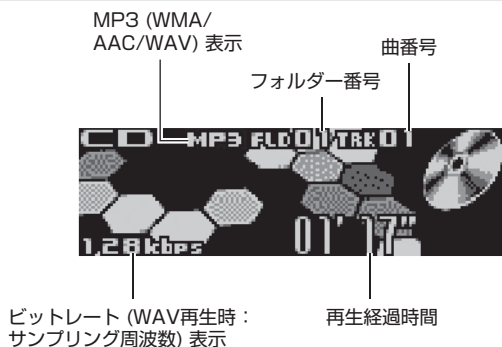
ロータリーコマンドーを上下に操作する

上：次のフォルダーを選ぶとき

下：前のフォルダーを選ぶとき

●BANDボタンを2秒以上押すと、フォルダー01 (ROOT)に戻ります。ただし、フォルダー01 (ROOT)にファイルがない場合は、次のフォルダーから再生が始まります。

画面表示例



4 音量を調節する

ロータリーコマンドを回す

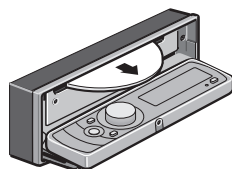
右回し：大きくするとき
左回し：小さくするとき

- 音量は、0～62の範囲で調節できます。
- 約4秒間、音量が表示されます。

5 CD-ROMを取り出して CD-ROM再生をやめる

▲ ボタンを押す

自動的にフロントパネルが開き、CD-ROMが出てきます。



- 出てきたCD-ROMはすぐに取り出して、保管してください。



▲ ボタンを押す

フロントパネルが閉まります。

- CD挿入口にゴミやホコリが入るのを防ぐため、フロントパネルを開けてください。

メモ

- CD-ROMをセットしたまま電源をOFFにしたり、他のソース（ラジオやマルチCDなど）に切り換えることもできます。（**ここだけで① 20ページ**）
- CD挿入口には、CD以外のものを絶対に入れないでください。故障の原因となります。
- ディスクを挿入すると、ファイル形式を読みとる間、“Format read”と表示されます。
- VBR（可変ビットレート）で録音されたファイルを早送り/早戻しすると、再生経過時間が正しく表示されないことがあります。

WMA/MP3/AAC/WAVと音楽データの切り換えについて

- WMA/MP3/AAC/WAV ファイルと音楽データが混在しているディスクの場合、BANDボタンを押して、WMA/MP3/AAC/WAV ファイルと音楽データを切り換えて再生することができます。WMA/MP3/AAC/WAV ファイルと音楽データを切り換えた場合、再生は一番はじめの曲から始まります。

ここだけで

4

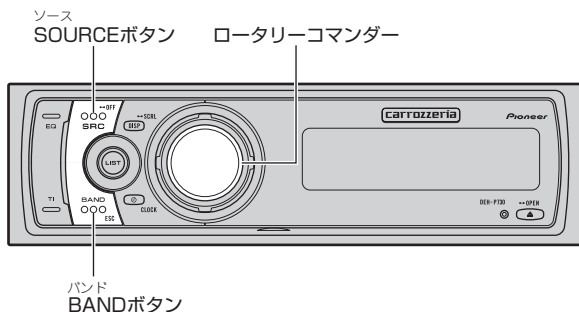
ラジオのふだんの操作

● バンドを選ぶ

● 放送局を選ぶ

ここだけの操作で、ラジオを聞くことができます。

この操作で使用するボタン



1 ソースをラジオにする

SOURCE ボタンを押す

ラジオを受信します。

- ステレオ放送を受信すると、ステレオ表示が点灯します。

2 バンドを選ぶ

BAND ボタンを押す

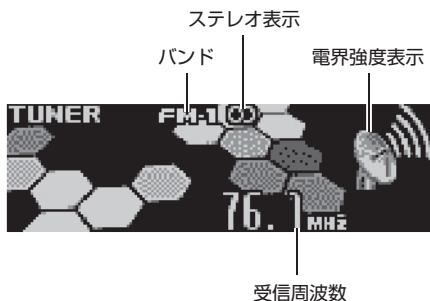
ボタンを押すごとに、次のようにバンドが切り換わります。

FM-1 → FM-2 → AM-1 → AM-2
→ FM-1 に戻る

- バンドごとに放送局を6局ずつ記憶できます。(参照 ラジオ① 4 ⑤ 46、48ページ)
- バンド1とバンド2を切り換えて使うことで、より多くの放送局を記憶できます。例えば、バンド1にはふだんよく聞く放送局を記憶させておきます。旅行などで、どんな放送局があるのかわからない地域に行ったときに、バンド2に切り換えてBSM (参照 ラジオ④ 48ページ) を使うと便利です。

● 音量を調節する

画面表示例



3 放送局を選局する

ロータリーコマンドナーを左右に操作する

右：高い周波数の放送局を選局するとき
左：低い周波数の放送局を選局するとき

選局方法の使い分け

手動選局 (1ステップずつ)	0.5秒未満操作
自動選局	0.5秒以上操作

- 0.5秒以上操作し続けている間、途中の放送局をとばすことができます。ボタンを離れたところから自動選局を開始します。
- 電波の強い放送局を選局するには自動選局を、電波の弱い放送局を選局するには手動選局をおすすめします。

4 音量を調節する

ロータリーコマンドナーを回す

右回し：大きくするとき
左回し：小さくするとき

- 音量は、0～62の範囲で調節できます。
- 約4秒間、音量が表示されます。

5 ラジオの受信をやめる

他のソースに切り換えるか、電源をOFFにする (E3 ここだけで① 20ページ)

ここだけで

5

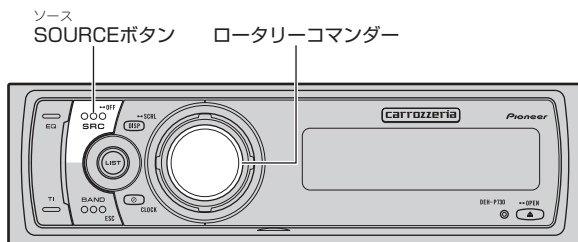
マルチCDのふだんの操作

● CDを選ぶ

● 曲を選ぶ

ここだけの操作で、別売のマルチCDプレーヤーでCDを聞くことができます。

この操作で使用するボタン



1 ソースを マルチCDにする

SOURCE ボタンを押す

マルチCDの再生が始まります。

2 聞きたいCDを選ぶ

ロータリーコマンダーを上下に操作する

上：次のCDを選ぶとき

下：前のCDを選ぶとき

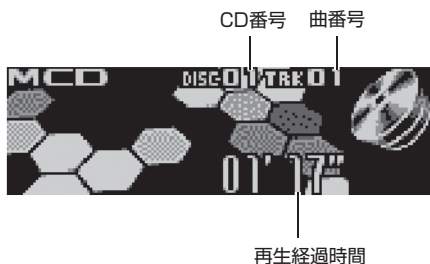
メモ

- マルチCDが準備動作（CDの有無の確認やCDの情報の読み込みなど）をしている場合があります。このとき、ソースをマルチCDに切り換えると“Ready”と表示されます。
- マルチCD再生中にマルチCDからマガジンを取り出すと、“No Magazine”と表示されます。

● 早送り/早戻しをする ● 音量を調節する

ディスクサーチ / トラックサーチ / 早送り/早戻し / 音量調節

画面表示例



すぐ使えます
ここだけ読めば

3 聞きたい曲を選ぶ (または早送り/早戻し)

ロータリーコマンドを左右に操作する

右：次の曲を選ぶとき (または早送り)

左：前の曲を選ぶとき (または早戻し)

選曲と早送り/早戻しの使い分け

聞きたい曲の選択	0.5秒未満操作
曲の早送り/早戻し	0.5秒以上操作し 続けている間

4 音量を調節する

ロータリーコマンドを回す

右回し：大きくするとき

左回し：小さくするとき

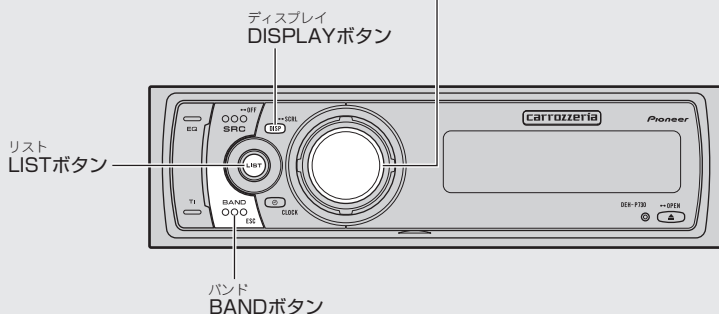
- 音量は、0～62の範囲で調節できます。
- 約4秒間、音量が表示されます。

5 マルチCD再生を やめる

他のソースに切り換えるか、電源を
OFFにする (E 20ページ)

この操作で使用するボタン

ロータリーコマンドー



内蔵CD

1

聞きたい曲を直接選ぶ

ダイレクトサーチ

リモコンを使って、聞きたい曲を直接選ぶことができます。

1 曲番号入力画面を表示する

リモコンのDIRECT ボタンを押す
(はじめに① 9ページ)

3 聞きたい曲を再生する

リモコンのDIRECT ボタンを押す
選んだ曲が再生されます。

2 聞きたい曲の番号を入力する

リモコンの0～9 ボタンを押す



メモ

- 曲番号入力画面は、約8秒間何も操作しないと自動的に解除されます。
- リモコンのCLEAR ボタンを押すと、入力した番号を消去することができます。

モードの切り換えかた

ふだんの操作以外の便利な機能を使うときは、モードを切り換えて操作します。

1 メインメニューを表示させる

ロータリーコマンドーを押す

「FUNCTION」、「AUDIO」、「ENTERTAINMENT」が表示されます。

2 ファンクションモードにする

ロータリーコマンドーを回して「FUNCTION」を選び、ロータリーコマンドーを押す

3 ファンクションモードを切り換える

ロータリーコマンドーを回す

ロータリーコマンドーを回すごとに次のように切り換わります。(各モードの操作は、それぞれのモードの説明を参照してください。)

再生範囲切換モード (内蔵CD③ 32ページ)



ランダムモード (内蔵CD④ 32ページ)



スキャンモード (内蔵CD⑤ 33ページ)



ポーズモード (内蔵CD⑥ 33ページ)



COMP切り換えモード

(内蔵CD⑦ 34ページ)



選曲方法切り換えモード

(内蔵CD⑧ 34ページ)



タイトル入力モード

(内蔵CD⑩ 35ページ)



再生範囲切換モードに戻る

4 ファンクションモードを解除する

BAND ボタンを押す

リモコンの場合

FUNCTION ボタンを押すごとに、ファンクションモードが切り換わります。

メモ

- ファンクションモードは、約30秒間何も操作しないと自動的に解除されます。ただし、タイトル入力モードを選んでいる場合、自動では解除されません。
- 「CD TEXT」には、タイトルを入力することはできません。「CD TEXT」を再生しているときは、タイトル入力モードには切り換わりません。

内蔵CD

3

同じ曲を 繰り返し聞く

リピート再生

今聞いている曲を繰り返し聞くことができます。

1

再生範囲切替モードにする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
( 内蔵CD② 31 ページ)

2

リピート再生する範囲を選ぶ

ロータリーコマンドーを押す

ロータリーコマンドーを押すごとにリピート
範囲が次のように切り換わります。

- Track repeat (トラックリピート)
- Disc repeat (ディスクリピート)
- Track repeatに戻る



内蔵CD

4

いつもと違う曲順で 聞く

ランダム再生

選曲をCDプレーヤーにまかせて、いつもと違
う曲順 (ランダム) で再生することができます。

1

ランダムモードにする

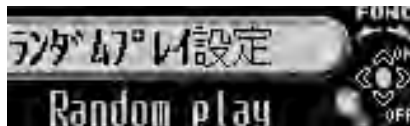
ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
( 内蔵CD② 31 ページ)

2

ランダム再生を ON にする

ロータリーコマンドーを押す

ロータリーコマンドーを押すごとに ON/OFF
します。



次の曲から、ランダムに選曲します。

内蔵CD

5

聞きたい曲をさがす

スキャン再生

曲の出だし部分だけを、約10秒ずつ次々に聞くことができます。

1 スキャンモードにする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
( 内蔵CD② 31ページ)

2 スキャン再生を始める

ロータリーコマンドーを押す



曲の出だしの約10秒間が次々に再生されます。

3 聞きたい曲が再生されたら スキャン再生をOFFにする

スキャンモードのときにロータリー
コマンドーを押す

確認

ファンクションモードが解除されていたら、まずもう一度スキャンモードにしてください。次に、スキャン再生をOFFにします。

メモ

- スキャン再生を始めた曲まで戻ると、スキャン再生は解除されます。

内蔵CD

6

CD再生を一時停止する

ポーズ

CD再生を一時停止することができます。

1 ポーズモードにする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
( 内蔵CD② 31ページ)

2 CD再生を一時停止する

ロータリーコマンドーを押す

ロータリーコマンドーを押すごとにON/OFFします。



内蔵CD

7

CDの音質を調節する

COMP / BMX

大きな音と小さな音の音量差を小さくしたり、残響音を補正することができます。

COMPについて

COMPとは、「COMPression(コンプレッション)」の略です。大きな音を抑え、小さな音を押し上げて、大きな音と小さな音の音量差を小さくする機能です。この機能は、小さな音が聞きとりにくいようなときにお使いになると便利です。

BMXについて

BMXとは、「BIT Metrix(ビットメトリックス)」の略です。音楽の残響音を補正し、自然な広がりを持った音質に改善する機能です。WMA/MP3/AAC/WAVなどの残響音の成分を補正し、本来の音質を再現することができます。

1 COMP切り換えモードにする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ

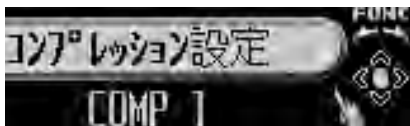
(153 内蔵CD② 31ページ)

2 機能を選ぶ

ロータリーコマンドーを押す

ロータリーコマンドーを押すごとに次のように切り換わります。

COMP/BMX OFF	→	COMP 1
↑		↓
BMX 2		COMP 2
↑		↓
BMX 1	←	COMP/BMX OFF



現在のCOMP/BMXの状態が表示されます。

メモ

- COMP、BMXともに1より2の方が効果が大きくなります。

内蔵CD

8

選曲方法を切り換える

ロータリーコマンドーを左右に操作し続けたときに、早送り/早戻しにするか、10曲飛びに選曲するラフサーチにするかを選ぶことができます。

1 選曲方法切り換えモードにする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ

(153 内蔵CD② 31ページ)

2 選曲方法を選ぶ

ロータリーコマンドーを押す

ロータリーコマンドーを押すごとに次のように切り換わります。

FF/REV (早送り/早戻し)
→ Rough search (ラフサーチ)
→ FF/REVに戻る



内蔵CD

9

10曲飛びに 選曲する

ラフサーチ

収録されている曲が10曲を超えるディスクの場合、10曲飛びに選曲することができます。

1 選曲方法切り換えモード にしてラフサーチを選ぶ

( 内蔵CD⑨)

2 聞きたい曲を選ぶ

ロータリーコマンドを左右に0.5秒以上操作する

右：10曲先の曲を選ぶとき
左：10曲前の曲を選ぶとき

メモ

- 10曲以下のディスクでラフサーチを行うと、最初の曲または最後の曲が選曲されます。ラフサーチ後に、残りの曲が10曲以下になった場合も同様です。

内蔵CD

10

CDのタイトルを 入力する

ディスクタイトル入力

CDのタイトルを入力することができます。また、入力したタイトルをディスプレイに表示できます。

タイトル入力について

タイトル表示は、CDのタイトルを入力して記憶させておき、ディスプレイに表示させる機能です。タイトルを入力しておく、CD再生時に入力したタイトルを表示できます。

タイトルの記憶のしかたは、マルチCDと同じです。(F3 マルチCD⑩ 58ページ)

- タイトルは、10文字まで入力できます。
- 内蔵CDのタイトルは、48枚分の記憶ができます。
- 48枚を超えたときは、いちばん古いCDの記憶が消されて、新しいCDが記憶されます。
- タイトルを記憶させたCDをマルチCDにセットしたときは、ディスプレイにタイトルを表示させることができます。
- マルチCDを組み合わせると、最大100枚分のタイトルを記憶することができます。
- 「CD TEXT」(F3 はじめに② 11ページ)には、タイトル入力することはできません。「CD TEXT」を再生しているときは、タイトル入力モードには切り換わりません。

メモ

- DISPLAYボタンを押すと、入力したタイトルを表示することができます。もう一度ボタンを押すと、タイトル表示は消えます。
- タイトルを入力していないCDで表示を切り換えると、タイトル表示は空白になります。

タイトル表示を切り換える

タイトル表示 / タイトルスクロール

「CD TEXT」(E38 はじめに④ 11 ページ)再生中に、トラックタイトルのほかにディスクタイトルやディスクアーティストネームを表示させることができます。全角で7文字、半角で14文字まで一度に表示することができます。また、隠れている文字をスクロール表示で見することもできます。

タイトル表示について

本機はカナやアルファベットなどの表示だけでなく、ひらがなや漢字などの表示にも対応しています。「CD TEXT」に漢字などの文字情報が収録されている場合でも、本機ではそのまま表示することができます。

1 表示を切り換える

DISPLAY ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

再生経過時間表示



ディスクタイトルと再生経過時間表示



ディスクアーティストネームと再生経過時間表示



トラックタイトルと再生経過時間表示



トラックアーティストネームと再生経過時間表示



ディスクタイトルとディスクアーティストネーム



トラックタイトルとトラックアーティストネーム



再生経過時間表示に戻る

隠れている文字を表示させるには

DISPLAY ボタンを2秒以上押す

隠れている文字が順番に表示されます。

メモ

- 初期設定で連続スクロール機能をONにした場合、タイトルが繰り返しスクロールして表示されます。タイトルの最初の文字を表示させて、再びスクロールさせたいときは、DISPLAY ボタンを2秒以上押してください。連続スクロールについては(E38 便利な機能④ 125 ページ)

メモ

- トラックアーティストネーム(歌手名)などが収録されていないCDで表示を切り換えると、タイトル表示は空白になります。

曲名を見て聞きたい曲をさがす

トラックリスト

「CD TEXT」再生中に、曲名の一覧（トラックリスト）を見ながら聞きたい曲を選べます。

1 トラックリストモードにする

LIST ボタンを押す

メモ

- 再生中の曲は反転表示されます。
- 「CD TEXT」に、曲名が収録されていないときは、“No T. Title”が表示されます。
- ロータリーコマンドを上下に操作して、聞きたい曲を選ぶこともできます。
- トラックリストモードは、8秒間何も操作しないと自動的に解除されます。

2 聞きたい曲を選ぶ

ロータリーコマンドを回す

右回し：次の曲を選ぶとき

左回し：前の曲を選ぶとき



ロータリーコマンドを回すごとに曲名が切り換わります。

3 聞きたい曲を再生する

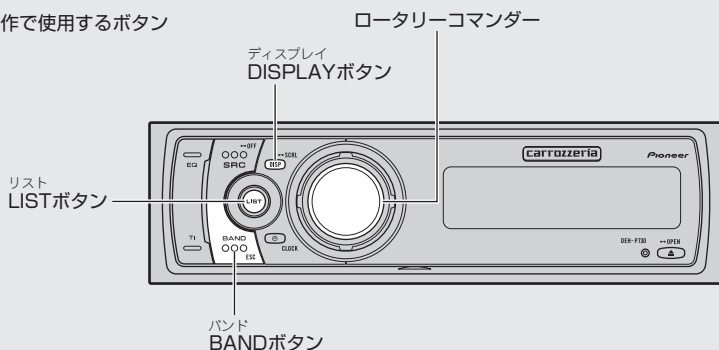
聞きたい曲が中央に表示されているときに、ロータリーコマンドを押す

選んだ曲が再生されます。

4 トラックリストモードを解除する

BAND ボタンを押す

この操作で使用するボタン



WMA/MP3/
AAC/WAV

1

聞きたい曲を直接選ぶ

ダイレクトサーチ

リモコンを使って、今聞いているフォルダー内で聞きたい曲を直接選ぶことができます。

1 曲番号入力画面を表示する

リモコンのDIRECT ボタンを押す
(☞ はじめに① 9 ページ)

3 聞きたい曲を再生する

リモコンのDIRECT ボタンを押す
選んだ曲が再生されます。

2 聞きたい曲の番号を入力する

リモコンの0~9 ボタンを押す



メモ

- 曲番号入力画面は、約8秒何も操作しないと自動的に解除されます。
- リモコンのCLEAR ボタンを押すと、入力した番号を消去することができます。

ふだんの操作以外の便利な機能を使うときは、モードを切り換えて操作します。

1 メインメニューにする

ロータリーコマンドを押す

「FUNCTION」、「AUDIO」、「ENTERTAINMENT」が表示されます。

2 ファンクションモードにする

ロータリーコマンドを回して「FUNCTION」を選び、ロータリーコマンドを押す

3 ファンクションモードを切り換える

ロータリーコマンドを回す

ロータリーコマンドを回すごとに次のように切り換わります。(各モードの操作は、それぞれのモードの説明を参照してください。)

再生範囲切換モード

(▶ WMA/MP3/AAC/WAV ③ 40 ページ)



ランダムモード

(▶ WMA/MP3/AAC/WAV ④ 40 ページ)



スキャンモード

(▶ WMA/MP3/AAC/WAV ⑤ 41 ページ)



ポーズモード

(▶ WMA/MP3/AAC/WAV ⑥ 42 ページ)



COMP 切り換えモード

(▶ WMA/MP3/AAC/WAV ⑦ 42 ページ)



選曲方法切り換えモード

(▶ WMA/MP3/AAC/WAV ⑧ 43 ページ)



再生範囲切換モードに戻る

4 ファンクションモードを解除する

BAND ボタンを押す

リモコンの場合

FUNCTION ボタンを押すごとに、ファンクションモードが切り換わります。

メモ

- ファンクションモードは、約30秒間何も操作しないと自動的に解除されます。

WMA/MP3/
AAC/WAV

3

同じ曲やフォルダーを繰り返し聞く

リピート再生

今聞いている曲を繰り返し聞いたり、1つのフォルダーを繰り返し聞くなど、繰り返し再生する範囲を選ぶことができます。

再生範囲について

再生範囲（繰り返し聞く範囲）は、次の中から選ぶことができます。

表示	再生範囲
Track repeat	再生中の曲を繰り返し再生します。
Folder repeat	再生中のフォルダーを繰り返し再生します。
Disc repeat	本機にセットされているディスクを通して再生します。（通常は、このモードにしておきます）

1

再生範囲切換モードにする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ

(☞ WMA/MP3/AAC/WAV 39 ページ)

2

リピート再生する範囲を選ぶ

ロータリーコマンドーを押す

ロータリーコマンドーを押すごとにリピート範囲が次のように切り換わります。



- Track repeat (トラックリピート)
- Folder repeat (フォルダーリピート)
- Disc repeat (ディスクリピート)
- Track repeat に戻る

メモ

- フォルダーリピートは、再生中のフォルダー内の曲 (WMA/MP3/AAC/WAV ファイル) だけを再生します。サブフォルダー内の曲は再生されません。

WMA/MP3/
AAC/WAV

4

いつもと違う曲順で聞く

ランダム再生

選曲をCDプレーヤーにまかせて、いつもと違う曲順 (ランダム) で再生することができます。

1

再生範囲切換モードにして再生範囲を選ぶ

(☞ WMA/MP3/AAC/WAV 39)

選んだ再生範囲内でランダム再生が行われます。

2

ランダムモードにする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ

(☞ WMA/MP3/AAC/WAV 39 ページ)

3

ランダム再生を ON にする

ロータリーコマンドーを押す

ロータリーコマンドーを押すごとに ON/OFF します。



次の曲から、ランダムに選曲します。

メモ

- トラックリピートのときにランダム再生を ON にすると、再生範囲がフォルダーリピートに切り換わり、ランダム再生します。

今聞いているフォルダー内の曲の出だし部分だけを約10秒ずつ次々に聞くことができます。また、全フォルダーの1曲目の出だし部分だけを次々に聞くこともできます。

1 再生範囲切替モードにして再生範囲を選ぶ

(WMA/MP3/AAC/WAV[®])

■ 聞きたい曲をさがすとき (トラックスキャン再生)

再生範囲をフォルダーリピートに切り換えます。再生中のフォルダーの全曲を、約10秒ずつ再生することができます。

■ 聞きたいフォルダーをさがすとき (フォルダースキャン再生)

再生範囲をディスクリピートに切り換えます。ディスク内の全フォルダーの1曲目だけを、約10秒ずつ再生することができます。

2 スキャンモードにする

ロータリーコマンドを操作して選ぶ

(WMA/MP3/AAC/WAV[®] 39ページ)

3 スキャン再生を始める

ロータリーコマンドを押す



曲の出だしの約10秒間が次々に再生されます。

4 聞きたい曲(フォルダー)が再生されたらスキャン再生をOFFにする

スキャンモードのときにロータリーコマンドを押す

確認

ファンクションモードが解除されていたら、まずもう一度スキャンモードにしてください。次に、スキャン再生をOFFにします。

メモ

- スキャン再生を始めた曲(またはフォルダー)まで戻ると、スキャン再生は解除されます。
- トラックリピートのときにスキャン再生をONにすると、再生範囲がフォルダーリピートに切り換わり、スキャン再生します。

WMA/MP3/
AAC/WAV

6

再生を一時停止する

ポーズ

WMA/MP3/AAC/WAV 再生を一時停止することができます。

1

ポーズモードにする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ

(☞ WMA/MP3/AAC/WAV ③ 39 ページ)

2

WMA/MP3/AAC/WAV 再生を一時停止する

ロータリーコマンドーを押す

ロータリーコマンドーを押すごとに ON/OFF します。

WMA/MP3/
AAC/WAV

7

音質を調節する

COMP / BMX

大きな音と小さな音の音量差を小さくしたり、残響音を補正することができます。

COMP について

COMP とは、「COMPression (コンプレッション)」の略です。大きな音を抑え、小さな音を押し上げて、大きな音と小さな音の音量差を小さくする機能です。この機能は、小さな音が聞きとりにくいようなときにお使いになると便利です。

BMX について

BMX とは、「BIT Metrix (ビットメトリックス)」の略です。音楽の残響音を補正し、自然な広がりを持った音質に改善する機能です。WMA/MP3/AAC/WAV などの残響音の成分を補正し、本来の音質を再現することができます。

1

COMP 切り換えモードにする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ

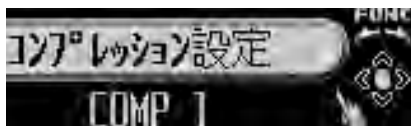
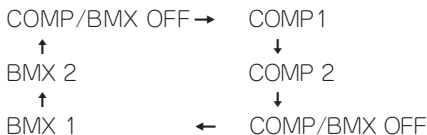
(☞ WMA/MP3/AAC/WAV ③ 39 ページ)

2

機能を選ぶ

ロータリーコマンドーを押す

ロータリーコマンドーを押すごとに次のように切り換わります。



現在の COMP/BMX の状態が表示されます。

メモ

- COMP、BMX とともに 1 より 2 の方が効果が大きくなります。

WMA/MP3/
AAC/WAV

8

選曲方法を 切り換える

ロータリーコマンドを左右に操作し続けたときに、早送り/早戻しにするか、10曲飛びに選曲するラフサーチにするかを選ぶことができます。

1 選曲方法切り換えモードにする

ロータリーコマンドを操作して選ぶ

(☞ WMA/MP3/AAC/WAV ② 39 ページ)

2 選曲方法を選ぶ

ロータリーコマンドを押す

ロータリーコマンドを押すごとに次のように切り換わります。

FF/REV (早送り/早戻し)

→ Rough search (ラフサーチ)

→ FF/REVに戻る



WMA/MP3/
AAC/WAV

9

フォルダー内の曲を 10曲飛びに選曲する

ラフサーチ

収録されている曲が10曲を超えるフォルダーの場合、10曲飛びに選曲することができます。

1 選曲方法切り換えモード にしてラフサーチを選ぶ

(☞ WMA/MP3/AAC/WAV ②)

2 聞きたい曲を選ぶ

ロータリーコマンドを左右に0.5秒以上操作する

右：10曲先の曲を選ぶとき

左：10曲前の曲を選ぶとき

メモ

- 10曲以下のフォルダーでラフサーチを行うと、最初の曲または最後の曲が選曲されます。ラフサーチ後に、残りの曲が10曲以下になった場合も同様です。

WMA/MP3 / AAC/WAV

10

聞きたいフォルダーや曲を一覧からさがす

フォルダー / ファイルリスト

ファイルネームやフォルダーネームの一覧(フォルダー/ファイルリスト)を見ながら、聞きたいファイルやフォルダーを選べます。

1 フォルダー/ファイルリストモードにする

LIST ボタンを押す

2 聞きたいフォルダーや曲(ファイル)を選ぶ

ロータリーコマンドを回す

右回し: 次のフォルダー(ファイル)を選ぶとき

左回し: 前のフォルダー(ファイル)を選ぶとき

ロータリーコマンドを回すごとにフォルダーやファイルの表示が切り換わります。



選んでいるフォルダーの中に、フォルダーや曲(ファイル)が収録されているときに表示されます。

3 聞きたい曲が入っているフォルダーを選ぶ

フォルダーが中央に表示されているときに、ロータリーコマンドを右に操作する

ロータリーコマンドを回すごとにファイル(フォルダー)が切り換わります。

4 聞きたい曲を再生する

聞きたいファイル(フォルダー)が中央に表示されているときに、ロータリーコマンドを押す

選んだ曲(ファイル)が再生されます。

5 フォルダー/ファイルリストモードを解除する

BAND ボタンを押す

メモ

- 再生中のファイル/フォルダーは反転表示されます。
- ロータリーコマンドを上下に操作して、聞きたいファイルネームやフォルダーネームを表示することもできます。
- ロータリーコマンドを左に操作すると、1つ前のリスト(1階層上のフォルダー)に戻ります。
- フォルダーが中央に表示されているときにロータリーコマンドを押すと、そのフォルダー内のはじめの曲から再生されます。
- ファイルリストは、必ず「ROOT」から表示されます。
- ディスク内に再生できるファイルがない場合、「No Audio」が表示されます。
- フォルダー内に再生できるファイルがない場合、ロータリーコマンドを押しても再生しません。
- リスト表示中のフォルダー番号は、実際の番号とは異なります。
- フォルダー/ファイルリストモードは、8秒間何も操作しないと自動的に解除されます。
- 収録ファイル数が多く、リスト番号が3桁になる場合は、下2桁だけが表示されます。

タイトル表示を切り換える

タイトル表示 / タイトルスクロール

フォルダーネームのほかにトラックタイトルやアルバムタイトルを表示させることができます。全角で7文字、半角で14文字まで一度に表示することができます。また、隠れている文字をスクロール表示で見することもできます。

1 表示を切り換える

DISPLAY ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

WMA/MP3/AACの場合

再生経過時間表示



フォルダーネームと再生経過時間表示



ファイルネームと再生経過時間表示



フォルダーネームとファイルネーム



アーティストネームとアルバムタイトル



アーティストネームとトラックタイトル



再生経過時間表示に戻る

WAVの場合

再生経過時間表示



フォルダーネームと再生経過時間表示



ファイルネームと再生経過時間表示



フォルダーネームとファイルネーム



再生経過時間表示に戻る

メモ

- アーティストネーム（歌手名）などが収録されていないCD-ROMで表示を切り換えると、タイトル表示は空白になります。
- WMAファイルをエンコードしたWindows Media Playerのバージョンによっては、アルバム名などの文字情報が正しく表示されないことがあります。
- MP3ファイルやAACファイルをライティングしたiTunesのバージョンによっては、ファイル名などが正しく表示されないことがあります。

隠れている文字を表示させるには

DISPLAY ボタンを2秒以上押す

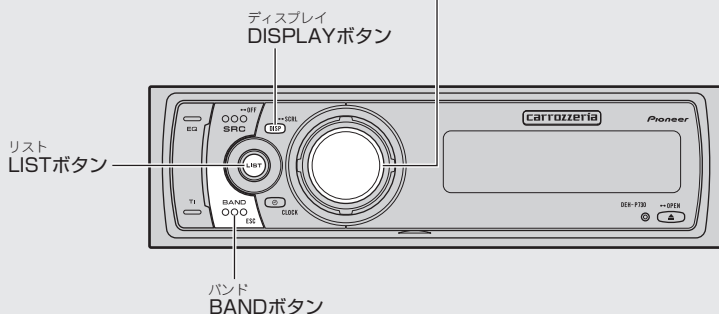
隠れている文字が順番に表示されます。

メモ

- 初期設定で連続スクロール機能をONにした場合、タイトルが繰り返しスクロールして表示されます。タイトルの最初の文字を表示させて、再びスクロールさせたいときは、DISPLAY ボタンを2秒以上押してください。連続スクロールについては (☞ 便利な機能④ 125ページ)

この操作で使用するボタン

ロータリーコマンダー

ラジオ
1

放送局を1局ずつ記憶させる

プリセットメモリー

リモコンを使って、お好みの放送局を、1～6ボタンに1局ずつ手で記憶させることができます。

1 記憶させるバンドを選ぶ

BAND ボタンを押す
(※ ここだけで④ 26 ページ)

メモ

- 記憶させた放送局を呼び出すには (※ ラジオ②)
- ステーションリストモードでも放送局を記憶させることができます。 (※ ラジオ⑤ 48 ページ)

2 記憶させたい放送局を選局する

ロータリーコマンダーを左右に操作する
(※ ここだけで④ 27 ページ)

3 記憶させる

リモコンの1～6ボタンの1つを2秒以上押す



押したボタンの番号 (記憶番号) が点滅します。



押したボタンに受信中の放送局が記憶されると、点滅が終わります。

記憶させた放送局を
呼び出す

プリセットチューニング

記憶させた放送局は、簡単に呼び出すことができます。

1 記憶させたバンドを選ぶ

BAND ボタンを押す
(☞ ここだけで④ 26 ページ)

2 記憶させた放送局を呼び出す

■ 記憶させた放送局を順番に呼び出す

ロータリーコマンドを上下に操作する

上：次の記憶番号の放送局を呼び出すとき
下：前の記憶番号の放送局を呼び出すとき

■ 記憶させた放送局を直接呼び出す

リモコンの 1～6 ボタンの 1 つを押す



受信中の記憶番号

モードの切り換えかた

ふだんの操作以外の便利な機能を使うときは、モードを切り換えて操作します。

1 メインメニューにする

ロータリーコマンドを押す

「FUNCTION」、「AUDIO」、「ENTERTAINMENT」が表示されます。

2 ファンクションモードにする

ロータリーコマンドを回して「FUNCTION」を選び、ロータリーコマンドを押す

3 ファンクションモードを切り換える

ロータリーコマンドを回す

ロータリーコマンドを回すごとに次のように切り換わります。(各モードの操作は、それぞれのモードの説明を参照してください。)

BSM モード (☞ ラジオ④ 48 ページ)



放送局名選択モード (☞ ラジオ⑥ 49 ページ)



BSM モードに戻る

4 ファンクションモードを解除する

BAND ボタンを押す

リモコンの場合

FUNCTION ボタンを押すごとに、ファンクションモードが切り換わります。

メモ

- ファンクションモードは、約 30 秒間何も操作しないと自動的に解除されます。

ラジオ
4

複数の放送局を自動的に記憶させる

BSM

受信状態の良い放送局をさがして、自動的に1～6ボタンに記憶させることができます。

1 記憶させるバンドを選ぶ

BAND ボタンを押す

( ここだけで④ 26 ページ)

2 BSM モードにする

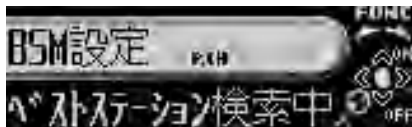
ロータリーコマンドーを操作して選ぶ

( ラジオ⑨ 47 ページ)

3 BSM を始める

ロータリーコマンドーを押す

ロータリーコマンドーを押すごとにON/OFFします。



記憶が終わるとステーションリストモードに切り換わり、1ボタンに記憶した放送局を受信します。

4 聞きたい放送局を選ぶ

ロータリーコマンドーを回す

ロータリーコマンドーを回すごとに放送局名が切り換わります。

右回し：次の放送局を選ぶとき
左回し：前の放送局を選ぶとき

5 聞きたい放送局を受信する

聞きたい放送局が中央に表示されているときに、ロータリーコマンドーを押す

選んだ放送局を受信します

メモ

- 受信状態の良い放送局が6局より少ないときは、前の記憶が残ることがあります。
- BSMとは、「Best Stations Memory (ベストステーションズメモリー)」の略です。

ラジオ
5

放送局名を見て聞きたい放送局を呼び出す

ステーションリスト

1～6ボタンに記憶させた放送局を、放送局名の一覧(ステーションリスト)の中からさがすことができます。

1 ステーションリストモードにする

LIST ボタンを押す



2 聞きたい放送局を選ぶ

ロータリーコマンドーを回す

ロータリーコマンドーを回すごとに、放送局名が切り換わります。

右回し：次の放送局を選ぶとき
左回し：前の放送局を選ぶとき

3 聞きたい放送局を受信する

聞きたい放送局が中央に表示されているときに、ロータリーコマンドーを押す

選んだ放送局を受信します。

4 ステーションリストモードを解除する

BAND ボタンを押す

メモ

- 受信中の放送局は反転表示されます。
- 表示されている放送局名が受信している放送局と異なる場合、放送局名を変更することができます。(ラジオ⑥)
- 放送局名が登録されていない放送局の場合、周波数が表示されます。
- ロータリーコマンドーを2秒以上押し続けると、中央に表示されている記憶番号に現在受信している放送局を記憶させることができます。
- ステーションリストモードは、8秒間何も操作しないと自動的に解除されます。

受信している放送局に合わせて、表示する放送局名を選ぶことができます。

放送局名について

同じ周波数でも、受信する放送局は地域によって違います。表示される放送局名は、受信している放送局のものと異なる場合に変更することができます。

ご注意

本機に登録されていない放送局名は選べません。

1 実際の放送局名と表示が異なる場合、放送局名選択モードにする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ

(☞ ラジオ ④ 47ページ)

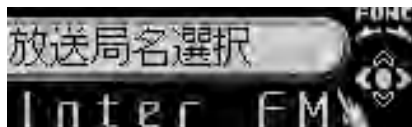
ご注意

現在受信している周波数以外の放送局名を変更することはできません。別の周波数の放送局名を変更したい場合、その周波数を受信して(☞ **ここだけで④ 27ページ**)から放送局名選択モードにしてください。

2 放送局名を選ぶ

ロータリーコマンドーを左右に操作する

右：次の放送局名を選ぶとき
左：前の放送局名を選ぶとき



3 選んだ放送局名に変更する

ロータリーコマンドーを押す

選んだ放送局名に変更されます。

メモ

- 選んだ周波数に該当する放送局名が登録されていない場合、“No data”と表示されます。
- 放送局名を表示させたくないときは、すべて空白の表示を選んでください。
- パイオニア製のFMモジュレータータイプのマルチCDをお使いの方は、モジュレーター周波数に合わせて、放送局名を“FM M-CD”に変更して表示することができます。
- パイオニア製のTVをFMモジュレーターでお使いの方は、モジュレーター周波数に合わせて、放送局名を“FM TVsound”に変更して表示することができます。

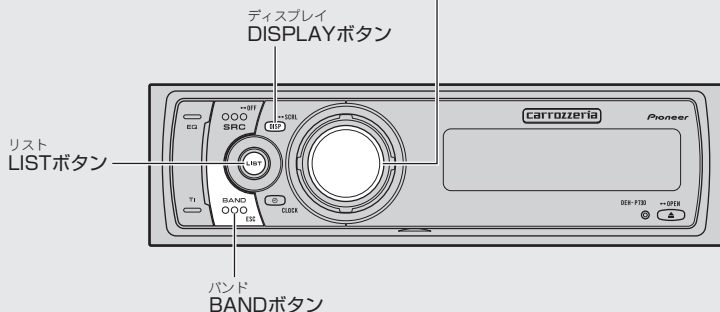
選んだ放送局名を表示させるには

DISPLAY ボタンを押す

ボタンを押すごとに放送局名表示をON/OFFします。

この操作で使用するボタン

ロータリーコマンドー



マルチCD
1

聞きたいCDを 直接選ぶ

ダイレクトサーチ (ディスク)

リモコンを使って、聞きたいCDを直接選ぶことができます。

1

聞きたいCDを選ぶ

リモコンの1～6ボタンを押す

2秒未満押し：1～6枚目のCDを選ぶとき
2秒以上押し：7～12枚目のCDを選ぶとき

マルチCD
2

聞きたい曲を直接 選ぶ

ダイレクトサーチ (トラック)

リモコンを使って、今聞いているCD内の聞きたい曲を直接選ぶことができます。

1

曲番号入力画面を表示する

リモコンのDIRECTボタンを押す
(はじめに①9ページ)

2

聞きたい曲の番号を入力する

リモコンの0～9ボタンを押す



3

聞きたい曲を再生する

リモコンのDIRECTボタンを押す
選んだ曲が再生されます。

メモ

- 曲番号入力画面は、約8秒何も操作しないと自動的に解除されます。
- リモコンのCLEARボタンを押すと、入力した番号を消去することができます。

モードの切り換えかた

ふだんの操作以外の便利な機能を使うときは、モードを切り換えて操作します。

1 メインメニューにする

ロータリーコマンドーを押す

「FUNCTION」、「AUDIO」、「ENTERTAINMENT」が表示されます。

2 ファンクションモードにする

ロータリーコマンドーを回して「FUNCTION」を選び、ロータリーコマンドーを押す

3 ファンクションモードを切り換える

ロータリーコマンドーを回す

ロータリーコマンドーを回すごとに、次のように切り換わります。(各モードの操作は、それぞれのモードの説明を参照してください。)

再生範囲切換モード

( マルチCD④ 52ページ)



ランダムモード ( マルチCD⑥ 52ページ)



スキャンモード ( マルチCD⑥ 53ページ)



ポーズモード ( マルチCD⑦ 54ページ)



COMP 切換モード

( マルチCD⑫ 57ページ)



ITS 再生モード ( マルチCD⑩ 55ページ)



ITS 入力モード ( マルチCD⑩ 54ページ)



タイトル入力モード

( マルチCD⑮ 58ページ)



再生範囲切換モードに戻る

4 ファンクションモードを解除する

BAND ボタンを押す

リモコンの場合

FUNCTION ボタンを押すごとに、ファンクションモードが切り換わります。

メモ

- ファンクションモードは、約30秒間何も操作しないと自動的に解除されます。ただし、タイトル入力モードやITS入力モードを選んでいる場合、自動では解除されません。
- 「CD TEXT」に対応しているマルチCD (「CDX-P670」など) で「CD TEXT」を再生しているときは、タイトル入力モードには切り換わりません。「CD TEXT」にあらかじめ収録されているタイトルは変更できません。

マルチCD
4同じ曲やCDを
繰り返し聞く

リピート再生

今聞いている曲を繰り返し聞いたり、1枚のCDを繰り返し聞くなど、繰り返し再生する範囲を選ぶことができます。

再生範囲について

再生範囲（繰り返し聞く範囲）は、次の中から選ぶことができます。

表示	再生範囲
Track repeat	再生中の曲を繰り返し再生します。
Disc repeat	再生中のCDを繰り返し再生します。
M-CD repeat	マルチCDにセットされているすべてのCDを通して再生します。(通常はこのモードにしておきます。)

1 再生範囲切替モードにする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
( マルチCD 51 ページ)

2 リピート再生する範囲を選ぶ

ロータリーコマンドーを押す

ロータリーコマンドーを押すごとにリピート範囲が次のように切り換わります。

- Track repeat (トラックリピート)
- Disc repeat (ディスクリピート)
- M-CD repeat (マルチCDリピート)
- Track repeatに戻る

マルチCD
5いつもと違う曲順で
聞く

ランダム再生

選曲をマルチCDにまかせて、いつもと違う曲順(ランダム)で再生することができます。

1 再生範囲切替モードにして再生範囲を選ぶ ( マルチCD 4)

選んだ再生範囲内でランダム再生が行われます。

2 ランダムモードにする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
( マルチCD 51 ページ)

3 ランダム再生をONにする

ロータリーコマンドーを押す

ロータリーコマンドーを押すごとにON/OFFします。



次の曲から、ランダムに選曲します。

メモ

- トラックリピートのときにランダム再生をONにすると、再生範囲がディスクリピートに切り換わりランダム再生します。

聞きたい曲やCDをさがす

トラックスキャン再生 / ディスクスキャン再生

今聞いている曲の出だしの部分だけを約10秒ずつ次々に聞くことができます。また、全CDの1曲目の出だしの部分だけを次々に聞くこともできます。

1 再生範囲切換モードにして再生範囲を選ぶ (E マルチCD)

■ 聞きたい曲をさがすとき (トラックスキャン再生)

再生範囲をディスクリピートに切り換えます。再生中のCDの全曲を、約10秒ずつ再生することができます。

■ 聞きたいCDをさがすとき (ディスクスキャン再生)

再生範囲をマルチCDリピートに切り換えます。マルチCD内の全CDの1曲目だけを、約10秒ずつ再生することができます。

2 スキャンモードにする

ロータリーコマンドを操作して選ぶ (E マルチCD 51 ページ)

3 スキャン再生を始める

ロータリーコマンドを押す



曲の出だしの約10秒間が次々に再生されます。

4 聞きたい曲 (CD) が再生されたらスキャン再生をOFFにする

スキャンモードのときにロータリーコマンドを押す

確認

ファンクションモードが解除されていたら、まずもう一度スキャンモードにしてください。次に、スキャン再生をOFFにします。

メモ

- スキャン再生を始めた曲 (またはCD) まで戻ると、スキャン再生は解除されます。
- トラックリピートのときにスキャン再生をONにすると、再生範囲がディスクリピートに切り換わりトラックスキャン再生します。

マルチCD

7

CDの再生を一時停止する

ポーズ

CD再生を一時停止することができます。

1

ポーズモードにする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ

(☞ マルチCD⑤ 51ページ)

2

CD再生を一時停止する

ロータリーコマンドーを押す

ロータリーコマンドーを押すごとにON/OFFします。



マルチCD

8

聞きたい曲だけ指定しておく

指定した曲だけ再生する (☞ マルチCD⑤) ために、あらかじめ聞きたい曲をマルチCDに指定しておきます。

ITSについて

ITSとは、「Instant Track Selection (インスタントトラックセレクション)」の略です。ITSは、聞きたい曲だけを指定しておき、それを再生する機能です。

- 曲の指定はCDごとに行われます。CDを入れ換えても、そのCDの曲の指定は解除されません
- CD1枚につき99曲まで指定できます。(「CDX-P1250」「CDX-P650」以前に発売されたマルチCDでは、指定できる曲が24曲までになります。)
- ITSは、タイトル (☞ マルチCD⑧ 58ページ) と合わせてCD100枚分の指定ができます。
- 100枚を超えたときは、いちばん古いCDの指定が解除されて、新しいCDの曲が指定されます。

1

曲の指定をしたいCDを再生する

ロータリーコマンドーを上下に操作する

(☞ ここだけで⑥ 28ページ)

2

ITS入力モードにする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ

(☞ マルチCD⑥ 51ページ)

3

指定したい曲を選ぶ

ロータリーコマンドーを左右に操作する

(☞ ここだけで⑥ 29ページ)

ITS入力 (☞ マルチCD⑨) で指定した曲だけを再生することができます。

4 指定する

ロータリーコマンドーを上に表示する



約2秒間表示され、曲が指定されたことを知らせます。

5 ITS入力モードを解除する

BAND ボタンを押す

1 再生範囲切換モードにして再生範囲を選ぶ (☞ マルチCD④ 52ページ)

選んだ再生範囲内でITS再生が行われます。

2 ITS再生モードにする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ (☞ マルチCD④ 51ページ)

3 ITS再生をONにする

ロータリーコマンドーを押す

ロータリーコマンドーを押すごとにON/OFFします。



ITS再生が始まり、指定した曲だけが再生されます。

メモ

- 手順1で選んだ再生範囲内に、指定した曲がない場合は、「ITS empty」が約2秒間表示されて、ITS再生は行われません。

マルチCD 10 曲の指定を 1曲ずつ解除する

ITS解除 (1曲ずつ)

曲の指定を1曲ずつ解除できます。

1 ITS再生をONにする

(☞ マルチCD 55 ページ)

2 指定を解除したい曲を再生 する

ロータリーコマンドを左右に操作する
(☞ ここだけで 29 ページ)

3 ITS入力モードにする

ロータリーコマンドを操作して選ぶ
(☞ マルチCD 51 ページ)

4 指定を解除する

ロータリーコマンドを下に操作する



再生していた曲の指定が解除され、次に指定されている曲が再生されます。

5 ITS入力モードを解除する

BAND ボタンを押す

メモ

- 現在の再生範囲内に指定した曲がなくなった場合は、“Memory deleted” が約2秒間表示されて、ITS再生がOFFになります。

マルチCD 11 曲の指定をCDごと に解除する

ITS解除 (CDごと)

曲の指定をCDごとに解除できます。

1 指定を解除したいCDを再生 する

ロータリーコマンドを上下に操作する
(☞ ここだけで 28 ページ)

ITS再生がONになっているときは、ITS再生をOFFにしてください。
(☞ マルチCD 55 ページ)

2 ITS入力モードにする

ロータリーコマンドを操作して選ぶ
(☞ マルチCD 51 ページ)

3 指定を解除する

ロータリーコマンドを下に操作する



約2秒間表示され、解除したことを知らせます。

4 ITS入力モードを解除する

BAND ボタンを押す

大きな音と小さな音の音量差を小さくしたり、低音域を押し上げたりすることができます。

チェック ◆ COMP / DBE 機能の付いたマルチ CD プレーヤーで操作できます。

COMPについて

COMPとは、「COMPression (コンプレッション)」の略です。大きな音を抑え、小さな音を押し上げて、大きな音と小さな音の音量差を小さくする機能です。この機能は、小さな音が聞きとりにくいようなときにお使いになると便利です。

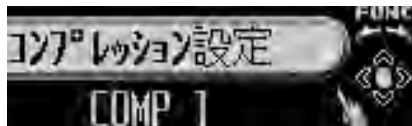
DBEについて

DBEとは、「Dynamic Bass Emphasis (ダイナミック バス エンファシス)」の略です。DBEは、車内で不足しがちな低音域を押し上げる機能です。

1 COMP 切り換えモードにする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ

(13 マルチ CD 51 ページ)



現在のCOMP/DBEの状態が表示されます。

ご注意

COMP/DBE 機能のないマルチCDを組み合わせたときは、“No COMP”が表示されて、操作ができません。

2 機能を選ぶ

ロータリーコマンドーを押す

ロータリーコマンドーを押すごとに次のように切り換わります。



メモ

- COMP、DBEともに1より2の方が効果が大きくなります。

CDのタイトルを記憶させる

CDのタイトルを入力することができます。また、入力したタイトルをディスプレイに表示できます。

タイトル入力について

タイトル表示は、CDのタイトルを入力して記憶させておき、ディスプレイに表示させる機能です。タイトルを入力しておくこと、CD再生時に入力したタイトルを表示できます。

CDにタイトルを付けるとディスクリスト (※ マルチCD⑩ 60ページ) で聞きたいCDをさがすこともできます。

「CD TEXT」に対応しているマルチCD (「CDX-P670」など) では、「CD TEXT」にあらかじめ収録されているCDタイトルのディスクリスト (※ マルチCD⑩ 60ページ) を表示することができます。

- タイトルは10文字まで入力できます。
- 記憶はCDごとに行われます。CDを入れ替えても、そのCDの記憶は消えません。
- タイトルは、ITS (※ マルチCD⑨ 54ページ) と合わせてCD100枚分の記憶ができます。
- 100枚を超えたときは、いちばん古いCDの記憶が消されて、新しいCDが記憶されます。

1 タイトルを入力したいCDを再生する

ロータリーコマンドを上下に操作する
(※ ここだけで② 28ページ)

2 タイトル入力モードにする

ロータリーコマンドを操作して選ぶ
(※ マルチCD⑥ 51ページ)

ご注意

「CD TEXT」に対応しているマルチCD (「CDX-P670」など) で「CD TEXT」を再生しているときは、タイトル入力モードには切り換わりません。(「CD TEXT」に収録されているCDタイトルは変更できません。)

3 入力する文字の種類を選ぶ

DISPLAY ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

カタカナ(ア～ン)・音引き(ー)・空白()



拗促音(ア、ヨ、ツなど)・濁点・半濁点・空白()



アルファベットの大文字(A～Z)・数字(0～9)・記号(!、#、&など)・空白()



アルファベットの小文字(a～z)・空白()



数字・記号(!、#、&など)・空白()



カタカナ(ア～ン)・音引き(ー)・空白()に戻る

4 タイトルを入力する

■ 入力する文字を選ぶ

ロータリーコマンドを上下に操作する

上：次の文字を選ぶとき
下：前の文字を選ぶとき



選んだ文字が点滅します。

■ 入力する位置を選ぶ

ロータリーコマンドを左右に操作する

右：右に移動させるとき
左：左に移動させるとき



入力する位置でカーソルが点滅します。
10文字まで入力できます。

5 入力が終わったら、10文字目を点滅させる

カーソルが10文字目の位置にくるまで、ロータリーコマンドを右に操作する



余ったところを空白にして、10文字目を点滅させます。

6 入力したタイトルを記憶させる

ロータリーコマンドを右に操作する



入力位置の点滅が終わり、入力したタイトルが記憶されます。

7 タイトル入力モードを解除する

BAND ボタンを押す

メモ

- タイトル入力中（文字が点滅しているとき）にBAND ボタンを押すと、タイトル入力モードが途中で解除されます。（この場合、入力中のタイトルは記憶されません。）
- DISPLAY ボタンを押すと、入力したタイトルを表示することができます。もう一度ボタンを押すと、タイトル表示は消えます。
- タイトルを入力していないCDで表示を切り換えると、タイトル表示は空白になります。

マルチCD
14

タイトルを見て聞きたいCDをさがす

ディスクリスト

CDのタイトル一覧(ディスクリスト)を見ながら、聞きたいCDをさがすことができます。

1 ディスクリストモードにする

LIST ボタンを押す



2 聞きたいCDを選ぶ

ロータリーコマンドを回す

ロータリーコマンドを回すごとに、CDのタイトルが切り換わります。

右回し：次のCDを選ぶとき
左回し：前のCDを選ぶとき

3 聞きたいCDを再生する

聞きたいCDが中央に表示されているときに、ロータリーコマンドを押す
選んだCDが再生されます。

4 ディスクリストモードを解除する

BAND ボタンを押す

メモ

- 再生中のCDは反転表示されます。
- ロータリーコマンドを上下に操作して聞きたいCDタイトルを表示することもできます。
- マガジンにCDがセットされていないときは、“No Disc”と表示されます。また、タイトルが記憶されていないCDを入れたときは、“No D. Title”が表示されます。
- ディスクリストモードは、8秒間何も操作しないと自動的に解除されます。

マルチCD
15

曲名を見て聞きたい曲をさがす

トラックリスト

ディスクリスト (E ④ マルチCD ④) で「CD TEXT」 (E ④ はじめに ④ 11 ページ) を選んだ場合、曲名の一覧(トラックリスト)を見ながら聞きたい曲をさがすことができます。

1 ディスクリストモードにする

LIST ボタンを押す



2 トラックリストを表示する

聞きたい「CD TEXT」が中央に表示されているときに、ロータリーコマンドを右に操作する

ご注意

「CD TEXT」に対応しているマルチCD(「CDX-P670」など)で「CD TEXT」を選んだときだけ、トラックリストが表示されます。

3 聞きたい曲を選ぶ

ロータリーコマンドを回す

ロータリーコマンドを回すごとに曲名が切り換わります。

右回し：次の曲を選ぶとき
左回し：前の曲を選ぶとき

4 聞きたい曲を再生する

聞きたい曲が中央に表示されているときに、ロータリーコマンドを押す
選んだ曲が再生されます。

メモ

- 再生中の曲は反転表示されます。
- 「CD TEXT」に曲名が収録されていないときは、“No T. Title”と表示されます。
- ロータリーコマンドを上下に操作して聞きたい曲名を表示することもできます。

「CD TEXT」(※ はじめに⑩ 11 ページ)に対応しているマルチCD(「CDX-P670」など)で「CD TEXT」再生中に、トラックタイトルのほかにディスクタイトルやディスクアーティスト名を表示させることができます。全角で7文字、半角で14文字まで一度に表示することができます。また、隠れている文字をスクロール表示で見することもできます。

チェック ◆ 「CD TEXT」に対応しているマルチCD(「CDX-P670」など)の機能です。

タイトル表示について

本機はカナやアルファベットなどの表示だけではなく、ひらがなや漢字などの表示にも対応しています。「CD TEXT」に漢字などの文字情報が収録されている場合でも、本機ではそのまま表示することができます。

1 表示を切り換える

DISPLAY ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

再生経過時間表示



ディスクタイトルと再生経過時間表示



ディスクアーティスト名と再生経過時間表示



トラックタイトルと再生経過時間表示



トラックアーティスト名と再生経過時間表示



ディスクタイトルとディスクアーティスト名



トラックタイトルとトラックアーティスト名



再生経過時間表示に戻る

メモ

- トラックアーティスト名(歌手名)などが収録されていないCDで表示を切り換えると、タイトル表示は空白になります。

隠れている文字を表示させるには

DISPLAY ボタンを2秒以上押す

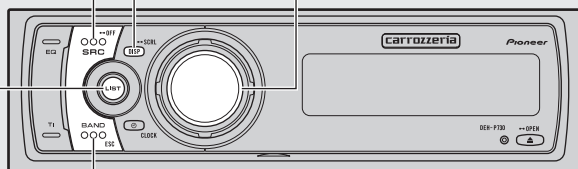
隠れている文字が順番に表示されます。

メモ

- 初期設定で連続スクロール機能をONにした場合、タイトルが繰り返しスクロールして表示されます。タイトルの最初の文字を表示させて、再びスクロールさせたいときは、DISPLAY ボタンを2秒以上押してください。連続スクロールについては(※ 便利な機能⑩ 125 ページ)

この操作で使用するボタン

ロータリーコマンドー

ソース
SOURCEボタンディスプレイ
DISPLAYボタンリスト
LISTボタンバンド
BANDボタン

iPodについて

本機でのiPodアダプター(例:「CD-IB10II」)の基本的な操作方法を説明しています。iPodアダプターの機能について、詳しくは組み合わせたiPodアダプターの取扱説明書をご覧ください。

(画面例)



iPod

1

iPodのふだんの操作

ここだけの操作で、iPodの音楽を聞くことができます。

1

ソースをiPodにする

SOURCE ボタンを押す

2

聞きたい曲を選ぶ

ロータリーコマンドーを左右に操作する

選曲と早送り/早戻しの使い分け

聞きたい曲の選択 0.5秒未満操作

曲の早送り/早戻し 0.5秒以上操作し続けている間

3

iPodの再生をやめる

他のソースに切り換えるか、電源をOFFにする

メモ

- 再生範囲切り換えモードで、1曲リピートを選んでいる場合、ロータリーコマンドーを左右に操作して曲を選ぶことはできません。

プレイリストを選んで再生する

プレイリスト

iPodの「プレイリスト」から聞きたいプレイリストや曲を選んで再生することができます。

1 リストモードのトップメニューにする

LIST ボタンを押す

2 「プレイリスト」を選ぶ

ロータリーコマンドを回して「プレイリスト」を中央に表示し、ロータリーコマンドを押す

ロータリーコマンドを回すごとに次のように切り換わります。

プレイリスト ↔ アーティスト ↔ アルバム
↔ 曲 ↔ ジャンル ↔ プレイリストに戻る



iPodに登録されているプレイリストが表示されます。

3 お好みのプレイリスト (例: 「PLAYLIST 1」) を選ぶ

ロータリーコマンドを回して「PLAYLIST 1」を中央に表示し、ロータリーコマンドを押す



「PLAYLIST 1」に登録されている曲のリストが表示されます。

4 お好みの曲 (例: 「SONG c」) を選ぶ

ロータリーコマンドを回して「SONG c」を中央に表示し、ロータリーコマンドを押す



「SONG c」の再生が始まります。

メモ

- 1つ前のリストに戻るには、ロータリーコマンドを左に操作します。
- 手順3で、再生したいプレイリストを中央に表示しているときに、ロータリーコマンドを2秒以上押し、選んだプレイリストをすぐに再生することができます。
- ロータリーコマンドを上下に操作して、聞きたいプレイリスト名を表示することもできます。
- ロータリーコマンドを右に操作して、中央に表示しているプレイリストを選ぶこともできます。
- ロータリーコマンドを左に2秒以上操作すると、トップメニューに戻ることができます。

聞きたい曲をさがす

ジャンル、アーティスト、アルバムからのリストから、お好みのアーティストやアルバムなどを選んで再生できます。

1 リストモードのトップメニューにする

LIST ボタンを押す

2 「ジャンル」を選ぶ

ロータリーコマンドを回して「ジャンル」を中央に表示し、ロータリーコマンドを押す

ロータリーコマンドを回すごとに次のように切り換わります。

プレイリスト ↔ アーティスト ↔ アルバム
↔ 曲 ↔ ジャンル ↔ プレイリストに戻る



ジャンルのリストが表示されます。

3 お好みのジャンル (例: 「Jazz」) を選ぶ

ロータリーコマンドを回して「Jazz」を中央に表示し、ロータリーコマンドを押す



「Jazz」に登録されているアーティストのリストが表示されます。

4 お好みのアーティスト (例: 「Artist 2」) を選ぶ

ロータリーコマンドを回して「Artist 2」を中央に表示し、ロータリーコマンドを押す



「Artist 2」に登録されているアルバムのリストが表示されます。

5 お好みのアルバム (例: 「Album B」) を選ぶ

ロータリーコマンドを回して「Album B」を中央に表示し、ロータリーコマンドを押す



「Album B」に登録されている曲のリストが表示されます。

6 お好みの曲 (例: 「SONG c」) を選ぶ

ロータリーコマンドを回して「SONG c」を中央に表示し、ロータリーコマンドを押す



「SONG c」の再生が始まります。

メモ

- 1つ前のリストに戻るには、ロータリーコマンドを左に操作します。
- 手順3で、再生したいリストを中央に表示しているときに、ロータリーコマンドを2秒以上押すと、選んだリストをすぐに再生することができます。
- ロータリーコマンドを上下に操作して、聞きたいリスト名を表示することもできます。
- ロータリーコマンドを右に操作して、中央に表示しているリストを選ぶこともできます。
- ロータリーコマンドを左に2秒以上操作すると、トップメニューに戻ることができます。

ふだんの操作以外の便利な機能を使うときは、モードを切り換えて操作します。

1 メインメニューを表示させる

ロータリーコマンドを押す

「FUNCTION」、「AUDIO」、「ENTERTAINMENT」が表示されます。

2 ファンクションモードにする

ロータリーコマンドを回して「FUNCTION」を選び、ロータリーコマンドを押す

3 ファンクションモードを 切り換える

ロータリーコマンドを回す

ロータリーコマンドを回すごとに次のように切り換わります。(各モードの操作は、それぞれのモードの説明を参照してください。)

再生範囲切替モード (iPod 66 ページ)



シャッフルモード (iPod 66 ページ)



ポーズモード (iPod 67 ページ)



再生範囲切替モードに戻る

4 ファンクションモードを 解除する

BAND ボタンを押す

リモコンの場合

FUNCTION ボタンを押すごとに、ファンクションモードが切り換わります。

メモ

- ファンクションモードは、約30秒間何も操作しないと自動的に解除されます。

iPod
5

同じ曲や聞いている リストを繰り返し聞く

リピート再生

今聞いている曲を繰り返し聞いたり、今聞いているリストを繰り返し聞くなど、繰り返し再生する範囲を選ぶことができます。

再生範囲について

再生範囲（繰り返し聞く範囲）は、次の中から選ぶことができます。

表示	再生範囲
Repeat One	再生中の曲を繰り返し再生します。
Repeat All	再生中のリストを繰り返し再生します。

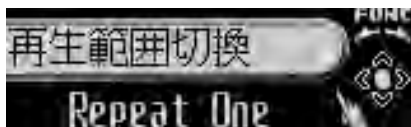
1 再生範囲切替モードにする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
( iPod 65 ページ)

2 リピート再生する範囲を選ぶ

ロータリーコマンドーを押す

ロータリーコマンドーを押すごとにリピート範囲が次のように切り換わります。



Repeat One (1曲リピート)
→ Repeat All (リスト内全曲リピート)
→ Repeat Oneに戻る

メモ

- 1曲リピートを選んだ場合、ロータリーコマンドーを左右に操作しても、曲を切り換えることはできません。

iPod
6

いつもと違う曲順で 聞く

シャッフル再生

いつもと違う曲順（ランダム）で再生することができます。

シャッフル再生について

シャッフル再生（シャッフル再生する方法）は、次の中から選ぶことができます。

表示	再生範囲
Shuffle OFF	曲を順番通りに再生します。
Shuffle Songs	再生中のリスト内の曲をランダムに再生します。
Shuffle Albums	アルバムをランダムに選び、選んだアルバム内の曲を順番通りに再生します。

1 シャッフルモードにする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
( iPod 65 ページ)

2 シャッフル設定を選ぶ

ロータリーコマンドーを押す

ロータリーコマンドーを押すごとにシャッフル設定が次のように切り換わります。



Shuffle OFF (オフ)
→ Shuffle Songs (ソングシャッフル)
→ Shuffle Albums (アルバムシャッフル)
→ Shuffle OFFに戻る

再生を一時停止する

ポーズ

再生を一時停止することができます。

1 ポーズモードにする

ロータリーコマンドを操作して選ぶ
(138 iPod 65 ページ)

2 再生を一時停止する

ロータリーコマンドを押す

ロータリーコマンドを押すごとにON/OFF
します。



タイトル表示を切り換える

タイトル表示 / タイトルスクロール

iPodに記録されている曲名やアーティスト
ネーム、アルバムタイトルなどを表示させ
ることができます。全角で7文字、半角で
14文字まで一度に表示することができます。
また、隠れている文字をスクロール表示で
見ることもできます。

1 表示を切り換える

DISPLAY ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わり
ます。

再生経過時間表示



アルバムタイトルと再生経過時間表示



曲名と再生経過時間表示



アーティストネームと再生経過時間表示



アーティストネームとアルバムタイトル



曲名とアルバムタイトル



再生経過時間表示に戻る

メモ

- 本機が表示できない文字がiPodに記録されている
場合、その文字は表示されません。

隠れている文字を表示させるには

DISPLAY ボタンを2秒以上押す

隠れている文字が順番に表示されます。

メモ

- 初期設定で連続スクロール機能をONにした場合、
タイトルが繰り返しスクロールして表示されます。
タイトルの最初の文字を表示させて、再びスク
ロールさせたいときは、DISPLAY ボタンを2秒以
上押してください。連続スクロールについては
(138 便利な機能 125 ページ)

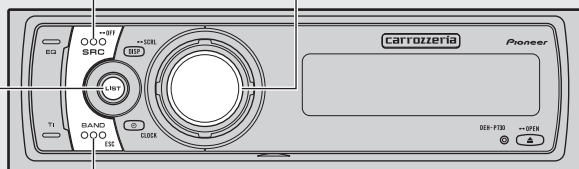
この操作で使用するボタン

ロータリーコマンドー

ソース
SOURCEボタン

リスト
LISTボタン

バンド
BANDボタン



テレビについて

本機でのテレビの基本的な操作方法を説明しています。テレビの機能について、詳しくは組み合わせたテレビの取扱説明書をご覧ください。

(画面例)



- 本機では、記憶させたチャンネルを一覧表示して見たいチャンネルを選ぶことができます。(☞ テレビ②)

テレビ
1

テレビのふだんの操作

ここだけの操作で、テレビを見ることができます。

1

ソースをテレビにする

SOURCE ボタンを押す

2

バンドを選ぶ

BAND ボタンを押す

3

チャンネルを選局する

ロータリーコマンドーを左右に操作する

選局方法の使い分け

手動選局 (1チャンネルずつ)	0.5秒未満押し
自動選局	0.5秒以上押し

4

テレビの受信をやめる

他のソースに切り換えるか、電源をOFFにする

メモ

- リモコンの1~6ボタンでお好みのチャンネルの記憶や呼び出しを行うことができます。(☞ ラジオ①② 46、47ページ)
- チャンネルリストモードでもチャンネルを記憶させることができます。(☞ テレビ③)

ファンクションモードの操作

ふだんの操作以外の便利な機能を使うときは、モードを切り換えて操作します。

1 メインメニューにする

ロータリーコマンドを押す

「FUNCTION」、「AUDIO」、「ENTERTAINMENT」が表示されます。

2 ファンクションモードにする

ロータリーコマンドを回して「FUNCTION」を選び、ロータリーコマンドを押す

3 操作したいモードを選ぶ

ロータリーコマンドを回す

ロータリーコマンドを回すごとに次にように切り換わります。

BSSMモード ↔ マルチプレックスモード ↔ BSSMモードに戻る

4 選んだモードを操作する

BSSMモード

ロータリーコマンドを押すごとにON/OFFします。BSSMが終了すると、自動的にチャンネルリストモードに切り換わります。

マルチプレックスモード

ロータリーコマンドを押すごとに次にように切り換わります。

Main → Sub → Main & Sub → Mainに戻る

5 ファンクションモードを解除する

BAND ボタンを押す

メモ

- ファンクションモードは、約30秒間何も操作しないと自動的に解除されます。
- BSSMとは、「Best Stations Sequential Memory (ベストステーションズシーケンシャルメモリー)」の略です。

チャンネル一覧から見たいチャンネルを呼び出す

チャンネルリスト

記憶番号1～12に記憶させたチャンネルの一覧(チャンネルリスト)から、見たいチャンネルを選ぶことができます。

チェック ◆ チャンネルリスト機能に対応しているテレビ(「AVX-P9DV」や「AVX-P7」など)で操作できます。

1 チャンネルリストモードにする

LIST ボタンを押す



2 見たいチャンネルを表示する

ロータリーコマンドを回す

ロータリーコマンドを回すごとにチャンネルが切り換わります。

3 見たいチャンネルを選ぶ

見たいチャンネルが中央に表示されているときに、ロータリーコマンドを押す
選んだチャンネルを受信します。

4 チャンネルリストモードを解除する

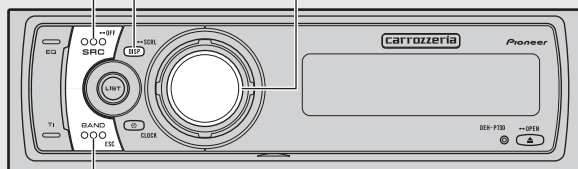
BAND ボタンを押す

メモ

- 受信中のチャンネルは反転表示されます。
- ロータリーコマンドを2秒以上押すと、中央に表示されている記憶番号に現在受信しているチャンネルを記憶させることができます。
- チャンネルリストモードは、8秒間何も操作しないと自動的に解除されます。

この操作で使用するボタン

ロータリーコマンドー

ソース
SOURCEボタンディスプレイ
DISPLAYボタンバンド
BANDボタン

DVD プレーヤーについて

本機でのDVDプレーヤー（例：マルチDVD「XDV-P70」、1枚型DVD「SDV-P7」）の基本的な操作方法を説明しています。DVDプレーヤーの機能について、詳しくは組み合わせたDVDプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

（画面例）

DVD
1

DVDのふだんの操作

ここだけの操作で、DVDプレーヤーでディスクを再生することができます。

1 ソースをDVDにする

SOURCE ボタンを押す

2 マルチDVDの場合、聞きたいディスクを選ぶ

ロータリーコマンドーを上下に操作する

3 聞きたいチャプター/トラックを選ぶ（または早送り/早戻し）

ロータリーコマンドーを左右に操作する

4 DVDプレーヤーの再生をやめる

他のソースに切り換えるか、電源をOFFにする

メモ

- マルチDVDの場合、リモコンの1～6ボタンで直接ディスクを選ぶこともできます。
（※ マルチCD ① 50 ページ）

表示を切り換える

マルチDVDプレーヤーで再生しているCDのタイトルを表示することができます。

1 表示を切り換える

DISPLAY ボタンを押す

ボタンを押すごとに、次のように切り換わります。

再生経過時間表示



ディスクタイトル



再生経過時間表示に戻る

メモ

- CDにタイトルが入力されている場合だけ、ディスクタイトル表示に切り換えることができます。

ファンクションモードの操作

ふだんの操作以外の便利な機能を使うときは、モードを切り換えて操作します。

1 メインメニューにする

ロータリーコマンドーを押す

「FUNCTION」、「AUDIO」、「ENTERTAINMENT」が表示されます。

2 ファンクションモードにする

ロータリーコマンドーを回して「FUNCTION」を選び、ロータリーコマンドーを押す

3 操作したいモードを選ぶ

ロータリーコマンドーを回す

ロータリーコマンドーを回すごとに次のように切り換わります。

DVD、ビデオ CD 再生時

再生範囲切換モード ↔ ポーズモード ↔ 再生範囲切換モードに戻る

CD 再生時

再生範囲切換モード ↔ ランダムモード ↔ スキャンモード ↔ ポーズモード ↔ ITS再生モード ↔ ITS入力モード ↔ タイトル入力モード ↔ 再生範囲切換モードに戻る

CD-ROM 再生時

再生範囲切換モード ↔ ランダムモード ↔ スキャンモード ↔ ポーズモード ↔ 再生範囲切換モードに戻る

4 選んだモードを操作する

再生範囲切換モード (DVD 再生時)

ロータリーコマンドーを押すごとに再生範囲が次のように切り換わります。

Disc repeat → Chapter repeat → Title repeat → Disc repeatに戻る

再生範囲切換モード (ビデオ CD、CD 再生時)

ロータリーコマンドーを押すごとに再生範囲が次のように切り換わります。

Disc repeat → Track repeat → Disc repeatに戻る

再生範囲切換モード (CD-ROM 再生時)

ロータリーコマンドーを押すごとに再生範囲が次のように切り換わります。

Disc repeat → Track repeat → Folder repeat → Disc repeatに戻る

ランダムモード

ロータリーコマンドーを押すごとにON/OFFします。

スキャンモード

ロータリーコマンドーを押すごとにON/OFFします。

ポーズモード

ロータリーコマンドーを押すごとにON/OFFします。

タイトル入力モード

タイトル入力モードの操作方法はマルチ CD と同じです。(☞ マルチ CD 58 ページ)

ITS 再生モード

ITS 再生モードの操作方法はマルチ CD と同じです。(☞ マルチ CD 55 ページ)

ITS 入力モード

ITS 入力モードの操作方法はマルチ CD と同じです。(☞ マルチ CD 54 ページ)

5 ファンクションモードを解除する

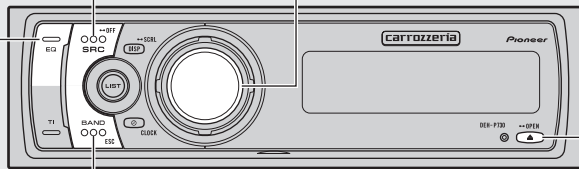
BAND ボタンを押す

メモ

- ファンクションモードは、約30秒間何も操作しないと自動的に解除されます。ただし、タイトル入力モードやITS入力モードを選んでいる場合は、自動では解除されません。
- 「CD TEXT」に対応しているDVDプレーヤーで「CD TEXT」を再生しているときは、タイトル入力モードには切り換わりません。（「CD TEXT」にあらかじめ収録されているタイトルは変更できません。）
- マルチDVDプレーヤー（「XDV-P9II」など）を組み合わせた場合だけ、ITS再生モード、ITS入力モードに切り換わります。

この操作で使用するボタン

イコライザー EQボタン ソース SOURCEボタン ロータリーコマンドー



バンド BANDボタン

イジェクト
▲ボタン

本機に「DEQ-P9」を接続している場合

ここでは、本機の内蔵DSPの機能について説明しています。本機に、別売の5.1ch対応・DSPユニット「DEQ-P9」を接続している場合は、(※)別売DSP① 92ページ (「内蔵DSP」の機能は使用できません。)

内蔵DSP

1

オーディオ調節のポイント

心地よい音の空間を手軽に演出したり、お好みに合わせてきめ細かく調節することができます。

手軽に心地よい音場を演出する

次の機能は、車種によって異なる音響特性に合わせた音場を手軽に演出することができます。

- イコライザーカーブを選ぶ
- 音場の中心で聞く (Position)
- イコライザーカーブを大まかに補正する
- オートタイムアライメント&イコライジングを行う (Auto TA & EQ)

便利な機能

次の機能は、お好みに合わせてお使いください。

- 小音量時の音にメリハリをつける (LOUD)
- イメージに合った演奏会場を再現する (SFC)
- 騒音に合わせて自動的に音量を変える (ASL)
- 各ソースの音量の違いをそろえる (SLA)

きめ細かくお好みに合わせて調節する

次の順に設定や調節をすることで、きめ細かくお好みの音場を作り出すことができます。

- 前後左右の音量バランスを調節する (Fader/Balance)
- サブウーファーを使う (Sub W.1, Sub W.2, SW-slope)
- 低い音をスピーカーから出力させないようにする (F-Slope, F-HPF, R-Slope, R-HPF)
- イコライザーカーブを選ぶ
- イコライザーカーブを大まかに補正する
- イコライザーカーブを細かく調節する

メモ

- DSPとは、「Digital Signal Processor」の略です。DSPを使うことで、細かな音の調節が可能になります。

オーディオ調節モードの切り換えかた

音を調節するときは、オーディオ調節モードを切り換えて操作します。

1 メインメニューにする

ロータリーコマンドを押す

「FUNCTION」、「AUDIO」、「ENTERTAINMENT」が表示されます。


2 オーディオ調節モードにする

ロータリーコマンドを回して「AUDIO」を選び、ロータリーコマンドを押す


3 オーディオ調節モードを切り換える

ロータリーコマンドを回す

ロータリーコマンドを回すごとにオーディオ調節モードが次のように切り換わります。(各モードの操作は、それぞれのモードの説明を参照してください。)

音量バランス調節モード (Fader/Balance)
( 内蔵 DSP④ 76 ページ)


リスニングポジション (Position)
( 内蔵 DSP⑤ 76 ページ)


タイムアライメントモード1 (TA Mode)
( 内蔵 DSP⑥ 77 ページ)


タイムアライメントモード2 (Time A)
( 内蔵 DSP⑥ 78 ページ)


ラウドネスモード (LOUD)
( 内蔵 DSP⑩ 85 ページ)

イコライザー調節モード
(ニュアンスコントロール)
( 内蔵 DSP⑪ 83 ページ)

イコライザー 13 バンド調節モード
( 内蔵 DSP⑫ 84 ページ)

サブウーファーモード1 (Sub W.1)
( 内蔵 DSP⑬ 79 ページ)

サブウーファーモード2 (Sub W.2)
( 内蔵 DSP⑬ 79 ページ)

サブウーファーモード3 (SW-slope)
( 内蔵 DSP⑬ 79 ページ)

ハイパスフィルターモード1 (フロント)
(F-Slope) ( 内蔵 DSP⑭ 80 ページ)

ハイパスフィルターモード2 (フロント)
(F-HPF) ( 内蔵 DSP⑭ 80 ページ)

ハイパスフィルターモード1 (リア)
(R-Slope) ( 内蔵 DSP⑭ 80 ページ)

ハイパスフィルターモード2 (リア)
(R-HPF) ( 内蔵 DSP⑭ 80 ページ)

SFCモード (SFC)
( 内蔵 DSP⑮ 86 ページ)

オートイコライザーモード (AUTO EQ)
( 内蔵 DSP⑯ 82 ページ)

ASLモード (ASL)
( 内蔵 DSP⑰ 87 ページ)

SLAモード (SLA)
( 内蔵 DSP⑰ 87 ページ)

音量バランス調節モードに戻る

4 オーディオ調節モードを解除する

BAND ボタンを押す

メモ

- オーディオ調節モードは、約30秒間何も操作しないと自動的に解除されます。ただし、イコライザー 13 バンド調節モードやタイムアライメントモード2 (Time A) を選んでいる場合、自動では解除されません。
- サブウーファーモード2 (Sub W.2) とサブウーファーモード3 (SW-slope) はサブウーファーモード1 (Sub W.1) でサブウーファーをONにしているときだけ切り換わります。
- ラジオのFMを聞いているときは、SLAモード (SLA) には切り換わりません。

内蔵DSP

3

リスニングポジションを選ぶ

リスニングポジション

乗車位置や人数に合わせて、リスニングポジション(聞く位置)を選ぶことで、音像の定位を適切に補正することができます。

リスニングポジションについて

リスニングポジションは、座席位置や人数に合わせて、各スピーカーから出る音の遅延時間とレベルを自動的に調節する機能です。SFC機能と組み合わせることで、全身を包むような豊かな音場を体感することができます。

1 リスニングポジションモード(Position)にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
(内蔵DSP 75ページ)

2 乗車位置を選ぶ

ロータリーコマンドーを上下左右に操作する

ロータリーコマンドーを同じ方向に操作することによりON/OFFします。

右: F/R

左: F/L

上: Front

下: ALL

表示	乗車位置
F/R (Front Right)	右ハンドル車に運転者のみがいるとき
F/L (Front Left)	左ハンドル車に運転者のみがいるとき
Front (Front Seat)	同乗者が助手席にいるとき
ALL (All Seat)	同乗者が後部座席にいるとき



選んだ乗車位置が表示されます。

内蔵DSP

4

前後左右の音量バランスを調節する

フェーダー/バランス

前後左右のスピーカーの音量バランスを調節することができます。

1 音量バランス調節モード(Fader/Balance)にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
(内蔵DSP 75ページ)

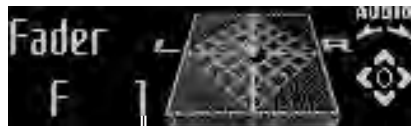
2 音量バランスを調節する

■ 前後を調節する

ロータリーコマンドーを上下に操作する

上: 前を強めるとき

下: 後ろを強めるとき



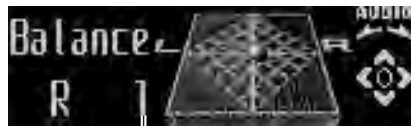
前後のバランスはF25~R25の範囲で調節できます。

■ 左右を調節する

ロータリーコマンドーを左右に操作する

右: 右を強めるとき

左: 左を強めるとき



左右のバランスはL25~R25の範囲で調節できます。

タイムアライメント を選ぶ

タイムアライメント

お好みのタイムアライメントを選ぶことができます。

タイムアライメントについて

タイムアライメントは、各スピーカーからリスニングポジションまでの距離を調節することで、音声の到達時間を補正し、音像の定位や全体的なバランスを調節する機能です。

1 タイムアライメントモード1 (TA Mode) にする

ロータリーコマンドを操作して選ぶ
(内蔵DSP 75ページ)

2 タイムアライメントを選ぶ

ロータリーコマンドを左右に操作する

ロータリーコマンドを左右に操作することに次のように切り換わります。

Init ↔ Custom ↔ Auto ↔ OFF



タイムアライメントの種類	内容
Init (Initial)	初期設定状態（ご購入直後の状態）
Custom	お好みに合わせて調節したタイムアライメント
Auto (Auto TA)	Auto TA & EQで調節したタイムアライメント (<small>内蔵DSP</small> 90ページ)
OFF	タイムアライメントをOFFにします。

メモ

- Auto TA & EQ (内蔵DSP 90ページ) を行っていないときは、“Auto” を選ぶことはできません。（“Auto TAを設定してください”と表示されます。）

タイムアライメントを調節する

タイムアライメント調節

各スピーカーからリスニングポジションまでの距離を調節することで、音声の到達時間を補正し、音像の定位や全体的なバランスを調節することができます。リスニングポジション (内蔵DSP 76ページ) を設定することで自動的に設定されますが、タイムアライメントではさらに厳密な調節をすることができます。

1 タイムアライメントモード1 (TA Mode) にする

ロータリーコマンドを操作して選ぶ
(内蔵DSP 75ページ)

2 調節の元にするタイムアライメントを選ぶ

ロータリーコマンドを左右に操作して選ぶ (内蔵DSP 77ページ)

3 タイムアライメントモード2 (Time A) にする

ロータリーコマンドを右に回して選ぶ

確認

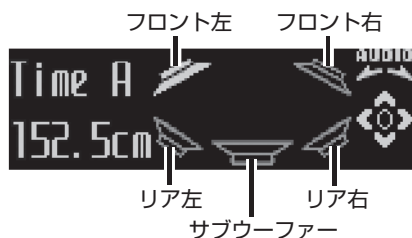
リスニングポジションモードで“F/R”が“F/L”を選んでいないと、タイムアライメントの調節をすることはできません。(“TA調整不可 POSI FL/FR選択下さい”と表示されます。)

4 各スピーカーの距離を調節する

■ 調節するスピーカーを選ぶ

ロータリーコマンドを左右に操作することに次のように切り換わります。

フロント左スピーカー ↔ フロント右スピーカー ↔ リア右スピーカー ↔ リア左スピーカー ↔ サブウーファー (サブウーファーがONのとき)



■ 距離を調節する

ロータリーコマンドを上下に操作する

上: 距離を遠くするとき
下: 距離を近くするとき



0.0 cm ~ 400.0 cm の範囲で調節できます。

5 タイムアライメントモード2 を解除する

BAND ボタンを押す

メモ

- タイムアライメントモード1 (TA Mode) でOFFを選んでいるときは、タイムアライメントモード2 (Time A) には切り換わりません。
- サブウーファーモード1 (Sub W.1) でサブウーファーをOFFにしているときは、サブウーファーの調節はできません。
- タイムアライメントを調節すると、“Custom”に記憶されます。

本機では、RCA出力端子に接続したサブウーファーを調節することができます。(この機能は、初期設定でOFFになっています。)



位相切り換えについて

サブウーファーから出力される音の中には、フロント/リアスピーカーから出力される音と同じ周波数帯域のものが含まれています。車内条件により、これらの音の位相どろろしが反転(干渉)すると、その周波数帯域が打ち消し合ってしまうことがあります。この現象を防ぐものが、サブウーファーの位相切り換えです。車内条件によって、位相の正相(フロント/リアスピーカーと同時に出力される)が良いか、逆相(フロント/リアスピーカーとタイミングをずらして出力される)が良いかを選んで設定してください。

カットオフ周波数について

選んだ周波数より低い周波数の音域がサブウーファーから出力されます。

1 サブウーファーモード1 (Sub W.1) にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
( 内蔵DSP  75ページ)

2 サブウーファーをONにする

ロータリーコマンドーを押す

ロータリーコマンドーを押すごとにON/OFFします。



3 位相を切り換える

ロータリーコマンドーを左右に操作する

右: Normal (正相)
左: Reverse (逆相)



4 サブウーファーモード2 (Sub W.2) にする

ロータリーコマンドーを右に回して選ぶ

5 カットオフ周波数とレベルを調節する

■ 周波数を選ぶ

ロータリーコマンドーを左右に操作する

右: 高い周波数を選ぶとき
左: 低い周波数を選ぶとき



50、63、80、100、125、160、200 (Hz) の中から選ぶことができます。

■ レベルを調節する

ロータリーコマンドーを上下に操作する

上: レベルを大きくするとき
下: レベルを小さくするとき



レベルは-24~+6の範囲で調節できます。

内蔵DSP

7

サブウーファーを使う

(つづき)

サブウーファー

6 サブウーファーモード3 (SW-slope) にする

ロータリーコマンドを右に回して選ぶ

7 スロープを調節する

ロータリーコマンドを左右に操作する

ロータリーコマンドを左右に操作することに次のように切り換わります。

18 ↔ 12 ↔ 6 (dB/oct.)



メモ

- サブウーファーモード1 (Sub W.1) でサブウーファーをOFFにしているときは、サブウーファーモード2 (Sub W.2) とサブウーファーモード3 (SW-slope) には、切り換わりません。

内蔵DSP

8

低い音を出力しないようにする

選んだ周波数より低い周波数の音が各スピーカーから出力されなくなります。フロントスピーカー、リアスピーカーのそれぞれでお好みの周波数を設定することができます。(スロープをPass (0dB/oct.) に設定するとオーディオ信号はフィルター回路を回避するため、ハイパスフィルターは効果がなくなります。)

ハイパスフィルター (HPF) について

ハイパスフィルターは、設定した周波数から下の音域(低域)をカットして、高域を通すフィルターです。ハイパスフィルターをONにすることにより、サブウーファーとの音のつながりを調節することができます。

カットオフ周波数について

選んだ周波数より高い音域がフロントまたはリアスピーカーから出力されます。

スロープについて

スロープは、周波数が1オクターブ高く(または低く)なったときに、信号が何dB減衰するかを表す値です(単位: dB/oct.)。傾きを急にすると、信号が減衰する割合が大きくなります。本機では、-6dB/oct. と -12dB/oct.、PASSの中から選ぶことができます。

スピーカーにミュートをかける

各スピーカーをミュートすることができます。ミュートしたスピーカーからは、音が出なくなります。

- 選んだスピーカーをミュートした場合、“MUTE”が表示され、そのスピーカーは、何も調節できなくなります。
- ミュートしたスピーカー以外のスピーカーは、調節することができます。

1 ハイパスフィルターモード1 (F-Slope、R-Slope) にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ

( 内蔵 DSP  75 ページ)

F-Slope : フロントスピーカーをミュートするとき

R-Slope : リアスピーカーをミュートするとき

2 選んだスピーカーをミュートする

ロータリーコマンドーを2秒以上押す

もう一度ロータリーコマンドーを押すと、ミュートが解除されます。



“MUTE”が表示されます。

ハイパスフィルターを設定する

1 ハイパスフィルターモード1 (F-Slope、R-Slope) にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ

( 内蔵 DSP  75 ページ)

F-Slope : フロントスピーカーを調節するとき

R-Slope : リアスピーカーを調節するとき

2 スロープを調節する

ロータリーコマンドーを左右に操作する

ロータリーコマンドーを左右に操作することに次のように切り換わります。

12 ↔ 6 ↔ Pass (0) (dB/oct.)



次のページへつづく

内蔵DSP

8

低い音を出力しないようにする (つづき)

ハイパスフィルター (HPF)

3

ハイパスフィルターモード2 (F-HPF、R-HPF) にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ

(※ 内蔵DSP② 75ページ)

F-HPF : フロントスピーカーを調節するとき

R-HPF : リアスピーカーを調節するとき

4

カットオフ周波数とレベルを調節する

■ 周波数を選ぶ

ロータリーコマンドーを左右に操作する

右 : 高い周波数を選ぶとき

左 : 低い周波数を選ぶとき



50、63、80、100、125、160、200 (Hz)の中から選ぶことができます。

■ レベルを調節する

ロータリーコマンドーを上下に操作する

上 : レベルを大きくするとき

下 : レベルを小さくするとき



レベルは-24~0の範囲で調節できます。

内蔵DSP

9

オートイコライザーをON/OFFする

オートイコライザー

Auto TA & EQ (※ 内蔵DSP⑩ 90ページ)で作成したオートイコライザーカーブをON/OFFすることができます。

1

オートイコライザーモード (AUTO EQ) にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ

(※ 内蔵DSP② 75ページ)

2

オートイコライザーをON/OFFする

ロータリーコマンドーを押す

ロータリーコマンドーを押すごとにON/OFFします。



メモ

- Auto TA & EQ (※ 内蔵DSP⑩ 90ページ)を行っていないときは、オートイコライザーモードの操作はできません。(“Auto EQを設定してください”と表示されます。)

内蔵DSP

10

イコライザーカーブ を選ぶ

あらかじめ用意されたイコライザーカーブの中から、お好みのイコライザーカーブを選ぶことができます。

Custom について

“Custom1”と“Custom2”は、お好みに合わせて調節することができます。

( 内蔵DSP⑩ 84ページ)

Flat について

イコライザーによる音の補正はされています。設定したイコライザーカーブと交互に切り換えることで、設定したイコライザーカーブの効果を確認することができます。

1 イコライザーカーブを選ぶ

EQ ボタンを押す


ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

Venus Voice → H. Groove (Hyper Groove) → A. Cafe (Acoustic Cafe) → Flat → Custom1 → Custom2 → Cyber Pop → Venus Voiceに戻る



選んだイコライザーカーブが表示されます。

メモ

- 交通情報 ( **便利な機能④ 113ページ**) を受信しているときは、イコライザーカーブを選ぶことはできません。

内蔵DSP

11

イコライザーカーブ を大まかに補正する

ニュアンスコントロール

あらかじめ用意されたイコライザーカーブを調節することで、お好みの音質をつくることができます。

1 イコライザー調節モードを選ぶ

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ

( 内蔵DSP⑪ 75ページ)

2 調節したいイコライザーカーブを選ぶ

ロータリーコマンドーを左右に操作して選ぶ

ロータリーコマンドーを左右に操作することに次のように切り換わります。

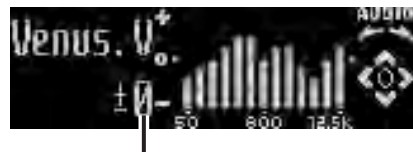
Venus.V (Venus Voice) → Groove (Hyper Groove) → A. Cafe (Acoustic Cafe) → Flat → Custom1 → Custom2 → C.Pop (Cyber Pop) → Venus.Vに戻る

3 イコライザーカーブを調節する

ロータリーコマンドーを上下に操作する

上：強めるとき

下：弱めるとき



-6～+6の範囲で調節できます。

メモ

- “Flat” や “Custom1”、“Custom2” では、ニュアンスコントロールはできません。

イコライザーカーブを細かく調節する

イコライザー 13バンド調節

お好みに合わせて、イコライザーカーブの周波数レベルを細かく調節することができます。

Custom1 について

“Custom1”には、お好みに合わせて調節したイコライザーカーブがソースごとに記憶されます。(内蔵CDとマルチCD、External1とExternal2は、同じ設定になります。)

“Custom2”以外のカーブを選んでいるときに調節すると、“Custom1”に記憶されます。

Custom2 について

“Custom2”は、すべてのソースに共通したイコライザーカーブで、お好みに合わせて調節することができます。

“Custom2”を選んでいるときに調節すると、調節したカーブが新しい“Custom2”として記憶されます。

1 調節したいイコライザーカーブを選ぶ

EQ ボタンを押して選ぶ

( 内蔵 DSP⑩ 83 ページ)

2 イコライザー 13バンド調節モードにする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ

( 内蔵 DSP② 75 ページ)

3 各周波数ごとのレベルを調節する

■ 周波数を選ぶ

ロータリーコマンドーを左右に操作する

右：高い周波数を選ぶとき

左：低い周波数を選ぶとき



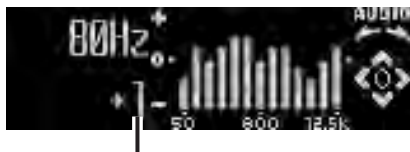
50、80、125、200、315、500、800、1.25k、2k、3.15k、5k、8k、12.5k (Hz) の中から選ぶことができます。

■ レベルを調節する

ロータリーコマンドーを上下に操作する

上：強めるとき

下：弱めるとき



−6～+6の範囲で調節できます。

調節したイコライザーカーブは、そのまま保存されます。

4 イコライザー 13バンド調節モードを解除する

BAND ボタンを押す

小音量時の音に メリハリをつける

ラウドネス

小さな音量で聞いているときの、低・高音の不足感を補正して、メリハリのある音にすることができます。

1 ラウドネスモード (LOUD) に する

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ

( 内蔵DSP④ 75ページ)

2 ラウドネスをONにする

ロータリーコマンドーを押す

ロータリーコマンドーを押すごとにON/OFFします。



SFCでは、実際にその演奏会場にいるかのような音場を再現することができます。また、BBEではレベルを調節することができます。

SFCについて

SFCとは、「Sound Field Control (サウンドフィールドコントロール)」の略です。SFCでは、車室内にリアルな音場を再現することができます。Studio、Clubなどの3つの音場空間を再現するプログラムが用意されています。

BBEについて

BBEは、音楽再生時に発生する高調波成分の遅延や振幅の狂いを、位相補正と高域ブーストを組み合わせることで修復することで、極めて原音に近い再生音にすることができます。このため、鮮明度が高く、ライブ演奏に近い自然な臨場感を再現することができます。

1 SFCモード (SFC) にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ

( 内蔵DSP② 75ページ)

2 音場プログラムを選ぶ

ロータリーコマンドーを左右に操作する

ロータリーコマンドーを左右に操作するごとに次のように切り換わります。

Studio ↔ Jazz. C (Jazz Club) ↔ Club
↔ BBE ↔ OFF



選んだ音場プログラムが表示されます。

BBEを選ぶ場合

1 SFCモード (SFC) にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ

( 内蔵DSP② 75ページ)

2 BBEを選ぶ

ロータリーコマンドーを左右に操作して選ぶ

3 BBEのレベルを調節する

ロータリーコマンドーを上下に操作する

上：レベルを大きくするとき

下：レベルを小さくするとき



レベルは-4~+4の範囲で調節できます。

メモ

● BBEについては、( はじめに② 11ページ)

騒音に合わせて 音量を変える


ASL

騒音に合わせて、自動的に音量が変わるようにすることができます。

ASLについて

ASLとは、「Automatic Sound Levelizer (オートマチック サウンド レベライザー)」の略です。ASLは、走行速度や道路状況によって変化する車内の騒音を検出して、騒音が大きくなると自動的に音量を大きくする機能です。

1 ASLモード (ASL) にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
( 内蔵DSP② 75ページ)

2 ASLをONにする

ロータリーコマンドーを押す
ロータリーコマンドーを押すごとにON/OFFします。

3 ASLの感度を選ぶ

ロータリーコマンドーを左右に操作する
ロータリーコマンドーを左右に操作することにより、次のように切り換わります。
Low ↔ Mid-L (Mid-Low) ↔ Mid ↔ Mid-H (Mid-High) ↔ High



メモ

- 音量が十分にあるときは、騒音が大きくても音量の上げ幅は小さくなります。
- この機能が働いて音量が上がりがすぎたとき、音が歪むことがあります。そのときは音量を下げてください。

各ソースの音量の 違いをそろえる

SLA

ソースを切り換えたとき音量に違いが出ないように、FMの音量を基準にして各ソースの音量をそろえることができます。

1 FMを受信し、FMの音量を確かめる

SOURCE ボタンを押す
( ここだけで④ 26ページ)

2 調節したいソースに切り換える

SOURCE ボタンを押す
( ここだけで① 20ページ)

3 SLAモード (SLA) にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
( 内蔵DSP② 75ページ)


4 レベルを調節する

ロータリーコマンドーを上下に操作する
上：レベルを大きくするとき
下：レベルを小さくするとき



−4～+4の範囲で調節できます。

メモ

- SLAとは「Source Level Adjuster (ソースレベルアジャスター)」の略です。
- FMの音量を基準に他のソースとの音量差を調節するため、FMを聞いているときは、SLAモード (SLA) に切り換えることはできません。
- AM、テレビ、DVD、CD、External (エクスターナルユニット)、AUX (外部機器) のそれぞれの音量差を調節することができます。なお、内蔵CDとマルチCD、External1とExternal2、およびAMと交通情報 ( 便利な機能④ 113ページ) は同じ設定になります。

オートタイムアライメント&イコライジングを行う前に

車室内の音響特性を自動的に計測して、最適になるように自動補正することができます。



警告

運転中に Auto TA & EQ を行わない



自動車が走行中に Auto TA & EQ を行わないでください。Auto TA & EQ 機能は車室内の音響特性を測定するために、スピーカーから大音量の計測音を出すことがあります。この場合、運転の妨げになり事故の原因となることがあります。

スピーカー破損防止について

次の状態で Auto TA & EQ を行うと、スピーカーが破損する恐れがあります。Auto TA & EQ を行う前に、よく確認してください。

- スピーカーの接続を誤っている場合
(例：サブウーファー出力にリアスピーカーを接続している場合)
- スピーカーの耐入力を超える出力のパワーアンプを接続している場合

Auto TA & EQ 機能について

- 車室内空間は、その広さや複雑な形状、材質により、ホームオーディオに比べ、一般的に音響特性が大きく乱れています。このような車室内の音響特性を補正するためにイコライザーを使用しますが、測定器などを使用せずに設定するのはかなり困難な作業になります。
- 本機の Auto TA & EQ 機能は、車室内の音響特性を自動的に測定し、そのデータに基づいて、車室内の音響特性が乱れの少ない滑らかな特性に近づくように自動的に補正します。(イコライザーカーブを呼び出したときは、Auto TA & EQ により乱れの少ない滑らかな特性になったうえでイコライザーカーブが設定されますので、より効果的になります。) また、各スピーカーからリスニングポジションまでの距離を自動的に測定し、音声の到達時間を補正し、音像の定位や全体的なバランスを調整します。

Auto TA&EQを行う前にお読みください

- Auto TA & EQは、なるべく静かなところで、車のエンジンおよびエアコンやヒーターを止めて行ってください。また、携帯電話や自動車電話などを車載している場合は、電話を車外へ持ち出すか電源を切ってからAuto TA & EQを行ってください。計測音以外の音（車周辺の騒音、エンジン音、電話の着信音など）によって、車室内の音響特性が正しく測定できないことがあります。
- Auto TA & EQは、必ず本機に付属の音響特性測定用マイクを使用して行ってください。付属のマイク以外では、Auto TA & EQが実行できなかったり、車室内の音響特性が正しく測定できません。
- フロントスピーカーが接続されていない場合は、Auto TA & EQが実行できません。
- フロントスピーカーをミュートしている場合は、Auto TA & EQが実行できません。
- 入力レベルコントロール付きのパワーアンプを接続している場合、パワーアンプの入力レベルコントロールを下げておくと、Auto TA & EQが実行できない場合があります。パワーアンプの入力レベルコントロールは推奨位置に合わせてください。
- ローパスフィルター付きのパワーアンプを接続している場合、パワーアンプのローパスフィルターはOFFにして測定してください。また、パワードサブウーファー内蔵のローパスフィルターは、遮断周波数を最も高い値に設定してください。
- Auto TA & EQ測定時に算出したタイムアライメントの値は、次の場合に実際の距離と異なることがありますが、計測状況によりコンピューターが算出した正確な遅延時間をもとに設定された距離です。そのままの値でご使用ください。
 - * 車室内の反射音が直接音より強く、かつ遅延を生じている場合。
 - * パワードサブウーファーや外部アンプのローパスフィルターの影響により、低音に遅延が生じている場合。

- Auto TA & EQを行うと、各モードの内容が次のように変更されます。

- * 前後左右の音量バランス調節（フェーダー/バランス）の設定がリセットされ、初期設定に戻ります。
- * イコライザーカーブは、フラット（FLAT）になります。
- * リスニングポジションセレクターは、F/R（Front Right）に設定されます。（ただし、F/L（Front Left）に設定していたときだけは、F/Lのままになります。）
- * サブウーファーを接続している場合、サブウーファー出力とリアハイパスフィルターの設定が調節されます。（サブウーファー出力をOFFにしても、自動的にONになり調節されます。）

Auto TA&EQの調節内容について

- 一度Auto TA & EQを行ったあとに、再度Auto TA & EQを行うと、前のAuto TA & EQの調節内容は消去されます。

1 計測する環境を整える

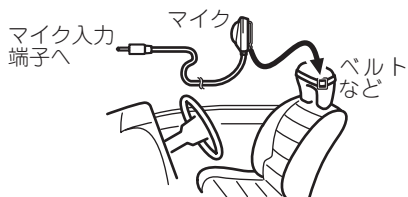
- 静かな所に車を停車させる
- ドア、窓、サンルーフなどを閉める
- 車のエンジンを停止させる
- エアコンやヒーターをOFFにする
- AUX1/マイク入力端子から、2.5φ超ミニプラグや音響特性測定用マイクを抜く

ご注意

AUX1/マイク入力端子に何か接続されている状態では、Auto TA & EQ設定モードに切り換えることはできません。

2 音響特性測定用マイクをセットする

ベルトなどを使用して、運転席のヘッドレストの中央に付属の音響特性測定用マイクを前向きに固定する



ご注意

マイクの取付位置が悪いと、測定音が大きくなったり測定時間がかかったりして、車のバッテリーが上がる恐れがあります。マイクは必ず指定の位置に取り付けてください。

3 車のエンジンスイッチをACCまたはONにする

ご注意

車のエアコンやヒーターがONになっている場合は、OFFにしてください。エアコンやヒーターのファンの騒音によってAuto TA & EQが実行できないことがあります。

4 本機の電源を入れる

SOURCE ボタンを押す

5 乗車位置を決定する

リスニングポジションモードを選び、マイクをセットした座席を乗車位置に設定する (E3 内蔵DSP 76ページ)

メモ

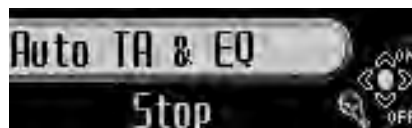
- 乗車位置をF/RまたはF/L以外に設定したときは、Auto TA & EQを始めると、強制的にF/Rに再設定されます。

6 本機の電源を切る

SOURCE ボタンを1秒以上押す

7 Auto TA & EQ設定モードにする

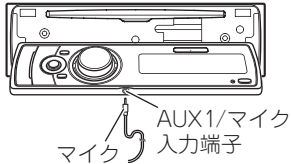
EQ ボタンを2秒以上押す



フロントパネルが自動的に開きます。

8 マイクを本機に接続する

付属の音響特性測定用マイクを
AUX1/マイク入力端子に接続する



メモ

- Auto TA & EQをはじめてから測定が終了するまでに数分かかります。測定時間は周囲の騒音状態、車両形状、スピーカーの数などにより変わります。
- AUX1/マイク入力端子にマイクがしっかりと挿入されていない状態でAuto TA & EQを行うと、エラーが生じます。マイクを確実に挿入してから、Auto TA & EQを行ってください。

9 Auto TA & EQを開始する

ロータリーコマンドを押す



メモ

- もう一度ロータリーコマンドを押すと、途中解除します。

10 車の外に出る

10秒のカウントダウンが始まるので、
10秒以内に車外に出て、ドアを閉める
計測音(ノイズ)が各スピーカーから出力され、Auto TA & EQが始まります。

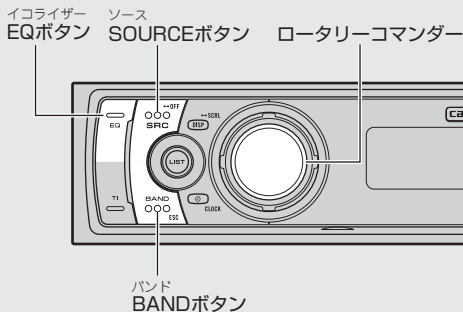
11 Auto TA & EQが自動的に終了する

Auto TA & EQが終わったら、セットした音響特性測定用マイクを取り外し、BANDボタンを押して電源を切り、▲ボタンを2秒以上押ししてフロントパネルを開けてください。

メモ

- Auto TA & EQを途中でやめたいときは、BANDボタンを押すと、強制的に解除することができます。
- マイクをセットする位置により、Auto TA & EQの調節内容が変わります。お好みにより、助手席にセットすることもできます。
- マイクはグローブボックスなどに入れて、大切に保管してください。直射日光の当たる場所に長時間放置すると、高温による変形、変色、故障の原因になる恐れがあります。

この操作で使用するボタン



本機に「DEQ-P9」を接続している場合

ここでは、本機に別売の5.1ch対応・DSPユニット「DEQ-P9」を接続している場合の「別売DSP」の機能について説明しています。本機に別売の5.1ch対応・DSPユニット「DEQ-P9」を接続しているときだけ操作できます。

別売DSP

1

オーディオ調節のポイント

心地よい音の空間を手軽に演出したり、お好みに合わせてきめ細かく調節することができます。

手軽に心地よい音場を演出する

次の機能は、車種によって異なる音響特性に合わせた音場を手軽に演出できます。

- イコライザーカーブを選ぶ
- リスニングポジションを選ぶ (Position)
- ダイナミックレンジコントロールを使う (DRC)
- オートタイムアライメント&イコライジングを行う (Auto TA & EQ)

便利な機能

次の機能は、お好みや設定に合わせてお使いください。

- ドルビープロロジックIIを使う (Dolby PL II)
- SFCで音場を再現する (SFC)
- ダウンミックス機能を使う (DownMIX)
- オリジナルの音質で聞く (DIRECT)

きめ細かくお好みに合わせて調節する

次の順に設定や調節することで、きめ細かくお好みの音場を作り出すことができます。

- 接続したスピーカーの設定をする (SP Set)
- リスニングポジションを選ぶ (Position)
- オートタイムアライメント&イコライジングを行う (Auto TA & EQ)
- タイムアライメントを調節する (Time A)
- テストトーンでスピーカーレベルを調節する (T Tone)
- クロスオーバー周波数を設定する (X. Over)
- スピーカーレベルを調節する (SP Lev)
- 3バンドパラメトリックイコライザーを調節する (PEQ)

オーディオ調節モードの切り換え

音を調節するときは、オーディオ調節モードを切り換えて操作します。

1 メインメニューにする

ロータリーコマンドを押す

「FUNCTION」、「AUDIO」、「ENTERTAINMENT」が表示されます。

2 オーディオ調節モードにする

ロータリーコマンドを回して「AUDIO」を選び、ロータリーコマンドを押す

3 オーディオ調節モードを切り換える

ロータリーコマンドを回す

ロータリーコマンドを回すごとにオーディオ調節モードが次のように切り換わります。(各モードの操作は、それぞれのモードの説明を参照してください。)

音量バランス調節モード (Fader/Balance)
(別売 DSP ③ 94 ページ)

リスニングポジションモード (Position)
(別売 DSP ④ 94 ページ)

ドルビープロロジックII モード (Dolby PL II)
(別売 DSP ⑤ 95 ページ)

ドルビープロロジックII ミュージックモード (MUSIC)
(別売 DSP ⑥ 96 ページ)

SFCモード (SFC)
(別売 DSP ⑦ 97 ページ)

ダウンミックスモード (DownMIX)
(別売 DSP ⑧ 98 ページ)

ダイナミックレンジコントロールモード (DRC)
(別売 DSP ⑨ 98 ページ)

ダイレクトモード (DIRECT)
(別売 DSP ⑩ 99 ページ)

SLAモード (SLA)
(別売 DSP ⑪ 99 ページ)

オートイコライザーモード (AUTO EQ)
(別売 DSP ⑫ 100 ページ)

スピーカー設定モード (SP Set)
(別売 DSP ⑬ 104 ページ)

クロスオーバー周波数モード (X. Over)
(別売 DSP ⑭ 106 ページ)

スピーカーレベル調節モード (SP Lev)
(別売 DSP ⑮ 107 ページ)

テストトーンモード (T Tone)
(別売 DSP ⑯ 107 ページ)

タイムアライメント選択モード (TA Mode)
(別売 DSP ⑰ 108 ページ)

タイムアライメント調節モード (Time A)
(別売 DSP ⑱ 108 ページ)

イコライザー選択モード
(別売 DSP ㉒ 109 ページ)

3バンドパラメトリックイコライザーモード (PEQ)
(別売 DSP ㉔ 110 ページ)

音量バランス調節モードに戻る

4 オーディオ調節モードを解除する

BAND ボタンを押す

メモ

- オーディオ調節モードは、約30秒何も操作しないと自動的に解除されます。ただし、テストトーンモード(T Tone)やタイムアライメント調節モード(Time A)、3バンドパラメトリックイコライザーモード(PEQ)を選んでいる場合、自動では解除されません。
- ラジオのFMを聞いているときは、SLAモードには切り換わりません。
- DVDディスクを再生しているとき以外は、ダイナミックレンジコントロールモード(DRC)には切り換わりません。
- リスニングポジションモードでF/LがF/Rを選んでいると、タイムアライメント調節モード(Time A)には切り換わりません。
- オートタイムアライメント&イコライジングを行っていない場合は、オートイコライザーモード(AUTO EQ)は操作できません。
- ダイレクトがONの間は、音量調節(VOLUME と ATT)とドルビープロロジックIIのみ有効です。その他のオーディオ調節はできません。

別売DSP

3

前後左右の音量バランスを調節する

フェーダー/バランス

前後左右のスピーカーの音量バランスを調節することができます。

1 音量バランス調節モード (Fader/Balance) にする

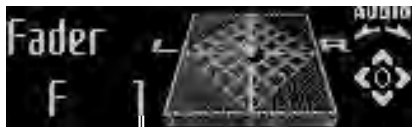
ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
(別売DSP ② 93ページ)

2 音量バランスを調節する

■ 前後を調節する

ロータリーコマンドーを上下に操作する

上：前を強めるとき
下：後ろを強めるとき

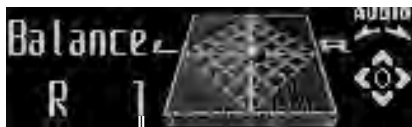


前後のバランスはF25～R25の範囲で調節できます。

■ 左右を調節する

ロータリーコマンドーを左右に操作する

右：右を強めるとき
左：左を強めるとき



左右のバランスはL25～R25の範囲で調節できます。

別売DSP

4

リスニングポジションを選ぶ

リスニングポジション

乗車位置や人数に合わせて、リスニングポジション (聞く位置) を選ぶことで、音像の定位を適切に補正することができます。

リスニングポジションについて

リスニングポジションは、座席位置や人数に合わせて、各スピーカーから出る音の遅延時間とレベルを自動的に調節する機能です。SFC機能と組み合わせることで、全身を包むような豊かな音場を体感することができます。

1 リスニングポジションモード (Position) にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
(別売DSP ② 93ページ)

2 乗車位置を選ぶ

ロータリーコマンドーを上下左右に操作する

ロータリーコマンドーを同じ方向に操作するごとにON/OFFします。

右：F/R
左：F/L
上：Front
下：ALL

表示	乗車位置
F/R (Front Right)	右ハンドル車に運転者のみがいるとき
F/L (Front Left)	左ハンドル車に運転者のみがいるとき
Front (Front Seat)	同乗者が助手席にいるとき
ALL (All Seat)	同乗者が後部座席にいるとき



選んだ乗車位置が表示されます。

ドルビープロロジックIIを使う

ドルビープロロジックII

ドルビープロロジックIIを使うと、2チャンネルの音声を5チャンネルに拡張して再生することができます。オリジナル録音の空間情報から、より立体的なサラウンド空間を作り出す機能です。音の移動も自然に再生されるので、より立体的な音場を楽しむことができます。

ドルビープロロジックIIのON/OFFについて

2チャンネルの音声で5.1チャンネルに適したSFC (Musical、Drama、Action) を選んだ場合、ドルビープロロジックIIをONにすることをおすすめします。また、2チャンネルに適したSFC (Jazz、Hall、Club) を選んだ場合、ドルビープロロジックIIをOFFにすることをおすすめします。

1 ドルビープロロジックIIモード (Dolby PL II) にする

ロータリーコマンドを操作して選ぶ
(別売DSP ② 93ページ)

2 好みのモードを選ぶ

ロータリーコマンドを押す

ロータリーコマンドを押すごとに次のように切り換わります。

MOVIE → MUSIC → MATRIX → OFF → MOVIEに戻る



ドルビープロロジックII モードについて

ムービー (MOVIE)

映画やTVドラマなどのステレオ音声を、5.1チャンネル録音に迫る立体的な音で楽しめます。

ミュージック (MUSIC)

広く深い音場を表現し、音楽などを臨場感豊かに楽しめます。

ミュージックモードのパラメーターを調整することで、好みに合わせた空間表現を得ることができます。(別売DSP ⑥ 96ページ)

マトリックス (MATRIX)

方向性強調回路がオフになるため、シンプルなサラウンド再生になります。FMやTVなどのステレオ放送で受信状態が不安定な場合に向いています。

OFF

ドルビープロロジックIIをOFFにします。

メモ

- スピーカー設定モード (別売DSP ⑩ 104ページ) で、センタースピーカーとリアスピーカーがOFFに設定されているときは、ドルビープロロジックIIモードには切り換わりません。
- 2チャンネルのモノラルソースを再生しているときにドルビープロロジックIIをONにすると、次のような現象が起こることがあります。
 - * センタースピーカーの設定を「Small」や「Large」にしている場合、センタースピーカーだけが音が出されることがあります。また、センタースピーカーを接続しないと、音が出されることがあります。
- ドルビープロロジックIIは、48kHzまでのサンプリング周波数で動作します。

別売DSP

6

ミュージックモードを調節する

ドルビープロロジックII ミュージック

ドルビープロロジックIIのミュージックモードでは、パラメーター（パンorama、ディメンション、センター幅）を調節することができます。

ミュージックモードについて

パンorama (Panorama)

フロントのステレオイメージをサラウンドスピーカーまで拡張して、包み込みの効果を大きくします。

ディメンション (Dimension)

広音場の位置をフロント側、リア側に細かく調節します。-3~+3の間で調節します。+はフロント側に、-はリア（サラウンド）側に音を移動します。

センター幅 (Center W Control)

センターの音を、フロントのLRチャンネルとセンターチャンネルの3つのスピーカーにどのように振り分けるかを「0」~「7」の間で設定します。推奨は3で、ほとんどの録音に適しています。0は、センタースピーカーだけでセンターの音を再生します。7は通常のステレオと同様にセンターの音をフロントのLRに振り分けます。

1

ドルビープロロジックII ミュージックモード (MUSIC) にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
(別売 DSP ● 93ページ)

ご注意

ドルビープロロジックII モードでMUSICを選んだときだけ、ドルビープロロジックII ミュージックモードに切り換わります。

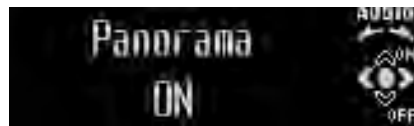
2

調節したいパラメーターを選ぶ

ロータリーコマンドーを左右に操作する

ロータリーコマンドーを左右に操作することにより、次のように切り換わります。

Panorama ↔ Dimension ↔ Center W Control
Center W Control ↔ Panoramaに戻る



3

選んだパラメーターを調節する

■ パンoramaをON/OFFする

ロータリーコマンドーを押す

ロータリーコマンドーを押すごとにON/OFFします。

■ ディメンションやセンター幅を調節する

ロータリーコマンドーを上下に操作する

項目	設定 / 調節範囲
Dimension	-3~+3
Center W Control	0~7

SFCでは、実際にその演奏会場にいるかのようなリアルな音場を再現することができます。

SFC (Sound Field Control) について

演奏会場は、会場ごとに独特の雰囲気があります。これは、会場の広さや形状、残響特性が異なるため、直接音・初期反射音・残響音の長さや質が変化するためです。SFCには、このようなことを考慮した音場空間プログラムが設定されています。

1 SFCモード (SFC) にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ

(別売DSP ② 93ページ)

2 音場プログラムを選ぶ

ロータリーコマンドーを押す

ロータリーコマンドーを押すごとに次のように切り換わります。

Musical → Drama → Action → Jazz → Hall → Club → OFF → Musicalに戻る



Musical

音楽ソフトやミュージカル系の映画の再生を楽しむのに適しています。

Drama

リアスピーカーの音と一体となって、1つの大きなスピーカーのように響くイメージで幅広いサウンド感を再現します。また、直接音もしっかりと響き、ストーリー重視の映画を楽しむのに適しています。

Action

躍動感、スピード感に加え、爆発シーンの迫力を包み込むように再現します。アクションシーンの多い映画を楽しむのに適しています。

Jazz

ジャズクラブでの音場を再現します。ライブ録音の音声などを楽しむのに適しています。

Hall

コンサートホールの音場を再現します。残響音豊かな響きでクラシック音楽などを楽しむのに適しています。

Club

クラブの音場を再現します。残響音が吸収されやすい音場を再現し、ビートの効いた音楽を楽しむのに適しています。

メモ

- 2チャンネルのリニアPCMまたは2チャンネルのドルビーデジタルの音声で5.1チャンネルに適したSFC (Musical, Drama, Action) を選んだ場合、ドルビープロロジックIIをONにすることをおすすめします。また、2チャンネルに適したSFC (Jazz, Hall, Club) を選んだ場合、ドルビープロロジックIIをOFFにすることをおすすめします。

別売DSP

8

センターなしで5.1chの
サラウンド感を再現する

ダウンミックス

センタースピーカーがないシステムでも、ダウンミックス機能を使うことで5.1chのサラウンド成分を損なうことなく再生できます。

ダウンミックスとは

5.1chの音声は、左/右/センター/左サラウンド/右サラウンド/サブウーファアの成分で構成されています。ダウンミックスは、左サラウンド/右サラウンド/センターの成分を左と右の成分に加えた音を作ります。設定はLo/RoとLt/Rtの2種類です。それぞれで、左サラウンドと右サラウンドの加えかたが異なります。

Lt/Rt

左サラウンドと右サラウンドの成分をモノラルにして、左と右のチャンネルを均等に振り分けます。

Lo/Ro

左サラウンドと右サラウンドの成分をステレオのまま、左と右のチャンネルを均等に振り分けます。

なお、サブウーファアの成分はダウンミックスに影響しません。

1 ダウンミックスモード
(DownMIX) にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ

(別売 DSP 93 ページ)

2 ダウンミックスの設定を選ぶ

ロータリーコマンドーを押す

ロータリーコマンドーを押すごとに次のように切り換わります。

Lo/Ro ↔ Lt/Rt



メモ

- DVD オーディオには、ダウンミックスを禁止しているものがあります。その場合は、ダウンミックスを設定しても実行されません。

別売DSP

9

ダイナミックレンジ
コントロールを使う

DRC

ダイナミックレンジとは、一番大きな音と一番小さな音との幅のことです。ダイナミックレンジコントロールをONにすると、この幅が圧縮され、音量を下げて楽しむ場合にも小さな音を聞きとりやすくすることができます。

1 ダイナミックレンジコント
ロールモード (DRC) にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ

(別売 DSP 93 ページ)

2 ダイナミックレンジコント
ロールをONにする

ロータリーコマンドーを押す

ロータリーコマンドーを押すごとにON/OFFします。



メモ

- DVD ディスクを再生しているとき以外はダイナミックレンジコントロールモードには切り換わりません。

別売DSP
10

オリジナルの音質で 聞く

ダイレクト

各種オーディオの設定を無効にすることができます。調整したオーディオ設定の効果を確かめるのに便利です。

1 ダイレクトモード (DIRECT) にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
(別売DSP ② 93ページ)

2 ダイレクトをONにする

ロータリーコマンドーを押す

ロータリーコマンドーを押すごとにON/OFFします。



メモ

- ダイレクトモードがONの間は、音量調節 (VOLUMEとATT) とドルビープロロジックIIのみ有効です。その他のオーディオ調節はできません。
- 2チャンネルのリニアPCMまたは2チャンネルのドルビーデジタル音声では、フロントスピーカー (左右) 以外からは、音声が出されません。

別売DSP
11

各ソースの音量の 違いをそろえる

SLA

ソースを切り換えたとき音量に違いが出ないように、FMの音量を基準にして各ソースの音量をそろえることができます。

1 FMを受信し、FMの音量を 確かめる

SOURCE ボタンを押す
(ここだけで ④ 26ページ)

2 調節したいソースに切り換える

SOURCE ボタンを押す
(ここだけで ① 20ページ)

3 SLAモード (SLA) にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
(別売DSP ② 93ページ)

4 レベルを調節する

ロータリーコマンドーを上下に操作する

上: レベルを大きくするとき
下: レベルを小さくするとき



−4〜+4の範囲で調節できます。

メモ

- SLAとは「Source Level Adjuster (ソース レベル アジャスター)」の略です。
- FMの音量を基準に他のソースとの音量差を調節するため、FMを聞いているときは、SLAモード (SLA) に切り換えることはできません。
- AM、テレビ、DVD、CD、External (エクスターナルユニット)、AUX (外部機器) のそれぞれの音量差を調節することができます。なお、内蔵CDとマルチCD、External 1とExternal 2、およびAMと交通情報 (便利な機能④ 113ページ) は同じ設定になります。

別売DSP

12

オートイコライザー をON/OFFする

オートイコライザー

Auto TA & EQ (別売DSP⑩ 102ページ)で作成したオートイコライザーカーブをON/OFFすることができます。

1 オートイコライザーモード (AUTO EQ) にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
(別売DSP② 93ページ)

2 オートイコライザーをONに する

ロータリーコマンドーを押す

ロータリーコマンドーを押すごとにON/OFFします。



メモ

- Auto TA & EQ (別売DSP⑩ 102ページ)を行っていないときは、オートイコライザーモードの操作はできません。

別売DSP

13

オートタイムアライメント& イコライジングを行う前に

車室内の音響特性を自動的に計測して、最適になるように自動補正することができます。



警告

運転中に Auto TA & EQ を行わない



自動車が行進中に Auto TA & EQ を行わないでください。Auto TA & EQ 機能は車室内の音響特性を測定するために、スピーカーから大音量の計測音を出すことがあります。この場合、運転の妨げになり事故の原因となることがあります。

スピーカー破損防止について

次の状態で Auto TA & EQ を行うと、スピーカーが破損する恐れがあります。Auto TA & EQ を行う前に、よく確認してください。

- スピーカーの接続を誤っている場合
(例：サブウーファー出力にリアスピーカーを接続している場合)
- スピーカーの耐久力を超える出力のパワーアンプを接続している場合

Auto TA & EQ 機能について

- 車室内空間は、その広さや複雑な形状、材質により、ホームオーディオに比べ、一般的に音響特性が大きく乱れています。このような車室内の音響特性を補正するためにイコライザーを使用しますが、測定器などを使用せずに設定するのはかなり困難な作業になります。
- 本機の Auto TA & EQ 機能は、車室内の音響特性を自動的に測定し、そのデータに基づいて、車室内の音響特性が乱れの少ない滑らかな特性に近づくように自動的に補正します。(イコライザーカーブを呼び出したときは、Auto TA & EQ により乱れの少ない滑らかな特性になったうえでイコライザーカーブが設定されますので、より効果的になります。) また、各スピーカーからリスニングポジションまでの距離を自動的に測定し、音声の到達時間を補正し、音像の定位や全体的なバランスを調整します。

Auto TA&EQを行う前にお読みください

- Auto TA & EQは、なるべく静かなところで、車のエンジンおよびエアコンやヒーターを止めて行ってください。また、携帯電話や自動車電話などを車載している場合は、電話を車外へ持ち出さず電源を切ってからAuto TA & EQを行ってください。計測音以外の音（車周辺の騒音、エンジン音、電話の着信音など）によって、車室内の音響特性が正しく測定できないことがあります。
- Auto TA & EQは、必ず「DEQ-P9」に付属の音響特性測定用マイクを使用して行ってください。「DEQ-P9」に付属のマイク以外では、Auto TA & EQが実行できなかったり、車室内の音響特性が正しく測定できません。
- フロントスピーカーが接続されていない場合は、Auto TA & EQが実行できません。
- フロントスピーカーをミュートしている場合は、Auto TA & EQが実行できません。
- 入力レベルコントロール付きのパワーアンプを接続している場合、パワーアンプの入力レベルコントロールを下げていると、Auto TA & EQが実行できない場合があります。パワーアンプの入力レベルコントロールは推奨位置に合わせてください。
- ローパスフィルター付きのパワーアンプを接続している場合、パワーアンプのローパスフィルターはOFFにして測定してください。また、パワードサブウーファー内蔵のローパスフィルターは、遮断周波数を最も高い値に設定してください。
- Auto TA & EQ測定時に算出したタイムアライメントの値は、次の場合に実際の距離と異なることがあります。計測状況によりコンピューターが算出した正確な遅延時間をもとに設定された距離です。そのままの値でご使用ください。
 - * 車室内の反射音が直接音より強く、かつ遅延を生じている場合。
 - * パワードサブウーファーや外部アンプのローパスフィルターの影響により、低音に遅延が生じている場合。

- Auto TA & EQを行うと、各モードの内容が次のように変更されます。
 - * 前後左右の音量バランス調節（フェーダー/バランス）の設定がリセットされ、初期設定に戻ります。
 - * イコライザーカーブは、フラット（FLAT）になります。
 - * リスニングポジションセレクターは、F/R（Front Right）に設定されます。（ただし、F/L（Front Left）に設定していたときだけは、F/Lのままになります。）
 - * サブウーファーを接続している場合、サブウーファー出力とリアハイパスフィルターの設定が調節されます。（サブウーファー出力をOFFにしても、自動的にONになり調節されます。）

Auto TA&EQの調節内容について

- 一度Auto TA & EQを行ったあとに、再度Auto TA & EQを行うと、前のAuto TA & EQの調節内容は消去されます。

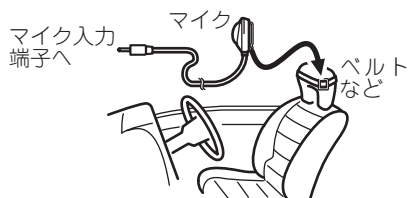
オートタイムアライメント&イコライジングを行う

1 計測する環境を整える

- 静かな所に車を停車させる
- ドア、窓、サンルーフなどを閉める
- 車のエンジンを停止させる
- エアコンやヒーターをOFFにする

2 「DEQ-P9」に付属の音響特性測定用マイクをセットする

ベルトなどを使用して、運転席のヘッドレストの中央に「DEQ-P9」に付属の音響特性測定用マイクを前向きに固定する



ご注意

マイクの取付位置が悪いと、測定音が大きくなったり測定時間がかかったりして、車のバッテリーが上がる恐れがあります。マイクは必ず指定の位置に取り付けてください。

3 車のエンジンスイッチをACCまたはONにする

ご注意

車のエアコンやヒーターがONになっている場合は、OFFにしてください。エアコンやヒーターのファンの騒音によってAuto TA & EQが実行できないことがあります。

4 本機の電源を入れる

SOURCE ボタンを押す

5 乗車位置を決定する

リスニングポジションモードを選び、マイクをセットした座席を乗車位置に設定する (別売DSP 94ページ)

メモ

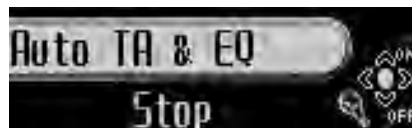
- 乗車位置をF/RまたはF/L以外に設定したときは、Auto TA & EQを始めると、強制的にF/Rに再設定されます。

6 本機の電源を切る

SOURCE ボタンを1秒以上押す

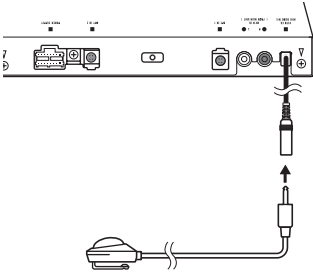
7 Auto TA & EQ 設定モードにする

EQ ボタンを2秒以上押す



8 マイクを「DEQ-P9」に接続する

「DEQ-P9」に付属の音響特性測定用マイクを音響特性測定用マイク入力端子に接続する

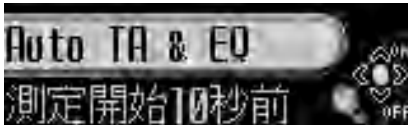


メモ

- Auto TA & EQをはじめてから測定が終了するまでに、約8分かかります。測定時間は周囲の騒音状態、車両形状、スピーカーの数などにより変わります。
- 音響特性測定用マイク入力端子にマイクがしっかりと挿入されていない状態でAuto TA & EQを行うと、エラーが生じます。マイクを確実に挿入してから、Auto TA & EQを行ってください。

9 Auto TA & EQを開始する

ロータリーコマンドーを押す



メモ

- もう一度ロータリーコマンドーを押すと、途中解除します。

10 車の外に出る

10秒のカウントダウンが始まるので、10秒以内に車外に出て、ドアを閉める
計測音（ノイズ）が各スピーカーから出力され、Auto TA & EQが始まります。

11 Auto TA & EQが自動的に終了する

Auto TA & EQが終わったら、セットした音響特性測定用マイクを取り外してください。

メモ

- Auto TA & EQを途中でやめたいときは、BANDボタンを押すと、強制的に解除することができます。
- マイクをセットする位置により、Auto TA & EQの調節内容が変わります。お好みにより、助手席にセットすることもできます。
- マイクはグローブボックスなどに入れて、大切に保管してください。直射日光の当たる場所に長時間放置すると、高温による変形、変色、故障の原因になる恐れがあります。

別売DSP

15

接続したスピーカーの設定をする

スピーカー設定

スピーカーの接続の有無や接続したスピーカーのサイズ（低音域再生能力）を設定できます。この設定により、スピーカーを接続していないために再生できないチャンネルの音を他のスピーカーから出力させたり、より再生に適したスピーカーから低音を出力させることができます。

スピーカーサイズについて

スピーカーサイズ設定は、100Hz以下の周波数帯域を再生可能かどうかが目安になります。

再生可能な場合は「Large」に、再生不可能な場合は「Small」に設定してください。

Auto TA & EQを行うときは、スピーカーの設定はON/OFFだけ行ってください。

1 スピーカー設定モード
(SP Set) にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ

( 別売DSP ② 93ページ)

2 設定したいスピーカーを選ぶ

ロータリーコマンドーを左右に操作する

ロータリーコマンドーを左右に操作することにより、次のように切り換わります。

フロントスピーカー



センタースピーカー



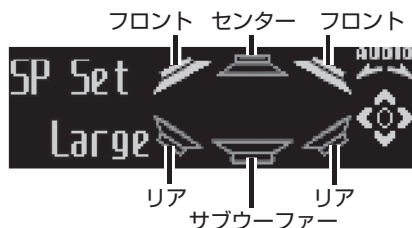
リアスピーカー



サブウーファー



サブウーファー位相切り換え



3 スピーカーの有無やサイズを設定する

ロータリーコマンドーを上下に操作する

各スピーカーの設定は、次の中から選ぶことができます。

スピーカーの種類	設定 / 調節範囲
フロント	Small / Large
リア	OFF / Small / Large
センター	OFF / Small / Large
サブウーファー	ON / OFF
サブウーファー位相切り換え	Normal / Rev.



メモ

- 接続していないスピーカーの設定は、必ず「OFF」にしてください。
- サブウーファーを接続していない場合は、フロントまたはリアスピーカーに低音再生能力のある限り、スピーカー設定は「Large」を選んでください。フロントとリアの両方のスピーカー設定を「Small」にすると、低音が著しく不足した感じになることがあります。
- 2チャンネルのモノラルソースを再生しているときにドルビープロロジックIIをONにすると、次のような現象が起こることがあります。
 - * センタースピーカーの設定を「Small」や「Large」にしている場合、センタースピーカーだけから音が出ることがあります。また、センタースピーカーを接続しないと、音が出されることがあります。
 - * サブウーファーをOFFにすると、サブウーファー位相切り換えモードは選択できません。

サブウーファアの 位相を切り換える

サブウーファア

サブウーファアからの低音域の出力を調節しても低音域がよく聞こえてこなかったり、逆に小さくなったように感じた場合、他のスピーカーの低音域と打ち消し合っていることがあります。位相を切り換えることで、この現象を防ぎ低音域を聞きやすくすることができます。

1 スピーカー設定モード (SP Set) にしてサブウーファア位相切り換えを選ぶ

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ

(153 別売DSP ⑯)

2 サブウーファアの位相を選ぶ

ロータリーコマンドーを上下に操作する

上：Normal (正相)

下：Rev. (逆相)



メモ

- サブウーファアをOFFにすると、サブウーファア位相切り換えモードは選択できません。

別売DSP

17

クロスオーバー周波数を設定する

クロスオーバー周波数

クロスオーバー周波数は、サブウーファーやスピーカーサイズを「Small」に設定したスピーカーの再生音域を設定します。サブウーファーからは、選んだ周波数より低い音域が出力されます。また、「Small」に設定したスピーカーからは、選んだ周波数より高い音域が出力され、音量が抑えられた低い音域はサブウーファーから出力されるようになります。

サブウーファーを接続していない場合、音量が抑えられた低い音域は「Large」に設定したスピーカー（フロントまたはリア）から出力されるようになります。

1 クロスオーバー周波数モード (X. Over) にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ

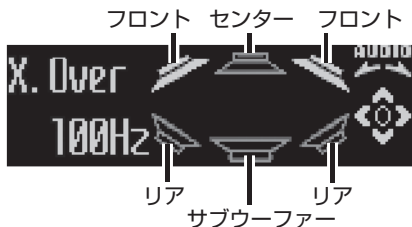
(別売DSP 93ページ)

2 スピーカーを選ぶ

ロータリーコマンドーを左右に操作する

ロータリーコマンドーを左右に操作することによって、次のように切り換わります。

フロントスピーカー ↔ センタースピーカー
リアスピーカー ↔ サブウーファー



3 クロスオーバー周波数を選ぶ

ロータリーコマンドーを上下に操作する



63、80、100、125、160、200 (Hz) の中から選ぶことができます。

メモ

- スピーカー設定モード (別売DSP 104ページ) で「OFF」に設定したスピーカーを選ぶことはできません。

スピーカーレベルを調節する

スピーカーレベル調節

テストトーンで行った各スピーカーからの出力レベルを、実際の音声を聞きながらもう一度調節することができます。

1 スピーカーレベル調節モード (SP Lev) にする

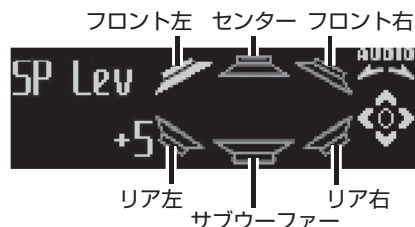
ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
( 別売DSP ② 93ページ)

2 スピーカーを選ぶ

ロータリーコマンドーを左右に操作する

ロータリーコマンドーを左右に操作することによって、次のように切り換わります。

フロント左スピーカー ↔ センタースピーカー ↔ フロント右スピーカー ↔ リア右スピーカー ↔ リア左スピーカー ↔ サブウーファー



3 レベルを調節する



ロータリーコマンドーを上下に操作する

上：レベルを大きくするとき
下：レベルを小さくするとき



レベルは-10～+10の範囲で調節できます。

メモ

- このモードで調節した出力レベルは、テストトーンモード ( 別売DSP ⑩) で調節したレベルと同じ値になります。
- スピーカー設定モード ( 別売DSP ⑯ 104ページ) で「OFF」に設定したスピーカーを選ぶことはできません。

テストトーンでスピーカーレベルを調節する

テストトーン

テストトーンを聞きながら、各スピーカーからの出力レベルを調節し、スピーカーシステム全体のバランスを整えます。

1 テストトーンモード (T Tone) にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
( 別売DSP ② 93ページ)

2 テストトーン出力を開始する

ロータリーコマンドーを右に操作する

約2秒ずつ、次の順で切り換わります。

フロント左スピーカー → センタースピーカー → フロント右スピーカー → リア右スピーカー → リア左スピーカー → サブウーファー → フロント左スピーカーに戻る

3 レベル調節をする

ロータリーコマンドーを上下に操作する

上：レベルを大きくするとき
下：レベルを小さくするとき





レベルは-10～+10の範囲で調節できます。

4 テストトーン出力を停止する

ロータリーコマンドーを左に操作する

メモ

- このモードで調節した出力レベルは、スピーカーレベル調節モード ( 別売DSP ⑱) で調節したレベルと同じ値になります。
- スピーカー設定モード ( 別売DSP ⑯ 104ページ) で「OFF」に設定したスピーカーには切り換わりません。
- レベルを調節している間、テストトーンは次のスピーカーには切り換わりません。

別売DSP

20

タイムアライメント を選ぶ

タイムアライメント

お好みのタイムアライメントを選ぶことができます。

タイムアライメントについて

タイムアライメントは、各スピーカーからリスニングポジションまでの距離を調節することで、音声の到達時間を補正し、音像の定位や全体的なバランスを調節する機能です。

1 タイムアライメント選択 モード (TA Mode) にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ

(☞ 別売DSP ② 93ページ)

2 タイムアライメントを選ぶ

ロータリーコマンドーを左右に操作する

ロータリーコマンドーを左右に操作することにより、次のように切り換わります。

Init ↔ Custom ↔ Auto ↔ OFF

タイムアライメントの種類 内容

Init (Initial)	初期設定状態（ご購入直後の状態）
Custom	お好みに合わせて調節したタイムアライメント
Auto (Auto TA)	Auto TA & EQで調節したタイムアライメント (<small>☞</small> 別売DSP ⑩ 102ページ)
OFF	タイムアライメントをOFFにします。



メモ

- Auto TA & EQ (☞ 別売DSP ⑩ 102ページ) を行っていない場合は、“Auto”を選ぶことはできません。

別売DSP

21

タイムアライメント を調節する

各スピーカーからリスニングポジションまでの距離を調節することで、音声の到達時間を補正し、音像の定位や全体的なバランスを調節することができます。リスニングポジション (☞ 別売DSP ④ 94ページ) を設定することで自動的に設定されますが、タイムアライメントではさらに厳密な調節をすることができます。

1 タイムアライメント選択 モード (TA Mode) にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ

(☞ 別売DSP ② 93ページ)

2 調節の元にするタイムアライ メントを選ぶ

ロータリーコマンドーを左右に操作して選ぶ (☞ 別売DSP ②)

3 タイムアライメント調節 モード (Time A) にする

ロータリーコマンドーを右に回して選ぶ

(☞ 別売DSP ② 93ページ)

確認

リスニングポジションモードで“F/R”が“F/L”を選んでいると、タイムアライメントの調節をすることはできません。

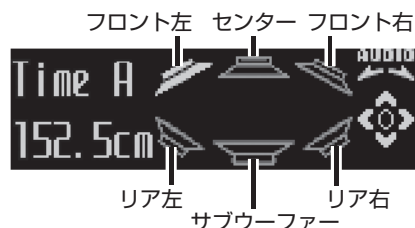
4 各スピーカーの距離を
調節する

■ 調節するスピーカーを選ぶ

ロータリーコマンドーを左右に操作する

ロータリーコマンドーを左右に操作すること
に、次のように切り換わります。

フロント左スピーカー ↔ センタースピー
カー ↔ フロント右スピーカー ↔ リア右
スピーカー ↔ リア左スピーカー ↔ サブ
ウーファー



■ 距離を調節する

ロータリーコマンドーを上下に操作する

上：距離を遠くするとき
下：距離を近くするとき



0.0 cm ~ 500.0 cm の範囲で調節できます。

メモ

- タイムアライメント選択モード (TA Mode) で OFF を選んでいるときは、タイムアライメント調節モード (Time A) には切り換わりません。
- スピーカー設定モード (別売 DSP 104ページ) で「OFF」に設定したスピーカーを選ぶことはできません。

Custom1 について

“Custom1”には、お好みに合わせて調節したイコライザーカーブがソースごとに記憶されます。(内蔵CDとマルチCD、External1とExternal2は、同じ設定になります。)

Custom2 について

“Custom2”は、すべてのソースに共通したイコライザーカーブで、お好みに合わせて調節することができます。

Flat について

イコライザーによる音の補正はされていません。設定したイコライザーカーブと交互に切り換えることで、設定したイコライザーカーブの効果を確認することができます。

1 イコライザーカーブを選ぶ

EQ ボタンを押す

ボタンを押すごとに、次のように切り換わります。

Powerful → Natural → Vocal → Flat
→ Custom1 → Custom2 →
Super Bass → Powerfulに戻る



メモ

- イコライザー選択モードで、ロータリーコマンドーを押して、イコライザーカーブを切り換えることもできます。

3バンドパラメトリックイコライザーを調節する

“Custom 1”と“Custom 2”はフロント/リア/センターのイコライザーカーブを別々に調節することができます。各スピーカーのバンドごとに中心周波数を設定し、レベル調節やカーブの傾きの切り換えを行うことができます。

イコライザーの調節について

センタースピーカーは、音像を定位させるのに影響が大きいスピーカーです。このため、他のスピーカーと同時にバランスをとるのは、とても難しい作業です。全体のバランスをとるため、2チャンネルの音声（CDなど）を再生し、センターを除くすべてのスピーカーのバランスを調節した後、5.1チャンネルの音声（ドルビーデジタルやDTS）を再生し、センタースピーカーを全体のバランスに合わせるように調節すると、スムーズに行うことができます。

中心周波数について

各バンドの中心周波数は、26種類の周波数の中から選ぶことができます。周波数は、1/3オクターブずつのステップで切り換えることができますが、各バンドの中心周波数の間隔を1オクターブ未満に設定することはできません。

1 3バンドパラメトリックイコライザーモード (PEQ) にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ

(別売 DSP 93 ページ)

2 スピーカー選択モードを選ぶ

ロータリーコマンドーを左右に操作する

ロータリーコマンドーを左右に操作することにより、次のように切り換わります。

スピーカー選択モード ↔ バンド選択モード
↔ 中心周波数選択モード ↔ レベル調整モード
↔ カーブの傾き選択モード

3 スピーカーを選ぶ

ロータリーコマンドーを上下に操作する



Front (フロント)、Center (センター)、Rear (リア)の中から選ぶことができます。

4 バンドを選ぶ

ロータリーコマンドーを右に操作してから、上下に操作する



Low (低音)、Mid (中音)、High (高音)の中から選ぶことができます。

5 中心周波数を選ぶ

ロータリーコマンドを右に操作してから、上下に操作する

上：高い周波数を選ぶとき
下：低い周波数を選ぶとき



40、50、63、80、100、125、160、200、250、315、400、500、630、800、1k、1.25k、1.6k、2k、2.5k、3.15k、4k、5k、6.3k、8k、10k、12.5k (Hz) の中から選ぶことができます。

6 レベルを調節する

ロータリーコマンドを右に操作してから、上下に操作する

上：強めるとき
下：弱めるとき



レベルは-6～+6の範囲で調節できます。

7 カーブの傾きを選ぶ

ロータリーコマンドを右に操作してから、上下に操作する

上：Q. WIDE (穏やかな傾き)
下：Q. NARROW (急な傾き)



8 手順2～7を繰り返して、各スピーカーの各バンドを同様に調節する

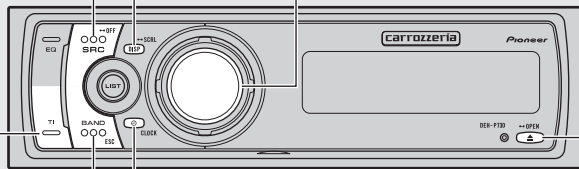
メモ

- スピーカー設定モード (別売 DSP 104 ページ) で「OFF」に設定したスピーカーは選べません。

この操作で使用するボタン

ロータリーコマンドー

ソース SOURCEボタン
ディスプレイ DISPLAYボタン



トラフィックインフォメーション
T.INFOボタン

クロック
CLOCKボタン

バンド
BANDボタン

イジェクト
▲ボタン

便利な機能

1

瞬時に音量を小さくする

アッテネーター

車内の会話が聞きとりにくいときに、瞬時に音量を小さくすることができます。

1

瞬時に音量を小さくする

リモコンのATTボタンを押す

ボタンを押すごとにON/OFFします。



アッテネーターがONのときに反転表示します。

アッテネーターがONのときは、音量が約1/10になります。

便利な機能

2

時計を表示させる

時計表示

本機の電源がONのとき、または電源がOFFでデモモード (E3 はじめに 12 ページ) を解除しているときに、時計を表示させることができます。

1

時計を表示する

CLOCK ボタンを押す

ボタンを押すごとにON/OFFします。



メモ

- 時計を合わせるには (E3 便利な機能 117 ページ)

よく使う機能を 直接操作する

ダイレクトファンクション

リモコンのDFボタンを押すと、よく使う機能をソースごとに直接操作することができます。

内蔵CD・WMA/MP3/AAC/WAV・マルチCD・iPod・DVDのとき

1 再生を一時停止する

リモコンのDFボタンを押す

(はじめに① 9ページ)

ボタンを押すごとに機能がON/OFFします。
(内蔵CD⑥ 33ページ、WMA/MP3/AAC/WAV⑥ 42ページ、マルチCD⑦ 54ページ、iPod⑦ 67ページ、1枚型DVD/マルチDVDの取扱説明書)

ラジオのとき

1 BSMを始める

リモコンのDFボタンを2秒以上押す

BSMが始まります。

(ラジオ④ 48ページ)

メモ

- BSM中にリモコンのDFボタンを押すことで、BSMを途中解除することもできます。

テレビのとき

1 BSSMを始める

リモコンのDFボタンを2秒以上押す

BSSMが始まります。

(テレビの取扱説明書)

メモ

- BSSM中にリモコンのDFボタンを押すことで、BSSMを途中解除することもできます。

交通情報を受信する

トラフィックインフォメーション

AM 1 620 kHzまたは1 629 kHzの交通情報を、簡単に受信することができます。

1 交通情報を受信する

T.INFO ボタンを押す

交通情報を受信します。

2 放送に合わせて周波数を切り換える

ロータリーコマンドを左右に操作する

右：1 629 kHzにするとき

左：1 620 kHzにするとき



受信周波数

3 交通情報の受信をやめる

T.INFO ボタンを押す

交通情報を受信する前の状態に戻ります。

メモ

- この機能は、電源がOFFのときでも、どのソースからでも操作できます。
- 交通情報を受信しているときに音量を調節すると、交通情報用の音量として設定することができます。
- 交通情報を受信するとSFC (内蔵DSP④ 86ページ、別売DSP⑦ 97ページ) がOFFになり、イコライザーカーブは交通情報用になります。交通情報の受信をやめるとSFCおよびイコライザーカーブは、もとの状態に戻ります。

エンタテインメントを表示する

エンタテインメント表示

音楽などを聞いているときに、ディスプレイの表示をエンタテインメント表示に切り換えることができます。車内で、いろいろな表示を楽しむことができます。

1 メインメニューにする

ロータリーコマンダーを押す

「FUNCTION」、 「AUDIO」、 「ENTERTAINMENT」が表示されます。

2 エンタテインメントモードにする

ロータリーコマンダーを回して「ENTERTAINMENT」を選び、ロータリーコマンダーを押す

3 エンタテインメント表示を切り換える

ロータリーコマンダーを回す

ロータリーコマンダーを回すごとに次のように切り換わります。

バックグラウンドビジュアル1 (BGV-1)



バックグラウンドビジュアル2 (BGV-2)



バックグラウンドピクチャー1 (BGP-1)



バックグラウンドピクチャー2 (BGP-2)



バックグラウンドピクチャー3 (BGP-3)



バックグラウンドピクチャー4 (BGP-4)



バックグラウンドピクチャー5 (BGP-5)



エンタテインメントOFF (ENT. OFF)



スペアナ (SPECTRUM ANALYZER)



レベルメーター (LEVEL METER)



4 選んだエンタテインメント表示を設定する

ロータリーコマンダーを押す

選んだエンタテインメント表示が設定され、エンタテインメントモードが解除されます。

メモ

- エンタテインメントモードを解除するには、BAND ボタンを押します。(約30秒間、何も操作しなかったときも、自動的に解除されます。)
- バッテリーボルテージ表示は、実際の電圧とは異なることがあります。
- リモコンのENTERTAINMENT ボタンを押して、エンタテインメント表示を切り換えることもできます。

ナビゲーションの音声を本機で再生する

デジタル/アナログ切り換え

パイオニア製のナビゲーションユニット（「AVIC-DRV005」など）と5.1ch対応・DSPユニット（「DEQ-P9」など）を光ケーブルで接続している場合、ナビゲーションユニットで選択しているソースの音声を、AUX2（外部機器2）として車両のスピーカーから出力することができます。

本機に「DEQ-P9」を接続している場合

この機能は、本機に、別売の5.1ch対応・DSPユニット（「DEQ-P9」）を接続しているときだけ操作できます。

デジタルに設定する場合

ナビゲーションユニットの内蔵プレーヤーを選択しているときは、本機のAUX2（外部機器2）をデジタルに設定してください。

アナログに設定する場合

ナビゲーションユニットのテレビ、ミュージックサーバーを選択したとき、または本機にナビゲーションユニットを接続しないときは、AUX2（外部機器2）をアナログに設定してください。

1 ソースをAUX2にする

SOURCE ボタンを押す

(☞ ここだけで① 20ページ)

2 デジタル/アナログを切り換える

BAND ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

デジタル (Digital) ↔ アナログ (Analog)



メモ

- AUX2（外部機器2）の設定 (☞ **便利な機能 ① 118ページ**) をONにしないと、AUX2には切り換わりません。

初期設定モードの切り換えかた

外部機器やデモモードを設定するときは、初期設定モードを切り換えて操作します。

1 電源を OFF にする

SOURCE ボタンを 1 秒以上押す

(☞ ここだけで① 20 ページ)

2 初期設定モードにする

**電源が OFF のときに、ロータリーコマ
ンダーを 2 秒以上押す**

3 初期設定モードを切り換える

ロータリーコマンドを回す

ロータリーコマンドを回すごとに次のように切り換わります。(各モードの操作は、それぞれのモードの説明を参照してください。)

時計調整モード

(☞ 便利な機能⑧)



デタッチワーニングモード

(☞ 便利な機能⑧)



フェイスオートオープンモード

(☞ 便利な機能⑩ 118 ページ)



AUX1 (外部機器 1) モード

(☞ 便利な機能⑪ 118 ページ)



AUX2 (外部機器 2) モード

(☞ 便利な機能⑪ 118 ページ)



ディマーモード

(☞ 便利な機能⑬ 120 ページ)



輝度調整 (ブライツ) モード

(☞ 便利な機能⑭ 121 ページ)



RCA 出力設定モード

(☞ 便利な機能⑯ 121 ページ)



デジタルアッテネーターモード

(☞ 便利な機能⑯ 122 ページ)



オーディオリセットモード

(☞ 便利な機能⑰ 123 ページ)



ミュートモード

(☞ 便利な機能⑱ 124 ページ)



デモンストレーションモード

(☞ 便利な機能⑲ 124 ページ)



リバース (画面反転) モード

(☞ 便利な機能⑳ 125 ページ)



連続スクロールモード

(☞ 便利な機能㉑ 125 ページ)



時計調整モードに戻る

メモ

- 初期設定モードを解除するには、BAND ボタンを押します。(解除すると、電源が OFF になります。)

時計を合わせる

時計合わせ

時計を合わせることができます。

1 時計調整モードにする

電源がOFFのときにロータリーコマンドを2秒以上押す



2 時計の設定をする

■ 時、分を選ぶ

ロータリーコマンドを左右に操作する
操作することにより、時、分が切り換わります。

■ 時刻を合わせる

ロータリーコマンドを上下に操作する

上：時刻を進めるとき
下：時刻を戻すとき

時または分を調節すると、0秒からカウントが始まります。

■ 時刻を時報に合わせる

ロータリーコマンドを押す

分が“00”になります。

例) 10 : 00 ~ 10 : 29 → 10 : 00
10 : 30 ~ 10 : 59 → 11 : 00

3 初期設定モードを解除する

BAND ボタンを押す

フロントパネルの外し忘れを警告する

デタッチワーニング

デタッチワーニングは、車を離れるときに、フロントパネルの外し忘れを警告ブザーで報せる機能です。(初期設定では、OFF になっています。)

フロントパネルを取り外すには (☞ はじめに ⑥ 14 ページ)

デタッチワーニングについて

イグニッションスイッチをOFFにしたときに、フロントパネルを外し忘れていたり、約4秒後に警告ブザーが鳴り、フロントパネルの外し忘れを報せます。

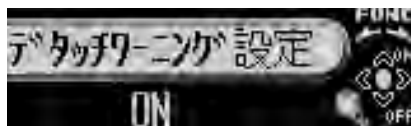
1 デタッチワーニングモードにする

電源がOFFのときに、ロータリーコマンドを2秒以上押してから、ロータリーコマンドを回して選ぶ
(☞ 便利な機能⑦)

2 デタッチワーニングの設定をONにする

ロータリーコマンドを押す

ロータリーコマンドを押すごとにON/OFF します。



3 初期設定モードを解除する

BAND ボタンを押す

便利な機能

10

フロントパネルを外しやすくする

フェイスオートオープン

フェイスオートオープンとは、車を離れるときに、フロントパネルを外しやすくする機能です。(初期設定では、OFFになっています。)

フロントパネルを取り外すには (☞ はじめに ⑥ 14ページ)

フェイスオートオープンについて

フロントパネルを外しやすくするため、イグニッションスイッチをOFFにした約4秒後に、フロントパネルが自動的に開きます。

1 フェイスオートオープンモードにする

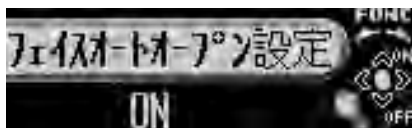
電源がOFFのときに、ロータリーコマンダーを2秒以上押してから、ロータリーコマンダーを回して選ぶ

(☞ 便利な機能⑦ 116ページ)

2 フェイスオートオープンの設定をONにする

ロータリーコマンダーを押す

ロータリーコマンダーを押すごとにON/OFFします。



3 初期設定モードを解除する

BAND ボタンを押す

便利な機能

11

外部機器を使う

市販のポータブル機器やVTRなどを2台まで接続することができます。また、それぞれの機器の音声を外部機器(AUX1、AUX2)ソースとして車両のスピーカーから出力させることができます。

外部機器を接続した場合は、外部機器(AUX1、AUX2)ソースの設定をONにしてください。

外部機器との接続について

外部機器の接続には、次の3通りがあります。

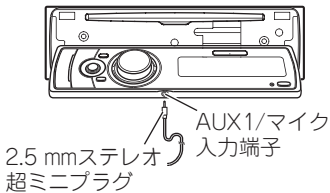
- ① 付属の2.5 mm ステレオ超ミニプラグを使用する場合(AUX1)
- ② 別売のRCA/IP-BUS インターコネクターを使用する場合(AUX2)
- ③ IP-BUSを使用する場合(AUX2)
(パイオニア製ナビゲーションユニットなど、IP-BUS出力を持つパイオニア製品を使用する場合)

メモ

- AUX2は、②と③のどちらか一方の接続でのみ使用できます。(両方の接続を同時にすることはできません。)

① 付属の2.5 mm ステレオ超ミニプラグを使用する場合

▲ ボタンを2秒以上押して、フロントパネルを開けます。フロントパネル底面のAUX1/マイク入力端子に2.5 mm ステレオ超ミニプラグを差し込み、接続します。この場合、接続した外部機器は、AUX1ソースになります。



② 別売のRCA/IP-BUSインターコネクターを使用する場合

接続する外部機器にRCA出力がある場合、別売のRCA/IP-BUSインターコネクター「CD-RB10」または「CD-RB20」を使用して、本機のIP-BUS入力端子に接続します。接続した外部機器は、AUX2ソースになります。詳しくは、RCA/IP-BUSインターコネクターの説明書をご覧ください。

③ IP-BUSを使用する(パイオニア製ナビゲーションユニットなどを接続する) 場合

別売のIP-BUSケーブル(「CD-IP600」など)を使用して、本機のIP-BUS入力に接続します。接続したナビゲーションユニットは、AUX2ソースになり、音声のみ出力できます。

1 外部機器(AUX1、AUX2)モードにする

電源がOFFのときに、ロータリーコマンドナーを2秒以上押してから、ロータリーコマンドナーを回して選ぶ
(☞ 便利な機能⑦ 116ページ)

2 外部機器(AUX1、AUX2)の設定をONにする

ロータリーコマンドナーを押す

ロータリーコマンドナーを押すごとにON/OFFします。



3 ソースをAUX1またはAUX2にする

SOURCE ボタンを押す
(☞ ここだけで① 20ページ)



ソースをAUX1またはAUX2に切り換えると、接続した外部機器の音声が出力されます。

メモ

- 外部機器の名称を変更することもできます。外部機器の名称を変更するには(☞ 便利な機能⑩ 120ページ)

便利な機能

12

外部機器の名称を入力する

本機に外部機器(AUX1、AUX2)を接続したときに、その機器の名称を本機に入力して、ディスプレイに表示させることができます。

たとえば、VTRを外部機器として本機に接続した場合は、初期状態で表示される“AUX1”または“AUX2”を“VTR”に変更することができます。

1 ソースを外部機器(AUX1、AUX2)にする

SOURCE ボタンを押す

(☞ ここだけで① 20ページ)

2 メインメニューにする

ロータリーコマンドーを押す

「FUNCTION」、「AUDIO」、「ENTERTAINMENT」が表示されます。

3 外部機器の名称入力モードにする

ロータリーコマンドーを回して「Function」を選び、ロータリーコマンドーを押す



4 外部機器の名称を入力し、記憶させる

CDのタイトル入力の手順3以降を参照し、同様の操作で外部機器の名称を記憶させてください。(☞ マルチCD⑥ 58ページ)

メモ

- 外部機器の名称は、8文字まで入力できます。

便利な機能

13

夜間のディスプレイの明るさを切り換える

デイマー

夜間、周囲が暗くなったときにディスプレイがまぶしくならないように、車のライトをONにするとデイマーが働き、ディスプレイが暗くなるように設定できます。

1 デイマーモードにする

電源がOFFのときにロータリーコマンドーを2秒以上押してから、ロータリーコマンドーを回して選ぶ

(☞ 便利な機能④ 116ページ)

2 デイマーの設定をONにする

ロータリーコマンドーを押す

ロータリーコマンドーを押すごとにON/OFFします。



3 初期設定モードを解除する

BAND ボタンを押す

メモ

- 車のライトをONにしてデイマーが働いているときでも、輝度調整モード(☞ 便利な機能④)でディスプレイの明るさを“0”に調整しているときは、ディスプレイの明るさを変えることはできません。

ディスプレイの明るさを調節する

輝度調整 (ブライト)

ディスプレイの明るさを調節できます。

1 輝度調整 (ブライト) モードにする

電源が OFF のときにロータリーコマンドを 2 秒以上押してから、ロータリーコマンドを回して選ぶ

(☞ 便利な機能 ⑦ 116 ページ)

2 明るさを調節する

ロータリーコマンドを左右に操作する

右：明るくしたいとき

左：暗くしたいとき



0～15の範囲で調節できます。

3 初期設定モードを解除する

BAND ボタンを押す

メモ

- ディマー設定 (☞ 便利な機能 ⑯) が ON のときは、輝度調整の範囲は、0～10になります。

RCA 出力から出力される信号を選ぶ

RCA 出力設定

本機のリア出力またはサブウーファー出力に外部アンプを接続した場合、外部アンプに接続するスピーカーに合わせてこの設定を切り換えます。

本機に「DEQ-P9」を接続している場合

この機能は、内蔵 DSP の機能です。本機に、別売の 5.1ch 対応・DSP ユニット (「DEQ-P9」) を接続しているときは操作できません。

1 RCA 出力設定モードにする

電源が OFF のときにロータリーコマンドを 2 秒以上押してから、ロータリーコマンドを回して選ぶ

(☞ 便利な機能 ⑦ 116 ページ)

2 RCA の出力方法を選ぶ

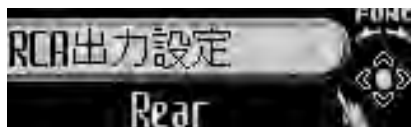
ロータリーコマンドを押す

ロータリーコマンドを押すごとに、RCA リア出力の出力方法が次のように切り換わります。

Rear (リアスピーカーを接続するとき)



Subwoofer (サブウーファーを接続するとき)



3 初期設定モードを解除する

BAND ボタンを押す

音の歪みを補正する

デジタルアッテネーター

イコライザーカーブの調節 (内蔵DSP 84ページ) による音の歪みをなくすことができます。

デジタルアッテネーターについて

イコライザーカーブの設定でレベルを高く設定した周波数の音域が歪むことがあります。イコライザーカーブの設定で音が歪んだように感じたときは、デジタルアッテネーターの設定を“Low”に切り換えてください。

3 初期設定モードを解除する

BAND ボタンを押す

1 デジタルアッテネーターモードにする

電源がOFFのときにロータリーコマンダーを2秒以上押してから、ロータリーコマンダーを回して選ぶ

(便利な機能 116ページ)

2 デジタルアッテネーターの設定を選ぶ

ロータリーコマンダーを押す

ロータリーコマンダーを押すごとにHigh/Lowが切り換わります。



オーディオ設定をリセットする

オーディオリセット

オーディオの設定を出荷時の状態に戻すことができます。

本機に「DEQ-P9」を接続している場合

この機能は、本機に、別売の5.1ch対応・DSPユニット（「DEQ-P9」）を接続しているときだけ操作できます。

リセットされる設定について

次の設定がリセットされます。

- ・別売の5.1ch対応・DSPユニット（「DEQ-P9」など）を接続して調節できるすべてのオーディオ設定
- ・オートタイムアライメント&イコライジング設定モードで調節された値

次の設定はリセットされません。

- ・ボリューム
- ・初期設定モードのデジタルアッテネーターモードおよびミュート/アッテネーターモードの設定

1 オーディオリセットモードにする

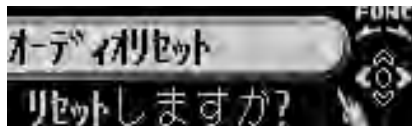
電源がOFFのときにロータリーコマンドを2秒以上押してから、ロータリーコマンドを回して選ぶ

(▶▶▶ 便利な機能⑦ 116ページ)

2 リセット操作を始める

ロータリーコマンドを押す

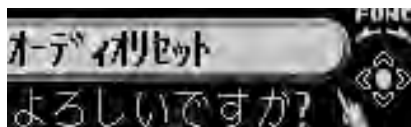
確認画面が表示されます。リセットをやめるときは、BANDボタンを押します。



3 リセットの確認をする

ロータリーコマンドを右に操作する

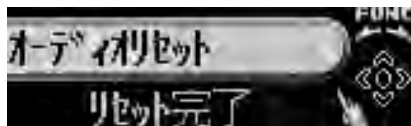
再度、確認画面が表示されます。リセットしないときは、BANDボタンを押します。



4 リセットする

ロータリーコマンドを押す

オーディオ設定がリセットされます。



5 初期設定モードを解除する

BANDボタンを押す

便利な機能
18

ミュート/アッテネートを切り換える

ミュート

ミュート機能のある製品からミュート信号を受け取ったときに、本機の音声をミュートにするかアッテネートにするかを選ぶことができます。

ミュート/アッテネート機能について

ミュート機能のあるパイオニア製ナビゲーションシステムと本機を組み合わせると、その製品からミュート信号を受け取っている間だけ、ミュートまたはアッテネート機能が働きます。ミュート信号を受け取っているときの各設定の音量は、次のようになります。

- ・ TEL mute : 音量 “0”
- ・ 10dB ATT : もとの音量の約 1/3
- ・ 20dB ATT : もとの音量の約 1/10

ミュートまたはアッテネート機能が解除されると、自動的にもとの音量に戻ります。

1 ミュートモードにする

電源が OFF のときにロータリーコマンドを 2 秒以上押してから、ロータリーコマンドを回して選ぶ

(☞ 便利な機能 116 ページ)

2 設定を選ぶ

ロータリーコマンドを押す

ロータリーコマンドを押すごとに次のように切り換わります。

20dB ATT → TEL mute → 10dB ATT → 20dB ATT に戻る



3 初期設定モードを解除する

BAND ボタンを押す

便利な機能
19

フィーチャーデモを ON/OFF する

デモンストレーション

フィーチャーデモの ON/OFF をすることができます。

フィーチャーデモについて

フィーチャーデモは、本機が電源 OFF のときに、各ソースや本機の機能（エンタテインメント、SFC など）の画面を表示して紹介する機能です。

1 デモンストレーションモードにする

電源が OFF のときにロータリーコマンドを 2 秒以上押してから、ロータリーコマンドを回して選ぶ

(☞ 便利な機能 116 ページ)

2 デモンストレーションを ON にする

ロータリーコマンドを押す

ロータリーコマンドを押すごとに ON/OFF します。



3 初期設定モードを解除する

BAND ボタンを押す

メモ

- フィーチャーデモは、本機が OFF のときに、DISPLAY ボタンを押すことでも ON/OFF することができます。

リバースモードを
ON/OFFする

リバース

リバースモードのON/OFFをすることができます。

リバース（画面反転）機能について

リバースモードは、各ソースを聞いているときに約30秒間操作しないと画面が自動的に反転する機能です。反転は、10秒間隔で行われます。

1 リバース（画面反転）モードにする

電源がOFFのときにロータリーコマンドを2秒以上押してから、ロータリーコマンドを回して選ぶ

( 便利な機能⑦ 116ページ)

2 リバースモードをONにする

ロータリーコマンドを押す

ロータリーコマンドを押すごとにON/OFFします。



3 初期設定モードを解除する

BAND ボタンを押す

メモ

- リバースモードは、本機がOFFのときに、BAND ボタンを押すことでもON/OFFすることができます。

スクロールのしかた
を切り換える

連続スクロール

連続スクロール機能をONにすると、CDのタイトルなどを連続してスクロールできます。一度だけスクロールさせたいときは、この機能をOFFにしてください。(初期設定ではOFFになっています。)

1 連続スクロールモードにする

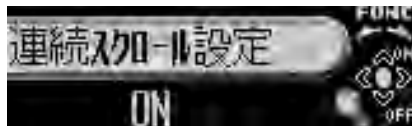
電源がOFFのときにロータリーコマンドを2秒以上押してから、ロータリーコマンドを回して選ぶ

( 便利な機能⑦ 116ページ)

2 連続スクロールの設定をONにする

ロータリーコマンドを押す

ロータリーコマンドを押すごとにON/OFFします。



3 初期設定モードを解除する

BAND ボタンを押す

エクスターナルユニットの操作

本機は、マルチMDプレーヤーなどを、エクスターナルユニットとして操作することができます。

エクスターナルユニットとは

エクスターナルユニットとは、本機がソースとして対応していないパイオニア製品の基本的な機能をコントロールできるように用意している特別なソースです。

- 本機では、エクスターナルユニットを最大2台まで接続、コントロールすることができます。ただし、External 1、External 2のどちらかに切り換えても“External”が表示されます。2台のExternal (エクスターナルユニット) を接続した場合、本機によって、External 1、External 2が自動的に設定されます。

ソースとしてエクスターナルユニットを選ぶ

SOURCE ボタンを押して **External** を選ぶ

ふだんの操作

BAND を押す

BAND を長く押す

ロータリーコマンドを左右に操作する

ロータリーコマンドを左右に長く操作する

ロータリーコマンドを上下に操作する

リモコンの1～6ボタンに割り当てられた機能を使う

1 リモコンの1～6ボタンを押す

ファンクションメニューの切り換えかた

1 メインメニューを表示させる

ロータリーコマンドを押す

「FUNCTION」、「AUDIO」、「ENTERTAINMENT」が表示されます。

2 ファンクションモードにする

ロータリーコマンドを回して「FUNCTION」を選び、ロータリーコマンドを押す

3 ファンクションモードを切り換える

ロータリーコマンドを回す

ロータリーコマンドを回すごとに次のように切り換わります。

ファンクション1モード



ファンクション2モード



ファンクション3モード



ファンクション4モード



オート/マニュアル切換モード



ファンクション1モードに戻る

4 ファンクションモードを解除する

BAND ボタンを押す

メモ

- ファンクションモードは、約30秒何も操作しないと自動的に解除されます。

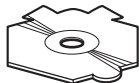
CDの正しい使いかた

使用できるCDについて

- 下記マークの付いているコンパクトディスク（光学式デジタルオーディオディスク）をご使用ください。



- 本機は音楽CD規格に準拠して設計されています。コピーコントロールCDなどのCD規格外ディスクの動作保証及び性能保証は致しかねます。
- ひび、キズ、そりのあるCDは使用しないでください。
- 特殊形状のディスクは、使用しないでください。故障の原因になります。



- 音楽用CDレコーダーまたはパソコンで記録したCD-R/CD-RWディスクは、ディスクの特性やキズ・汚れ、または本機内部のレンズの汚れ・露などにより、本機では再生できない場合があります。
- パソコンで記録したディスクは、アプリケーションの設定および環境によって再生できないことがあります。（詳細は、アプリケーションの発売元にお問い合わせください。）
- 直射日光や高温など、車内での保管状況により、CD-R/CD-RWディスクは再生できなくなる場合があります。
- CD-R/CD-RWディスクに記録されているタイトルなどの文字情報は、本機では表示されない場合があります。（音楽データ（CD-DA）再生時）

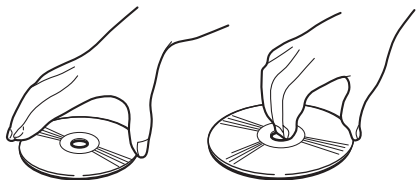
- ファイナライズされていないCD-R/CD-RWディスクには対応していません。
- CD-R/CD-RWディスクの取り扱いについては、ディスクの説明書や注意書きを十分お読みください。

「DualDisc」の再生について

- 「DualDisc」は、片面にDVD規格準拠の映像やオーディオが、もう片面にCD再生機での再生を目的としたオーディオがそれぞれ収録されています。
- DVD面ではないオーディオ面は、一般的なCDの物理的規格に準拠していないために再生できないことがあります。
- 「DualDisc」を再生機器に挿入をしたり、取り出しをしたりするときに再生面の反対側の面に傷が付く場合があります。傷が付いた面は再生すると不具合が出る場合があります。
- ディスクを取り出せないといった不具合が起る可能性がありますので「DualDisc」はご使用にならないでください。
- 「DualDisc」の仕様や規格などの詳細に関しては、ディスクの発売元または販売元にお問い合わせください。

取り扱い上のご注意

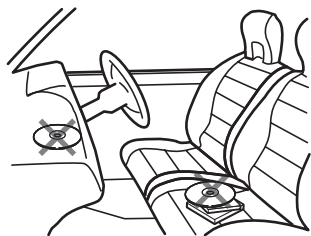
- CDは、下図のように、信号記録面（虹色に光っている面）を触らないようにしてください。



- CDにキズを付けないでください。
- CDにシールなどを貼り付けしないでください。

保管上のご注意

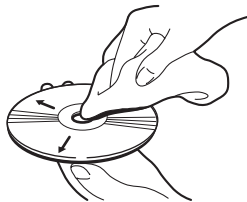
- 直射日光の当たるところや高温になるところには、CDを保管しないでください。



- CDがそらないように、必ずケースに入れて保管してください。

お手入れについて

- CDが汚れたときは、柔らかいきれいな布でCDの内周から外周方向へ軽くふいてください。



- アナログ式レコード用のクリーナー、静電気防止剤などは使用しないでください。またベンジンやシンナーなどの揮発性の薬品をかけないでください。

CD再生の環境について

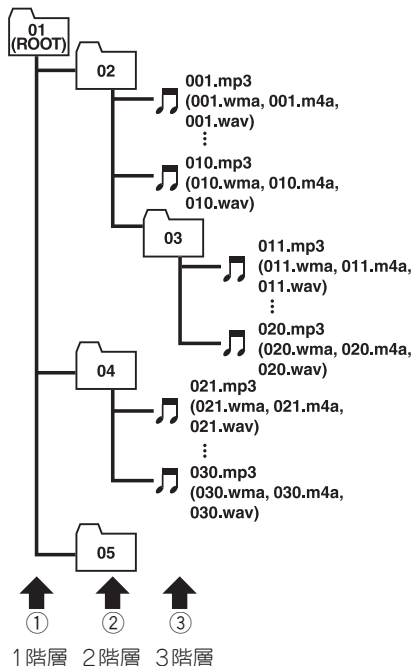
- 走行中、振動のショックで音飛びを起こすことがあります。
- 寒いとき、ヒーターを入れた直後にCD再生を始めると、本機内部の光学系レンズやCDに露が生じて、正常に再生できないことがあります。
このようなときは、1時間ほど放置して自然に露が取れるのをお待ちください。CDに付いた露は柔らかい布でふいてください。

メモ

- 製品設計上配慮していますが、機構上あるいは使用環境・ディスクの取り扱いなどにより、ディスク面に実使用上支障のない程度のキズが付くことがあります。これは、製品の故障ではありません。一般的な消耗としてご理解ください。

フォルダーとWMA/MP3/AAC/WAVファイルについて

- WMA/MP3/AAC/WAVファイルを収録したCD-R/CD-RW/CD-ROMのイメージは下図のようになります。



- 本機はWMA/MP3/AAC/WAVファイルが記録されたCD-R/CD-RW/CD-ROMの再生に対応しています。ISO9660のレベル1、レベル2、および拡張フォーマット (Joliet, Romeo) に準拠して記録されたディスクが再生可能です。(※ **その他⑥ 138ページ**)
- 本機はマルチセッション (※ **その他⑥ 138ページ**) 方式で記録したディスクの再生に対応しています。

- パケットライト (※ **その他⑥ 138ページ**) には対応していません。
- m3u (※ **その他⑥ 139ページ**) のプレイリストには対応していません。
- MP3i (MP3 interactive) フォーマット、およびMP3 PROフォーマットには対応していません。
- ファイル名の最大表示文字数は、拡張子 (.mp3, .wma, .m4a, .wav) を含めて半角で64文字、全角で32文字までです。また、フォルダー名の最大表示文字数は半角で64文字、全角で32文字までです。
- 拡張フォーマット (Romeo) (※ **その他⑥ 138ページ**) に準拠して記録されたファイルの場合、半角で先頭から64文字、全角で先頭から32文字までの表示に対応しています。
- 再生などの操作でフォルダーが選択される順番は、ライティングソフトで書き込まれた順番になります。ただし、ライティングソフトによっては、再生の順番を設定できるものもあります。
- 曲間 (トラック間) にブランクがないCDを、WMA/MP3/AAC/WAVファイルとしてCD-R/CD-RW/CD-ROMに記録して再生した場合、曲間が音飛びしたように聞こえます。

メモ

- フォルダー番号は本機が割り当てます。お客様が割り当てることはできません。
- CD-R、CD-RW、CD-EXTRA、MIXED-MODE CDディスクに、WMA/MP3/AAC/WAVファイルと音楽データ (CD-DA) が混在しているときは、WMA/MP3/AAC/WAVファイルと、音楽データ (CD-DA) を切り換えることができます (※ **ここだけで④ 25ページ**)。WMA/MP3/AAC/WAVファイルと、音楽データ (CD-DA) を切り換えた場合、再生は一番先頭の曲から始まります。
- WMA/MP3/AAC/WAVファイルを含まないフォルダーは認識しません。(フォルダー番号を表示せず、スキップします。)
- 8階層までのWMA/MP3/AAC/WAVファイルの再生に対応しています。ただし、多くの階層を持つディスクは、再生が始まるまでに時間がかかります。ディスク作成時には、階層を2つ以下にすることをおすすめします。
- ディスクに含まれるフォルダーの合計が99個まで再生可能です。

WMA とは？

- 「Windows Media™ Audio」の略で、米国 Microsoft Corporation によって開発された音声圧縮技術です。WMA データは、Windows Media Player Ver. 7以降を使用してエンコードすることができます。(※ **その他 ⑥ 139 ページ**)

ご注意

WMA ファイルをエンコードしたアプリケーションによっては、正常に動作しないことがあります。

WMA ファイルをエンコードした Windows Media Player のバージョンによっては、アルバム名などの文字情報が正しく表示されないことがあります。

画像データを含む WMA ファイルを再生する場合、再生が始まるまでに時間がかかることがあります。

再生できる WMA ファイルについて

ご注意

WMA ファイルに名前を付けるときは、ファイル名のあとに拡張子 (.wma) を付けてください。

本機は、拡張子 (.wma) が付いているファイルを WMA ファイルとして再生します。雑音や故障の原因となりますので、WMA ファイル以外には拡張子 (.wma) を付けないでください。

- 再生可能な WMA ファイルのサンプリング周波数は 32/44.1/48 kHz です。
- 一般的に WMA ファイルは、ビットレート (※ **その他 ⑥ 138 ページ**) が高いほど音質は良くなります。本機は、CBR (固定ビットレート) では 48kbps ~ 320kbps、VBR (可変ビットレート) では 48kbps ~ 384kbps のビットレートで記録された WMA ファイルの再生に対応しています。ただし、ある一定の音質で音楽を楽しんでいただくためには、できるだけ高いビットレートで記録されたディスクの使用を推奨します。
- デジタル著作権保護 (DRM) で保護されたファイルを再生したときは、“TRK SKIPPED” と表示され、そのファイルの再生がスキップされます。
- ディスク内のすべてのファイルがデジタル著作権保護 (DRM) で保護されている場合は、“PROTECT” と表示され、そのディスクは再生できません。
- この製品は、下記の形式には対応していません。
 - ・ Windows Media Audio 9 Professional (5.1ch)
 - ・ Windows Media Audio 9 Lossless (可逆圧縮)
 - ・ Windows Media Audio 9 Voice

MP3とは？

- 「MPEG Audio Layer 3」の略で、音声圧縮技術に関する標準フォーマットです。
(※ その他 139ページ)

再生できるMP3ファイルについて

ご注意

MP3ファイルに名前を付けるときは、ファイル名のあとに拡張子(.mp3)を付けてください。

本機は、拡張子(.mp3)が付いているファイルをMP3ファイルとして再生します。雑音や故障の原因となりますので、MP3ファイル以外には拡張子(.mp3)を付けないでください。

- ID3 tag (※ その他 138ページ) の Ver. 1.0/1.1/2.2/2.3/2.4 のアルバム名 (ALBUM TITLEとして表示)、曲名 (TRACK TITLEとして表示)、およびアーティスト名 (ARTIST NAMEとして表示) の表示に対応しています。なお、ID3 tag の Ver. 1.Xと Ver. 2.Xが混在している場合は、Ver. 2.Xが優先されます。
- サンプリング周波数が32/44.1/48 kHzのMP3ファイルを再生する場合のみ、エンファシスに対応します。(なお、再生可能なサンプリング周波数は16/22.05/24/32/44.1/48kHzです。)
- 一般的にMP3ファイルは、ビットレート (※ その他 138ページ) が高いほど音質は良くなります。本機は、8kbps～320kbpsのビットレートで記録されたMP3ファイルの再生に対応しています。ただし、ある一定の音質で音楽を楽しんでいただくためには、128kbps以上のビットレートで記録されたディスクの使用を推奨します。

AACとは？

- 「Advanced Audio Coding」の略で、MPEG2、MPEG4で使用される音声圧縮技術に関する標準フォーマットです。
(※ その他 138ページ)

再生できるAACファイルについて

ご注意

AACファイルに名前を付けるときは、ファイル名のあとに拡張子(.m4a)を付けてください。

本機は、iTunesで作成された拡張子(.m4a)が付いているファイルをAACファイルとして再生します。雑音や故障の原因となりますので、AACファイル以外には拡張子(.m4a)を付けないでください。

画像データを含むAACファイルを再生する場合、再生が始まるまでに時間がかかることがあります。

- AACファイルをエンコードしたiTunesのバージョンによっては、正しく再生されないことがあります。
- 再生可能なAACファイルのサンプリング周波数は、11.025/16/22.05/24/32/44.1/48 kHzです。
- 一般的にAACファイルは、ステレオビットレートが高いほど音質は良くなります。本機は、16kbps～320kbpsのステレオビットレートで記録されたAACファイルの再生に対応しています。ただし、ある一定の音質で音楽を楽しんでいただくためには、できるだけ大きいステレオビットレートで記録されたディスクの使用を推奨します。
- この製品は、下記の形式には対応していません。
・ Apple ロスレス・エンコーダ

WAVとは？

- 「Waveform」の略で、Windows®での標準音声フォーマットです。

(☞ **その他⑥ 139ページ**)

再生できるWAVファイルについて

ご注意

WAVファイルに名前を付けるときは、ファイル名のあとに拡張子(.wav)を付けてください。

本機は、拡張子(.wav)が付いているファイルをWAVファイルとして再生します。雑音や故障の原因となりますので、WAVファイル以外には拡張子(.wav)を付けないください。

- 本機は、LPCM形式およびMS ADPCM形式でエンコードされたWAVファイルの再生に対応しています。
- 本機は、LPCM形式では16/22.05/24/32/44.1/48 kHz、MS ADPCM形式では22.05/44.1 kHzのサンプリング周波数で記録されたWAVファイルの再生に対応しています。
- 表示されるサンプリング周波数の桁は、すべてではないことがあります。
- 一般的にWAVファイルは、量子化ビット数 (☞ **その他⑥ 138ページ**) が大きいほど音質は良くなります。本機は、LPCMでは8/16 bit、MS ADPCMでは4 bitの量子化ビット数で記録されたWAVファイルの再生に対応しています。ただし、ある一定の音質で音楽を楽しんでいただくためには、できるだけ大きい量子化ビット数で記録されたディスクの使用を推奨します。

故障かな?と思ったら

故障かな?と

と思ったら

修理を依頼される前に、次の表の内容をチェックしてください。

チェックしても

直らないときは

本機をリセットしてください。(☞ はじめに⑥ 13 ページ)

それでも

直らないときは

「保証書とアフターサービス」(☞ その他⑥ 137 ページ)をお読みになり、修理を依頼してください。

共通項目

症状	原因	処置
電源が入らない。 動作しない。	各リード線やコネクターが正しく接続されていない。	正しく確実に接続されているかどうか、もう一度確認してください。(☞ 取付説明書)
	ヒューズが切れている。	ヒューズが切れた原因を解決し、切れたヒューズと同じ容量のものと交換してください。(☞ 取付説明書)
音が出ない。 音が小さい。	音量を下けている。	音量を上げてください。 (☞ ここだけで②~⑤ 22~29 ページ)
	アッテネーターがONになっている。	アッテネーターを解除してください。 (☞ 便利な機能① 112 ページ)
	前後の音量バランスの調節が適切でない。	正しく調節してください。 (☞ 内蔵 DSP ④ 76 ページ)
前または後ろのスピーカーから音が出ない。	前後の音量バランスの調節が適切でない。	正しく調節してください。 (☞ 内蔵 DSP ④ 76 ページ)
左または右のスピーカーから音が出ない。	左右の音量バランスの調節が適切でない。	正しく調節してください。 (☞ 内蔵 DSP ④ 76 ページ)
音量が自動的に変化する。	ASL がONになっている。	ASL を解除してください。 (☞ 内蔵 DSP ⑤ 87 ページ)
ディスプレイが反転表示する。	リバースモードがONになっている。	リバースモードを解除してください。 (☞ 便利な機能⑳ 125 ページ)
電源をOFFにしても映像が出ている。	フィーチャーデモがONになっている。	フィーチャーデモを解除してください。 (☞ 便利な機能⑩ 124 ページ)
ディスプレイ表示がおかしい。	エンタテインメント表示が設定されている。	お好みの表示を選んでください。 (☞ 便利な機能⑤ 114 ページ)
フロントパネルが閉まらない。	AUX1/マイク入力端子に何か接続されている。	AUX1/マイク入力端子に何か接続されている状態では、フロントパネルを開めることはできません。接続されているものを一度取り外してください。

共通項目

症状	原因	処置
エンジンを切ったら警告音が鳴る。	デタッチワーニングがONになっている。	フロントパネルを取り外してください。 フロントパネルを取り外さない場合は、デタッチワーニングをOFFにしてください。 (☞ 便利な機能⑨ 117ページ)
エンジンを切ったらフロントパネルが自動で開く。	フェイスオートオープンがONになっている。	フロントパネルを取り外してください。 フロントパネルを取り外さない場合は、フェイスオートオープンをOFFにしてください。 (☞ 便利な機能⑩ 118ページ)

メモ

- 別売の5.1ch対応・DSPユニットを接続している場合は、DSPユニットの取扱説明書をご覧ください。

ラジオ

症状	原因	処置
ラジオの受信中、“ジージー、ザーザー”という雑音が多い。	放送局の周波数が合っていない。	周波数を正しく合わせてください。 (☞ ここだけで④ 27ページ)
	放送局の電波が弱い。	他の放送局を選局してみてください。 (☞ ここだけで④ 27ページ)
	周りに障害物があるなど、受信状態が良くない。	受信状態が良くなると、雑音が少なくなります。
自動選局できない。	放送局の電波が弱い。	手動で選局してください。 (☞ ここだけで④ 27ページ)

CD、WMA/MP3/AAC/WAV

症状	原因	処置
CD再生中、大きな雑音が出る。	CDに大きなキズやそりがある。	他のCDに交換してください。良くなれば、CDの不良です。
CDの再生が途中で止まる。 CDを再生できない。	CDが極端に汚れている。	CDの汚れをふき取ってください。 (☞ その他① 129ページ)
	CDにくもりや水滴が付いている。	CDのくもりや水滴をふき取ってください。 (☞ その他① 129ページ)
	CDの裏表を逆にセットしている。	CDのタイトル面を上にしてセットしてください。 (☞ ここだけで② ③ 22、24ページ)
CDを再生できない。 CDを取り出せない。	本機がディスクを認識していない。	フロントパネルを開けた状態で、▲ボタンを2秒以上押し、ディスクを取り出すことができます。 もう一度、入れ直してください。

こんなメッセージが表示されたら

CD、WMA/MP3/AAC/WAVのエラー表示

メッセージ(エラー番号)	原因	処置
「ERROR-10」「ERROR-11」 「ERROR-12」「ERROR-15」 「ERROR-17」「ERROR-30」 「ERROR-50」「ERROR-A0」	電気系、機構系の故障が考えられる。	車のエンジンスイッチを一度OFFにしてからONにするか、CD再生を一度やめてから、もう一度CD再生にしてください。
「ERROR-11」「ERROR-12」 「ERROR-17」「ERROR-30」	CDが汚れている。	CDの汚れをふき取ってください。 (※ その他 129 ページ)
	CDにキズやひびがある。	CDを交換してください。
「ERROR-12」「ERROR-15」 「ERROR-17」	CD-R/CD-RWを録音しないまま使用している。	CD-R/CD-RWは録音してからお使いください。
「ERROR-23」	再生できないフォーマットのCD-ROMを挿入した。	CDを交換してください。
「No Audio」	何も録音されていないCD-ROMを挿入した。	WMA/MP3/AAC/WAVファイルの記録されているCD-ROMと交換してください。
「TRK SKIPPED」	デジタル著作権保護(DRM)で保護されたWMAファイルを再生した。	デジタル著作権保護(DRM)で保護されていないファイルを再生してください。
「PROTECT」	ディスク内のすべてのファイルがデジタル著作権保護(DRM)で保護されている。	CDを交換してください。

メモ

- マルチCD再生中に、上記以外のエラーメッセージが表示されたときは、マルチCDの取扱説明書をご覧ください。

オートイコライジングのエラー表示

メッセージ	原因	処置
「AUX1/マイクを取外して下さい」	AUX1/マイク入力端子に何かか接続されている。	AUX1/マイク入力端子から2.5mmステレオ超ミニプラグやマイクを取り外してください。
「マイク エラー」	マイクが接続されていない。	付属の音響特性測定用マイクをきちんと差し込んでください。 (※ 内蔵DSP 91 ページ)
「フロントレフト SP エラー」 「フロントライト SP エラー」 「フロント SP エラー」 「センター SP エラー」 「リアレフト SP エラー」 「リアライト SP エラー」 「サブウーファー エラー」	スピーカーの計測音がマイクで拾えない。	ソースを切り換えて、スピーカーから音が出るか確認してください。音が出ない場合は、スピーカーリード線の接続を確認してください。 (※ 取付説明書)
		付属の音響特性測定用マイクを正しくセットしてください。
「騒音大きすぎます」	周囲の騒音レベルが高すぎる。	なるべく静かなところに車を停車し、車のエンジン、およびエアコンやヒーターを止めてください。
		なるべく静かなところに車を停車し、車のエンジン、およびエアコンやヒーターを止めてください。
		付属の音響特性測定用マイクを正しくセットしてください。

保証書

保証書は、ご購入年月日、販売店名などが記入されていることをお確かめのうえ、ご購入の際に販売店より受け取ってください。

保証書に記入もれがあったり、保証書を紛失したりすると、保証期間中でも保証が無効となります。記載内容をよくお読みのうえ、大切に保管してください。

保証期間

この製品の保証期間は、お買い上げの日より1年間です。

保証期間中の修理について

万一、故障が生じたときは、保証書に記載されている当社保証規定に基づき修理いたします。お買い上げの販売店または修理受付センター（沖縄県のみ沖縄サービスステーション）にご連絡ください。所在地、電話番号は本機に付属の「ご相談窓口・修理窓口のご案内」をご覧ください。

保証期間経過後の修理について

お買い上げの販売店または修理受付センター（沖縄県のみ沖縄サービスステーション）にご相談ください。修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

補修用性能部品の最低保有期間

当社は、本機の補修用性能部品を、製造打ち切り後最低6年間保有しています。（性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。）

ご質問、ご相談は

本機に関するご質問、ご相談はパイオニアカスタマーサポートセンターまたはお買い上げの販売店にお問い合わせください。

ドルビープロロジックII

ドルビープロロジックIIは、2チャンネル信号を5.1チャンネルに拡張することができます。CDのような通常のステレオ音楽でも立体音場効果、包囲感、より明確な定位感を実現します。



パケットライト

フロッピーディスクやハードディスクと同じように、必要なファイルを必要な時点で、CD-Rなどに書き込む記録方式の総称です。

ビットレート

1秒当たりの情報量を表し、単位はbps (bit per second) です。この数字が大きいほど、音楽を再現するために多くの情報を持つことになるため、同じ符号化方式 (MP3など) での比較では、一般的に数字が大きい方が良い音となります。(MP3とWMAのように、異なる符号化方式の場合、単純な比較はできません。)

マルチセッション

マルチセッションは、データの追加ができる記録方式です。CD-ROM、CD-R、およびCD-RWにデータを記録するとき、その記録の始めから終わりまでをひとまとめにした単位をセッションといいます。マルチセッションとは、1枚のディスクに2つ以上のセッションデータを記録する方法のことです。

リニアPCM (LPCM)

音楽CDに用いられている信号記録方式で、「Linear Pulse Code Modulation」の略です。音楽CDは、44.1 kHz/16 bitで記録されています。

量子化ビット数

量子化ビット数は、音質を定義する要素の1つです。この数が大きいほど、音質が良くなります。ただし、量子化ビット数が大きくなるほどデータサイズが大きくなるため、より多くの記憶容量が必要となります。

AAC

「Advanced Audio Coding」の略で、MPEG2、MPEG4で使用される音声圧縮技術に関する標準フォーマットです。

ID3 tag

曲の関連情報をMP3ファイルの中に埋め込む方式です。埋め込むことのできる情報には、曲名、アーティスト名、アルバム名、ジャンル、製作年、コメントなどがあります。この内容はID3 tag編集機能のあるソフトを利用して自由に編集できます。通常は文字数などに制限がありますが、曲の再生時に情報を見ることができるようになっています。

ISO9660 フォーマット

CD-ROMのファイルおよびフォルダーに関する論理フォーマットの国際基準です。ISO9660フォーマットには、次のようなレベルに関する規制があります。

レベル1:

ファイル名は、8.3形式(名前は半角英文大文字と半角数字、“_”で8文字以下、拡張子は3文字)

レベル2:

ファイル名は、最大31文字(区切り文字、“.”と拡張子を含む)で、各フォルダーの階層は8つ以下

拡張フォーマット

Joliet:

ファイル名は、最大で64文字

Romeo:

ファイル名は、最大で128文字

iTunes

米国および他の国々で登録された Apple Computer, Inc.の商標です。

m3u

プレイリストファイルの拡張子 (.m3u) で、「WINAMP」というソフトで作成したプレイリストに付きます。

m4a

AACファイルに付属される拡張子の一つです。iTunesでエンコード可能です。

MP3 (エムピースリー)

「MPEG Audio Layer3」の略で、ISO (国際標準化機構) のワーキンググループ (MPEG) が定めた音声圧縮の規格です。MP3は、音声データを元のデータの約 1/10 のサイズに圧縮することができます。

MS ADPCM

「Microsoft adaptive differential pulse code modulation」の略で、米国 Microsoft Corporation のマルチメディア・ソフトウェアで使用される信号記録方式です。

VBR (バイビーアール)

「Variable Bit Rate (可変ビットレート)」の略です。一般的には CBR (固定ビットレート) が多く使われていますが、音声圧縮では圧縮状況に合わせてビットレートを可変にすることで、音質を優先した圧縮が可能となります。

WAV

「Waveform」の略で、Windows®での標準音声フォーマットです。

WMA (ダブルユーエムエー)

「Windows Media™ Audio」の略で、米国 Microsoft Corporation によって開発された音声圧縮技術です。WMA データは、Windows Media Player Ver. 7以降を使用してエンコードすることができます。

Microsoft、Windows Media、Windows のロゴは、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

■ オーディオ/DSP部

最大出力 : 50 W × 4
 定格出力 : 22 W × 4
 (50 Hz ~ 15 000 Hz、5 % THD)

負荷
 インピーダンス : 4 Ω
 (4 Ω ~ 8 Ω 使用可能)

プリアウト
 最大出力レベル : 2.2 V
 出力
 インピーダンス : 1 k Ω

ラウドネス
 コントラ : 10 dB (100 Hz)
 6.5 dB (10 kHz)
 (ボリューム : -30 dB)

イコライザー
 (13バンド
 グラフィック
 イコライザー) : 周波数 (F + R + SW) :
 50/80/125/200/
 315/500/800/1.25k/
 2k/3.15k/5k/8k/
 12.5k Hz
 調整幅 : ± 12 dB (2 dB)

オート
 イコライザー : 周波数 (F + R + SW) :
 50/80/125/200/
 315/500/800/1.25k/
 2k/3.15k/5k/8k/
 12.5k Hz
 調整幅 : - 12 dB ~ +6 dB (2 dB)

ハイパス
 フィルター : 周波数 (F + R) :
 50/63/80/100/
 125/160/200 Hz
 スロープ :
 - 12、- 6、0 (Pass) dB/oct.
 調節幅 :
 - 24 dB ~ 0 dB/Mute (1 dB)

ローパス
 フィルター : 周波数 (SW) :
 50/63/80/100/
 125/160/200 Hz
 スロープ :
 - 18、- 12、- 6 dB/oct.
 調節幅 :
 - 24 dB ~ +6 dB (1 dB)
 位相 : NORMAL/REVERSE

■ CD プレーヤー部

形式 : コンパクトディスク
 オーディオシステム

使用ディスク : コンパクトディスク
 信号

フォーマット : サンプリング周波数 : 44.1 kHz
 量子化ビット数 : 16ビット直線

周波数特性 : 5 Hz ~ 20 000 Hz (± 1 dB)
 S/N : 99 dB (1 kHz)
 (IHF-A ネットワーク)

ダイナミック
 レンジ : 95 dB (1 kHz)

チャンネル数 : 2 (ステレオ)

MP3

デコーディング

フォーマット : MPEG-1 & 2 Audio Layer-3

WMA

デコーディング

フォーマット : Ver. 7、7.1、8、9、10、11
 (2ch AUDIO)
 (Windows Media Player)

AAC

デコーディング

フォーマット : MPEG-A AAC
 (Ver. 7.2以前のiTunesでエン
 コードされたもののみ)

WAV

シグナル

フォーマット : リニアPCM、MS ADPCM

■ FM チューナー部

受信周波数帯域	: 76.1 MHz ~ 89.9 MHz
実用感度	: 8 dBf (0.7 μ V/75 Ω 、 モノラル、S/N : 30 dB)
S/N	: 75 dB (IHF-A ネットワーク)
高調波歪率	: 0.3 % (65 dBf 入力、1 kHz、ステレオ) 0.1 % (65 dBf 入力、1 kHz、モノラル)
周波数特性	: 30 Hz ~ 15 000 Hz (\pm 3 dB)
ステレオ	
セパレーション	: 45 dB (65 dBf 入力、1 kHz)

■ AM チューナー部

受信周波数帯域	: 522 kHz ~ 1 629 kHz (9 kHz)
実用感度	: 18 μ V (S/N : 20 dB)
S/N	: 65 dB (IHF-A ネットワーク)

■ 共通部

使用電源	: DC 14.4 V DC (10.8 V ~ 15.1 V 使用可能)
アース方式	: マイナスアース方式
最大消費電流	: 10.0 A
外形寸法	
(取付寸法)	: 178 (W) \times 50 (H) \times 166 (D) mm
(ノーズ寸法)	: 170 (W) \times 45 (H) \times 15 (D) mm
質量	: 1.6 kg (コードユニット含まず)

■ 付属品

コードユニット	: 1
AUXケーブル	: 1
取付ネジ類	: 1 式
フェイスパネル	
ケース	: 1
音響特性測定用	
マイク	: 1
リモコン	: 1
リチウム電池	
(CR2025)	: 1
取扱説明書	: 1
取付説明書	: 1
安全上のご注意	: 1
保証書	: 1
ご相談窓口・	
修理窓口のご案内	: 1

メモ

- 上記の仕様および外観は予告なく変更することがあります。また、この説明書の中のイラストと実物が、一部異なる場合があります。

<各窓口へのお問い合わせ時のご注意>

市外局番「0070」で始まる ☎ フリーフォン、および「0120」で始まる ☎ フリーダイヤルは、PHS、携帯電話などからはご使用になれません。また、【一般電話】は、携帯電話・PHSなどからご利用可能ですが、通話料がかかります。

ご相談窓口のご案内

パイオニア商品の修理・お取り扱い(取り付け・組み合わせなど)については、お買い求めの販売店様へお問い合わせください。

商品についてのご相談窓口 ● 商品のご購入や取り扱い、故障かどうかのご相談窓口およびカタログのご請求窓口

カスタマーサポートセンター (全国共通フリーフォン)

受付時間 月曜～金曜 9:30～18:00、土曜・日曜・祝日 9:30～12:00、13:00～17:00 (弊社休業日は除く)

● カーオーディオ／カーナビゲーション商品

電話 ☎ **0070-800-8181-11** 【一般電話】 **03-5496-8016**

ファックス **03-3490-5718**

インターネットホームページ <http://pioneer.jp/support/>

※商品についてよくあるお問い合わせ・メールマガジン登録のご案内・お客様登録など

修理窓口のご案内

修理をご依頼される場合は、取扱説明書の「故障かな?と思ったら」を一度ご覧になり、故障かどうかご確認ください。それでも正常に動作しない場合は、① 型名、② ご購入日、③ 故障症状を具体的にご連絡ください。

修理についてのご相談窓口 ● お買い求めの販売店に修理の依頼ができない場合

修理受付センター (沖縄県を除く全国)

受付時間 月曜～金曜 9:30～19:00、土曜・日曜・祝日 9:30～12:00、13:00～18:00 (弊社休業日は除く)

電話 ☎ **0120-5-81028** 【一般電話】 **03-5496-2023**

ファックス ☎ **0120-5-81029**

インターネットホームページ <http://pioneer.jp/support/repair.html>

※インターネットによる修理受付対象商品は、家庭用オーディオ／ビジュアル商品に限ります

沖縄サービスステーション (沖縄県のみ)

受付時間 月曜～金曜 9:30～18:00 (土曜・日曜・祝日・弊社休業日は除く)

電話 【一般電話】 **098-879-1910**

ファックス **098-879-1352**

部品のご購入についてのご相談窓口 ● 部品(付属品・リモコン・取扱説明書など)のご購入について

部品受注センター

受付時間 月曜～金曜 9:30～18:00、土曜・日曜・祝日 9:30～12:00、13:00～18:00 (弊社休業日は除く)

電話 ☎ **0120-5-81095** 【一般電話】 **0538-43-1161**

ファックス ☎ **0120-5-81096**

パイオニア株式会社

〒153-8654 東京都目黒区目黒 1-4-1

© パイオニア株式会社 2007

< KMIZX > < 07K00000 > < CRA4140-A/N >